

国立国語研究所学術情報リポジトリ

全国方言談話データベース 日本のふるさとことば
集成：第14巻 鳥取・島根・岡山

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002254

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第14巻 鳥取・島根・岡山

国立国語研究所資料集 13-14

国立国語研究所

2004

国書刊行会

刊行のことは

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

独立行政法人
国立国語研究所長 杉 戸 清 樹

利用にあたって

1. 内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

鳥取県米子市1984

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【骨董品の話】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳pdf+方言音声wave(ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

島根県仁多郡仁多町1980

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【農作業，子どもの頃，夏祭り】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳pdf+ 方言音声wave(ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

岡山県小田郡矢掛町1979

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【農業と天候】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳pdf+ 方言音声wave(ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		

各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	
----------------------	--	---	--

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz, 量子化ビット数16bit,
wave ファイル, ステレオ

CD-ROM は、CD プレイヤーで再生しないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては、個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には、現在では、その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが、学術的・歴史的資料の保存という観点から、そのまま収録しました。この点に御配慮のうえ、お使いください。

2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータは、どのような目的においても、また、どのような媒体（紙、電子メディア、インターネットを含む）によっても、他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータは、非営利の教育・研究目的に限り、自由に利用できます。ただし、上記(2)は守ってください。
- (4) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータを利用した成果物を

公表する場合は、

「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように、明記してください。

あわせて、成果物を国立国語研究所に御寄贈いただければさいわいです。

- (5) 以上の利用条件に合致しない場合、あるいは、利用について不明な点がある場合は、国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒190-8561

東京都立川市緑町3591- 2

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：042-540-4339

4. 付記

データの電子化, CD-ROM, CD の作成については, 平成9(1997)～17(2005)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース)の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-14

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第14巻 鳥取・島根・岡山

目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
 I. 鳥取県米子市1984	11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	18
談話	23
【骨董品の話】	24
注記	38
 II. 島根県仁多郡仁多町1980	41
地図	42
話者・担当者	43
解説	44
凡例	48
談話	53
【農作業，子どもの頃，夏祭り】	54
注記	129

Ⅲ. 岡山県小田郡矢掛町1979	135
地図	136
話者・担当者	137
解説	138
凡例	146
談話	151
【農業と天候】	152
注記	238
作成・公開の経緯	243
「各地方言収集緊急調査」について	245
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	249
「各地方言収集緊急調査」地点地図	254
各地方言収集緊急調査補助全体計画	255
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	256
各地方言収集緊急調査実施要領	257
各地方言収集緊急調査の実施について	260
調査実施上の留意事項について	262
「全国方言談話データベース」について	268

I. 鳥取県米子市

1984

鳥取県米子市



鳥取県米子市1984話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	高橋 博之
	山根 政子
収録担当者	前川 喜久雄

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

解説担当者	都染 直也 ※
	都染 美晴 ※
文字化担当者	都染 直也 ※
	都染 美晴 ※
共通語訳担当者	都染 直也 ※
	都染 美晴 ※
編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	都染 直也
	都染 美晴
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

※ 解説、文字化・共通語訳は、「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに、「全国方言談話データベース」の公開にあたって、新たに作成した。

鳥取県米子市1984解説

収録地点名

とっとりけんよな ご し おおしの づちよう
鳥取県米子市大篠津町

収録地点の概観

位置

米子市は鳥取県の西北に位置し、鳥根県^{やす ぎ し}安来市に接する。南には西日本最高峰の大山^{だいせん}（1,729m）がある。大篠津町は米子市の弓浜半島^{ゆみがはま}の中ほどにあり、東は日本海に面している。また、米子市の最北端として境港市^{さかいみなとし}と接する。

交通

米子市と境港市にまたがって米子空港があり、東京などへの直行便がある。山陰本線・伯備線・境港線が通り、鳥取・松江・岡山に特急列車が走る。最近では高速道路が整備され、文字どおり山陰の交通の要衝となっている。大篠津町には境港線大篠津駅があり、米子空港の最寄駅となっている。

地勢

大篠津町のある弓浜半島は、砂の堆積によってできた砂嘴^{さし}であり、土壌は砂地である。東に日本海、西に中海がある。

行政区画

1889(明治22)年、鳥取県^{あい み ぐん}会見郡大篠津村、1896(明治29)年、西伯郡^{さいはくぐん}大篠津村、1954(昭和29)年、米子市大篠津町となる。

戸数・人口

1975(昭和50)年現在、米子市大篠津町の世帯数は687戸、人口は2,433人である。

産業

米子市は商業都市であるが、大篠津町は農業が中心である。かつては畑地の多くが桑畑となるほど養蚕業が盛んであったが、近年は近郊作物の生産を主とする。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

鳥取県は、大きく「中国方言地域」と「雲伯方言地域^{うんぱく}」とに分かれ、県西部に位置する伯耆地域^{ほうぎ}の西部が雲伯方言地域にあたる。米子市は雲伯方言地域に属する。隣接方言との関係では、米子地域は、南の岡山方言、西の広島方言の影響が見られる。

音韻

- (1) 「イ」と「ウ」の中間的な音（中舌母音）がある。

ズドーシャ（自動車）

- (2) 「イ」は「エ」と発音されることが多い。

エッテ（言って）

- (3) 拗音「ジュ」が「ズ」となる。

ズローズン（寿老人）

- (4) 中舌母音の影響で、「キ」は、「ク」と「シ」をあわせたような「チ」に近い音になる。

オキモン（置物）

- (5) 「セ」が「シェ」, 「ゼ」が「ジェ」となる。

シェ（背）

ジェニ（銭）

- (6) 語中語尾の [ɾ] 音, 特に「リ」「ル」の [ɾ] が脱落する。

フックーカエッタ（ひっくりかえった）

アー（ある）

- (7) 連母音「アウ」が「アー」となる。

カー（買う）

文法

- (1) 「行った」は「イキタ」となり、促音便にならない。

イキタダケン（行ったから）

- (2) 打消には「ン」「ヘン」がある。

カワンデモ（買わなくても）

スエヘンダケン（据えないから）

- (3) 引用の助詞「と」が抜ける。

アッタ ユーテ (あった [と] 言って)

- (4) 理由を表す「から」が、断定辞「ダ」を含む「ダケー」「ダケン」となる。

タテナオシャ イケンダケー (建てなおさないといけないから)

イキタダケン (行ったから)

イーダケン (いいから)

- (5) 文末詞「ジェ」は、共通語の「よ」に相当する。

コノ コットーシンワ イージェ (この骨董品はいいよ)

- (6) 尊敬語に「ナサル」「サル」「テ」がある。

モツテアガーナサッタラ (持ってあがられたら)

タテンサッタ (お建てになった)

マエニン クテダケンナー (毎年来られるからね)

語彙

次のような特徴的な語彙が用いられる。

- (1) スコ (様子, 具合)

- (2) エヌ (帰る)

エンデダッタガナ (帰りなさったよ)

- (3) ゴス (くれる, ～てくれる)

ゴエテ (くれて)

ミテゴスナサエ (見てください)

- (4) ゴザル (いらっしゃる, 来られる, ～いらっしゃる, ～おられる)

オキヤクサンガ ゴザッテモ (お客さんが来られても)

イッショーケンメデ ヤッテゴザーケン

(一生懸命にやっておられるから)

- (5) モヤウ (似合う, 釣り合う)

モヤッタ モンオ (似合ったものを)

- (6) エナゲナ (変な, 怪しい)

エナゲナ モンナー (怪しげなものなら)

(7) ジャン (たくさん)

ジャンコト コッサエタ (たくさんこしらえた)

(8) ワテ (ずつ)

フトツワテ (一つずつ)

(9) キャ 〈間投詞的なもの〉

キャー、 カガミミター (ほら、鏡みたいに)

〈以上の解説は、「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに、「全国方言談話データベース」の公開にあたって、新たに作成した。〉

鳥取県米子市1984凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタんだナー↓

よく やったんだなあ。

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

///

〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんです。

[]

〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

=

〈全角〉

[] 内の＝は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| |

〈全角〉

注意書きなど。

例：| A に対して |

[]

〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある「再生」の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「鳥取01-1」は CD トラック番号が01で、その1ページ目ということである。「鳥取01-1」「鳥取01-2」……「鳥取01-5/02-1」……「鳥取03-5」の

ように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑01, 01↑02, ………03↑のように表示される。

第14巻のCD（68分16秒）には、鳥取県米子市の談話、【骨董品の話】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラック No.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p. 24・ℓ . 1	p. 28・ℓ . 19	0:02:01
02	p. 29・ℓ . 1	p. 33・ℓ . 9	0:01:52
03	p. 33・ℓ . 11	p. 37・ℓ . 5	0:01:35
計			0:05:28

鳥取県米子市1984談話

収録地点 とっとりけんよなごし おおしの づちよう
鳥取県米子市大篠津町

収録日時 1984(昭和59)年

収録場所 鳥取県米子市大篠津町

話題 骨董品の話

話者

A	女	1903(明治36)年	(収録時81歳)
B	男	1920(大正9)年	(収録時64歳)

調査者

男	(収録談話中に発話なし)
---	--------------

収録時間 (CD) 5分28秒

【骨董品の話】

話し手

A 女 1903(明治36)年生 (収録時81歳)

B 男 1920(大正9)年生 (収録時64歳)

1 A: コットー、 イエ タテテー (B フン)

骨董、 家[を] 建てて (B うん)

↑01

アタース ナッタ トコーガ

新しく なった ところが

アエ ドコカラ クーラーカ コットーヤガ。

あれ どこから 来るんだろうか 骨董屋が。

2 B: ヨナゴカラ クーラカ。

米子から 来るのか。

3 A: インヤ。 トイ トコカラ ズドーシャデ (B ハー ハー)

いや。 遠い ところから 自動車で (B はあ はあ)

ソゲスター コットーシンオーナー (B ウン)

そうしたら 骨董品をね (B うん)

カッター (B ウン)

買って (B うん)

サエショワ ダエコクサンノ カッター

最初は 大黒天の[置物を] 買って

4 B : アー オキ オキモン〔1〕カ。

ああ ×× 置物か。

5 A : ンー オキモンオ。 (B ウン ウン)

うん 置物を。 (B うん うん)

ソガスタラ コットーヤサンガ マー ミテゴスナサエ ソーヨー
そうしたら 骨董屋さんが 「まあ 見てください それより

コノ コットーシンワ イージェ アノ テッテー (B ハー)
この 骨董品は いいよ」 あの と言って (B はあ)

マタ ソトカラ モッテアガーナサッタラ (B ハー)
また 外から 持ってあがられたら (B はあ)

ワス アノ ワガ イー コトニヤ (B ンー)
×× あの 私が [息子に]言う ことには (B うん)

ソガニ アバカサエテ〔2〕 マタ ソガナ
「そんなに だまされて [=口車に乗せられて] また そんな

イー ヤツ カワンデモ ソーデ ジョートーラ
いい もの[を] 買わなくても それで 上等だ」

テ イーニ トント オックナ イー ヤツト
と 言うのに すっかり 大きな いい ものと

カエテムラッタガナ。 (B ハー)
換えてもらったよ。 (B はあ)

鳥取 01-3

コットーヤサンニ ジェニ アゲスト
「骨董屋さんに お金[を] あげないで

オマエワ コットー カッター
あなたは 骨董[を] 買って」

ココノ オヤジ[3]ニ ダマ ダマサエテ カネ
「この 主人に ×× だまされて お金[を]

ムライナサランダ テ イッター (B ハー)
お受け取りにならなかった」 と [骨董屋に]言ったら (B はあ)

オーバーサン イーデスジェ ッテ (B ハー)
「おばあさん いいですよ」 と (B はあ)

ソガ エッテ カエッテダッタガナ。 (B アー)
そう 言って お帰りになったんだよ。 (B ああ)

ソゲスター アークートスノ ハル クテ (B ウン)
そうしたら あくる年の 春[に] 来て (B うん)

アラ マタ オイデタカー コットーヤサン
「あら また いらっしゃったか 骨董屋さん

タオサエテモ マタ クタラカナ テ イッター
踏みたおされても また 来たのかな」 と 言ったら

(B フン) ハハハー オクッテムラッタヨ ッテ
(B うん) 「ははは 送ってもらったよ」 と

ソガ (B ハ) イッチョッテダッタカ
そう (B はあ) 言っていっちゃったか。

6 B : ナンカ、ジェニワ ホンナー オクッタラ アトデ。
なにか、お金は それなら 送ったんだ あとで。

7 A : ノーキョーカラ オクッタスコダ[4]ジェ。
農協から 送ったそうだよ。

8 B : アエー ソゲカ。
あれ そうか。

9 A : ヨー アゲニ コットーシンニ スイチョーワイナー。
よく あんなに 骨董品に[=を] 好いているよね。

10 B : ソガ イッテ マー イエガ リッパ ナッタラケン
そう 言って[も] まあ 家が 立派[に] なったから

ツ ツット ナンゾ オカニャー イエバッカー タッテーナー
× ちょっと なにか 置かないと 家ばかり 建ってもね

オ オイタッテ アー。
× 置いたって ああ。

11 A : ドーグオ カーニ スイタ オトコラワ アノ
道具を 買うのに[=が] 好きな 男だよ あの

12 B : ソーデ マタ モヤッタ モンオ マタ ヤーニャ
それで また 似合った ものを また やらないと

鳥取 01-5

イエワ ルッパ ナッタワ ナカワ ナンダ ニャーデワ
家は 立派[に] なったは 中は なんにも ない[は]では

マタ ナー ウツランガナ。(A シ マーナ ソヤ ソー)
また ねえ 映えないよ。(A うん まあね それは そう)

ヤッパー ソエ モヤッタヤナ モンオ ヤラニャー
やっぱり それ 似合ったような ものを やらなければ

カエッテ アゲステ コラ ホンットノ モンダーガ
かえって ああして これは 本当の ものだから

ツカマシユー モンダヤラ。
つかませる ものだから。

13A：サーナ。 ソーダ イッテ マエニン クテダケンナー。
さあね。 そうだ [と]言って 毎年 来られるからね。

14B：シー。 シ イナゲナ ムンワ モツテクヤ ヘンワナー。
うん。 × 怪しげな ものは 持てきは しないよね。

ソーナヤ。 アー
そうだな。 ああ

15A：ニド サンドワナー。 エッペン
二度 三度はね。 一度

16B：ソゲラレー。 エナゲナ モンナー イッペンキリダワヤイ。
そうだよ。 怪しげな ものなら 一度きりだよ。

01↑

鳥取 02-1

アゲナガ アーダケン。 アノー エナゲナ
あんなのが あるから。 あの 怪しげな[ものを]

↑02

モッテ アルク ヤツワナー (A ハー)
持って 歩く ものはね (A はあ)

イッペン イキタ トコワ ニドト イカヘンダッテ
一度 行った ところは 二度と 行かないんだって

ソゲナワ。 (A ソーカー)
そんなのは。 (A そうか)

カエッテ マエトス クー テユー コトナヤナー。
かえって 毎年 来る という ことだな。

(A ウン) ンー。
(A うん) うん。

17A: ワガ エー コトニヤ (B フンー)
私が 言う ことには (B うん)

アンマー タキヤーガナ ッテ イッター {笑}
「あんまり 高いよ」 と [骨董屋に]言ったら {笑}

オーバーサン ソガナ コト エーモンダカナ。
「おばあさん そんな こと[を] 言うもんじゃないよ。

コーモ オーバーサンガ アゲーケン
これも おばあさんが[=に] あげるから

鳥取 02-2

オマケニ アゲーワ ッテ
おまけに あげるよ」 と[言って]

アノ ナガ アタマノ ナガエ スローズンサン[5]ト
あの ×× 頭の 長い 寿老人と

(B ウン ウン ウン ウン) スカトー (B ウン)
(B うん うん うん うん) 鹿とを (B うん)

ゴエテ エンデダッタガナ。
くれて 帰りなされたよ。

18B：ホー ソゲカー。(A ハー)
ほう そうか。(A はあ)

キャー、 ソヤ マー *** ソガナー
ほら それは まあ *** そんな

マタ カザッテキャ マタ (A {笑}) {笑}
また 飾っておけば また (A {笑}) {笑}

フヤガ マター ルッパ ナッテ イワヤー。(A ハエ)
部屋が また 立派[に] なって いいよ。(A はい)

ハー オキヤクサンガ ゴザッテモ
はあ お客様が 来られても

アイーキョー[6] イエワ イーヤ タテンサツタラエッテ
「まあまあ 家は いいよう[に] お建てになったけれども

鳥取 02-3

ナントー Aガ トコデワ ナーンド ナテ
なんと Aの ところでは なんにも なくて

ガラント シチョーワ ッテイッテ イワエヨーモ
ガラんと しているよ」 と 言われるよりも

ナントー。
なんと。

19A：ハズメワ ナンダー ナエテ (B ウン)
初めは なんにも なくて (B うん)

ザエモクヤサंगा (B ウン) スナヤキノ (B ハー)
材木屋さんが (B うん) 支那焼きの (B はあ)

オーックナ ワガ オーカタ シェモ アー ソガナ。
大きな 私の ほとんど 背[丈ほど]も ある そんな。

ココエ クテミヤ アノ ナンダス トコノマニ ナイケン
「ここへ 来てみれば あの なんにも 床の間に ないから

コオー テッテ (B ツボカー)
これを」 と言って (B 壺か)

ツボー モラッタ[7]ガナー。 (B フーン)
壺を もらったよね。 (B ふうん)

イマ ソノ ツボガ ジャマ ナッテ {笑} (B {笑})
今 その 壺が じゃま[に] なって {笑} (B {笑})

鳥取 02-4

ヨコスニ ヨケテアーガ。 {笑}

横のほうに どけてあるよ。 {笑}

20B：ソーダケン マー コンダー クラ タテニヤ イケヌワー。
それだから まあ 今度は 蔵[を] 建てないと いけないね。

21A：ハエー クラワ イーワ。
はあ 蔵は いいよ。

22B：ソガステ コー キセツニ アータヤーニ
そうして こう 季節に 合ったように

チャート カザッテ
ちゃんと 飾って

23A：シーニヤ (B アー) イマ ムカスノ イエニヤ
いいや (B ああ) ×× 昔の 家には

クラガッタガ イッテ (B シー。 クラワ)
蔵があったよね [と]言って (B うん。 蔵は)

ウツノ オズーサンワ オーテク テッテ イッタラエテ
私の家の おじいさんは 背負っていく と 言ったけれど

オーテイカレンダッタ[8] アノ クラワ。
背負っていけなかった あの 蔵は。

24B：アー ソガ イッテ クラワ テーガ ナンナッタナー。
ああ そう 言って[も] 蔵× というのが なくなったね。

(A ナンナッタ) ムカシャー マー ブゲンシャデワナー

(A なくなった) 昔は まあ 金持ちではね

ミンナー クラノ フトツヤ フターツワ アーオッタラエッテ

みんな 蔵の 一つや 二つは あったけれども

25 A : ドガデモ モツテイク ッテ イッタラエッテ (B ウーン)

どうでも 持っていく と 言ったけれども (B うん)

ホドエテ タテナオシャ イケンダケー ヤメタ。

こわして 建てなおさないと いけないから やめた。

(B クラワナー アー) ンー。 ヤメタ。

(B 蔵はね ああ) うん。 やめた。

02↑03

26 B : ソーニ ムカスノ クラワ アヤ テマフィマオ カケズニ〔9〕

それに 昔の 蔵は あれは 手間暇を 惜しまずに

ヨガネウツデデモ〔10〕 アノ ツチオナー。

夜も寝ないで あの 土をね。

アノ スツテ ソガステ アノ サエゴノ スナツチデモ

あの 塗って そうして あの 最後の 砂土でも

ホンノ キヤー、 カガミミター ナーマデ

本当の ほら、 鏡みたいに なるまで

コスツテ コス。

こすって こす[って]。

鳥取 03-2

イマワ キャー、 スナ ツツテモ ヌサンベン コスツテ
今は ほら、 砂 と言っても 2、3度 こすって

ソーデ スマエダモン。 (A ソゲダ)
それで おしまいだもの。 (A そうだ)

アー ソーダケン キャー、 ズキ キャー、
ああ そうだから ほら、 すぐに ほら、

イケンヤー ナツテシマウガナ。 (A アゲダガナ)
ために なってしまうよ。 (A そうだよ)

ムカスノワ アギヤーン ギャー キャ、
昔のは あんなに たいへん ほら、

アノー フカッテオッタケン。
あの 光っていたから。

27 A : マー ヨガ フッカーカエッタ ッテラー。 (B アー)
まあ 世[の中]が ひっくりかえった ということだ。 (B ああ)

アゲナ ナダ[11]ノ マッノ ナカエ イクタダケン。
あんな 灘の 松の 中へ 行ったんだから。

28 B : ソヤ マー ソゲナエッテ カワヤ カワーモンダワ (A アー)
それは まあ そうだけれど 変われば 変わるもんだよ (A ああ)

ヨノナカガナー。 ドガナー コトジャー。 コーガ
世の中がね。 どんな ことだ。 これが

29 A : ハッ アノ ハカモ オーテイカニヤ イケンガナ。
×× あの 墓も 背負っていかないと いけないじゃないか。

30 B : ハカモナー。(A ン) ナンゾ イー トコヘ マタ
墓もね。(A うん) どこか いい ところへ また

オマエ トコノー オトツツァン
あなた[の] ところの おとうさん[は]

イッショーケンメデ ヤッテゴザーケン
一生懸命に やっておられるから。

マター エン グウェニ ナーワヤ コーモ。
また よい 具合に なるよ これも。

コンナー コーエンボツニ シテナー。
こんな 公園墓地に してね。

31 A : ハー ドガンナト スイタヤニダ。
はあ どんなにでも 好きなようにだ。

32 B : イマー キャー、 フトツワテデ イーダケン
今は ほら、 一つずつで いいから

ムカスミタエニ シェキドー[12]ナンゾモ
昔みたいに 墓石なんかも

スエヘンダケンナー。 オッキャ ンー
据えないんだからね。 ほら うん

33A：ソゲダガナ。

そうだよ。

34B：ウチャツチャ ヨーケ アッタ ユーテ
私の家などは たくさん あった [と]言って

インナ キャ フトツニ ステスマッテ。 スーダワヤ。
みんな ほら 一つに してしまッて。 しますよ。

ソガニャー ドガステ。
そうでなければ どうして。

マー ソガ イッテ ザエサンダケン (A {笑})
まあ そう 言って[も] 財産だから (A {笑})

マ マゴヤ フィマゴガ ヨロコブワイ。
× 孫や ひ孫が 喜ぶよ。

ソガナ コスラエ チャート ノコイチョイテ
そんな こしらえ[を] ちゃんと 残しておいて

35A：カケズクワ (B アー) ミカス[13]ノ
掛け軸は (B ああ) 昔の

ボロボロオ ヒョーグ スナオイテ
ボロボロ[になったもの]を 表具[を] しなおして

(B フン) ジャンコト コッサエタ。
(B うん) たくさん こしらえた。

鳥取 03-5

36B：アー ソゲカ。 ソヤ エー。

ああ そうか。 それは いい。

37A：ソゲスタガ ワカエ モノワ ソガニ スミガ ナエ。

そうしたけれど 若い 者は そんなに 趣味が ない。

38B：ソアー ナエデ。

それは ないよ。

03↑

鳥取県米子市1984注記

〔1〕 オキモン

「オキモン」の「キ」は [ksi]。中舌母音の影響で、「キ」が「ク」と「シ」をあわせたような「チ」に近い音になる。なお、ここでは「キ」で表記している。

〔2〕 アバカサエテ

「アバカス」は、「だます」「偽る」「そそのかす」「機嫌をとって丸めこむ」の意。

〔3〕 オヤジ

主人。話し手A氏の息子のこと。

〔4〕 オクッタスコダ

送ったそうだ。「スコダ」は伝聞の助動詞。

〔5〕 ズローズンサン

寿老人。七福神の一人。

〔6〕 アイキョー

おやおや。まあまあ。「アイキョ」とも言う。

〔7〕 ツボー モラッタ

話し手A氏の家を新築した時に、大工から材木屋への支払いが遅れ、材木屋が困ったことがあった。その時に、話し手A氏の家が材木屋にお金を融通してあげた。その礼に材木屋が壺を持ってきたのである。材木屋は、主人（話し手A氏の息子）がたいへんな骨董好きであることを知っていた。

〔8〕 オーテイカレンダッタ

話し手A氏の家は、米子空港の自衛隊基地の拡張で、海岸寄りに移転した。その際、話し手A氏の祖父は、蔵を背負ってでも持っていきたいと言ったが、移動することはできなかった。

〔9〕 カケズニ

「惜しまずに」の意味。「掛けずに」ではない。

〔10〕 ヨガネウツテデモ

話し手A氏によれば、全体で「夜も寝ないで」の意味だという。どのよ

うな語から構成されているのかは不明。

〔11〕 ナダ

灘。海岸寄りの土地の総称。

〔12〕 シェキドー

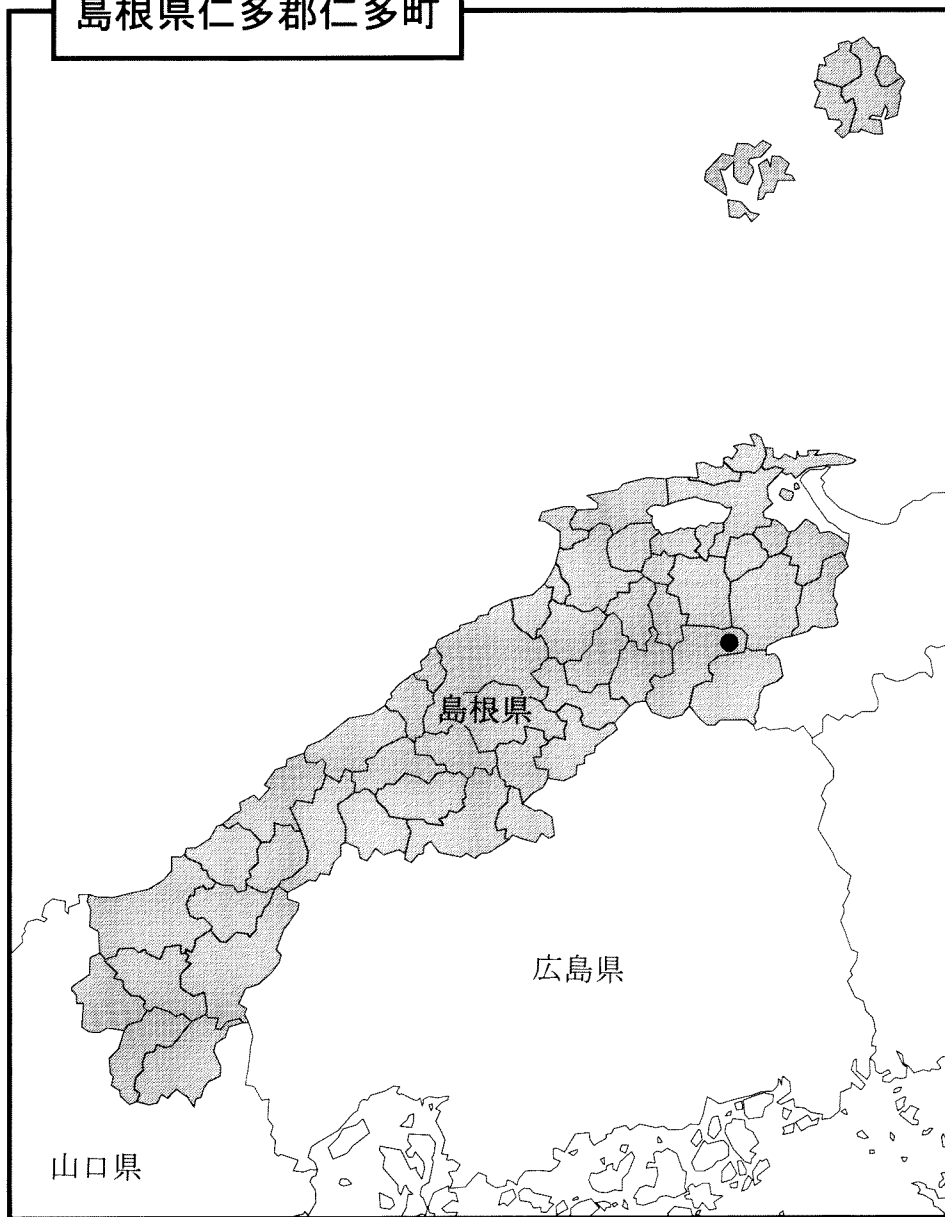
「石塔」のことか。ここでは、墓石のことである。

〔13〕 ミカス

収録地点では、「昔」は規則的に「ミカシ」「ミカス」と発音される。多くの場合、「ミ」の拍の母音が中舌化されて [m i̯] となり、「ム」とまぎらわしいが、「昔」の場合は語彙的な変化として「ミカシ」に固定しているようである。

Ⅱ. 島根県仁多郡仁多町 1980

島根県仁多郡仁多町



島根県仁多郡仁多町1980話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	氏名不詳	3名
収録担当者	石橋 俊雄	

(敬称略)

「全国方言談話データベース」

文字化担当者	都染 直也 ※
	都染 美晴 ※
共通語訳担当者	都染 直也 ※
	都染 美晴 ※
解説担当者	都染 直也 ※
	都染 美晴 ※
編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	都染 直也
	都染 美晴
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

※ 解説・文字化・共通語訳は、「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに、「全国方言談話データベース」の公開にあたって、新たに作成した。

島根県仁多郡仁多町1980解説

収録地点名

しまねけん に たぐん に たちようおおあざかめだけ
島根県仁多郡仁多町 大字亀嵩

収録地点の概観

位置

亀嵩は、島根県の県庁所在地である松江市の南方約30km、島根県東南部の中国山地の中に位置する。仁多町は、南の広島県比婆郡と接する。亀嵩は仁多町の北東部に位置し、東は能義郡広瀬町、北は大原郡大東町に接する。

交通

亀嵩の西には、木次線亀嵩駅がある。松江市・出雲市方面へは山陰本線宍道駅で乗り換える。国道432号線で広瀬町を経由して、松江市につながっている。

地勢

中国山地の中にあり、斐伊川の支流亀嵩川が流れる堆積地の水田耕作地帯である。

行政区画

1889(明治22)年、亀嵩町・亀嵩村・郡村・高田村が合併して仁多郡亀嵩村が成立した。1955(昭和30)年、亀嵩村は、三成町・布勢村・阿井村・三沢村と合併して仁多町となった。1976(昭和51)年7月、大字亀嵩町と大字亀嵩村が合併して、大字亀嵩となった。

戸数・人口

1976(昭和51)年の統計資料によれば、仁多町大字亀嵩は、世帯数289戸、人口1,228人である。

産業

亀嵩の産業としてもっとも有名なのはそろばんで、100年以上の歴史がある。また、東に冷泉を利用した亀嵩温泉があり、松本清張の小説『砂の器』の舞台としても多くの観光客が訪れている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

亀嵩の方言は、東北方言的な要素を持つ雲伯^{うんぱく}方言のうちの出雲方言に属する。なお、島根県方言は、出雲地方の雲伯（出雲）方言と、石見地方の中国方言に区画される。

亀嵩の東に接する能義郡広瀬町とは、郡界がアクセント境界線となり、亀嵩は出雲アクセント地域の東端にあたり、隣の広瀬町は少し趣の異なる中間アクセント地域である。なお、アクセントについては『山陰地方のアクセント』（広戸惇・大原孝道著、報光社、1953年）、島根県方言全般については『島根県方言辞典』（広戸惇・矢富熊一郎編、報光社、1963年）がある。

音韻

- (1) 「イ」と「ウ」の中間的な音（中舌母音）がある。

スル（2里）

ズーサン（おじいさん）

- (2) 「イ」は「エ」と発音されることが多い。

エネ（稲）

- (3) 「ウ」は「オ」と発音されることが多い。

オス（臼）

ボサイク（不細工）

- (4) 中舌母音の影響で、「キ」は、「ク」と「シ」をあわせたような「チ」に近い音になる。

ユキ（雪）

トキ（時）

- (5) 「セ」が「シェ」, 「ゼ」が「ジェ」となる。

シェンシェー（先生）

ジェニ（銭）

- (6) 合拗音「クワ」「グワ」がある。

クワズ（火事）

エイグワ（映画）

- (7) 語中語尾の [r] 音, 特に「リ」「ル」の [r] が脱落する。

ア^ーマシタ (ありました)

サ^ー (猿)

- (8) 連母音「アウ」が「アー」となる。

カー (買う)

ツカー (使う)

ナラー (習う)

モラー (もらう)

文法

- (1) サ行イ音便がある。

カサー サ^イテ (傘をさして)

- (2) 「行った」が促音便にならず, 「イキタ」となる。

イキタ コトガ アー (行ったことがある)

- (3) 「ヨッタ」が回想を表す。

トッチョイテアリヨッタゲナデスワ

(取っておいてあったそうですよ)

- (4) アスペクトが動詞に直接続かず, 間に「デス」「マス」を挟むことがある。

イキマシヨッタ (行っていっちゃいました)

- (5) 断定辞には「ダ」が用いられる。

アゲダ (そうだ)

アメガ フツタダケン (雨が降ったから)

- (6) 引用の助詞「と」が抜ける。

イケン ユー コトデ (いけない [と] ということで)

- (7) 尊敬語に「ナル」「シャル」「テ」「レル」「ラレル」がある。

キナッタ (いらっしゃった, 来られた)

イワツシャー (おっしゃる)

オツテデシタダケン (いらっしゃいましたから)

- (8) 伝聞に「ゲナ」を用いる。

マゲナゲナ (上手にできるそうだ)

語彙

次のような特徴的な語彙が用いられる。

- (1) 「ゴス」は、動詞や補助動詞として用いられ、「くれる」の意を表す。

オシェーテゴイタ（教えてくれた）

- (2) 「だけ」を表す「ホド」がある。共通語で「くらい」を表す「ホド」とは若干意味にずれがある。

ショードクホドワネー（消毒だけはね）

- (3) 「ホソイ」が「小さい」, 「フトイ」が「大きい」の意味で用いられる。

ホソイ → ホシェー（小さい）

フトイ → フトエ（大きい）

- (4) ゴット（それぞれ、～ごとに）

ケンサモ ゴット ステモラーテ（検査も全部してもらって）

- (5) ヨーヌ（すっかり、十分に）

ヨース クタービレテ（すっかりくたびれて）

- (6) 「イマゴロ」は、共通語の「今頃」とは少し意味が異なり、「最近」の意に近い。

- (7) 「アゲ」「ソゲ」「コゲ」は、「ああいうふうに」「そういうふうに」「こういうふうに」の意味である。「アゲアゲ」「ソゲソゲ」は、あいづち「そうそう」に相当する。

（以上の解説は、「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに、「全国方言談話データベース」の公開にあたって、新たに作成した。）

島根県仁多郡仁多町1980凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点） 〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、（読点） 〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトイテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタングナー↓

よく やったんだなあ。

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

///

〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんです。

[]

〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

=

〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| |

〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して |

[]

〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある「再生」の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「島根04-1」は CD トラック番号が04で、その1ページ目ということである。「島根04-1」「島根04-2」……「島根04-5/05-1」……「島根22-3」の

ように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分のトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑04, 04↑05, ………21↑22, 22↑のように表示される。

第14巻のCD(68分16秒)には、島根県仁田郡仁田町の談話、【農作業、子どもの頃、夏祭り】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラック No.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
04	p. 54・ℓ . 1	p. 58・ℓ . 7	0:01:58
05	p. 58・ℓ . 9	p. 62・ℓ . 11	0:02:00
06	p. 62・ℓ . 13	p. 66・ℓ . 9	0:02:01
07	p. 66・ℓ . 11	p. 70・ℓ . 7	0:01:57
08	p. 70・ℓ . 9	p. 74・ℓ . 15	0:01:55
09	p. 74・ℓ . 17	p. 78・ℓ . 11	0:01:53
10	p. 78・ℓ . 13	p. 82・ℓ . 1	0:01:38
11	p. 82・ℓ . 3	p. 85・ℓ . 19	0:02:00
12	p. 85・ℓ . 19	p. 89・ℓ . 17	0:02:01
13	p. 89・ℓ . 17	p. 94・ℓ . 3	0:01:57
14	p. 94・ℓ . 3	p. 98・ℓ . 7	0:01:59
15	p. 98・ℓ . 9	p. 102・ℓ . 13	0:02:00
16	p. 102・ℓ . 13	p. 106・ℓ . 5	0:01:39
17	p. 106・ℓ . 7	p. 109・ℓ . 9	0:01:26
18	p. 109・ℓ . 11	p. 113・ℓ . 9	0:01:59
19	p. 113・ℓ . 9	p. 117・ℓ . 13	0:01:57
20	p. 117・ℓ . 15	p. 121・ℓ . 13	0:02:04
21	p. 121・ℓ . 15	p. 126・ℓ . 15	0:01:56
22	p. 126・ℓ . 17	p. 128・ℓ . 9	0:00:52
計			0:35:12

島根県仁多郡仁多町1980談話

収録地点

しまねけん に たぐん に たちようおおあざかめだけ
島根県仁多郡仁多町 大字亀嵩

収録日時

1980(昭和55)年

収録場所

島根県仁多郡仁多町大字亀嵩

話題

農作業，子どもの頃，夏祭り

話者

A	女	生年不詳	(収録時60歳以上)
B	男	生年不詳	(収録時60歳以上)
C	女	生年不詳	(収録時60歳以上)

調査者

D 男

元・教員

収録時間 (CD)

35分12秒

【農作業、子どもの頃、夏祭り】

話し手

- A 女
B 男
C 女
D 男 調査者

- 1 C：マー ジェニモーケノ ホーガ サキー タチマスダケン[1]ネー
まあ お金もうけの ほうが 先に 立ちますからね

↑04

- 2 B：ホー (A フン フン)
ほう (A うん うん)

- 3 C：ソーデ ウチニ オー モンガ ギバンデ[2] カワニャ
それで 家に いる 者が がんばって [牛を]飼わないと

- 4 B：エー アゲダ
ああ そうだ

- 5 C：イケマシエンダケン
いけませんから

カズナト スクナー カワニャ (B ソー ソー)
数を 少なく 飼わないと (B そう そう)

ウシノ コヤナンカイ ナカナカ デキマシエンダケンネー
牛の 小屋なんて なかなか できませんからね

6 B : ハー ハー ウチラチャー マー オヤジモ ヨー〔3〕
はあ はあ 私の家では まあ 父親も

ダイクサンヤナンカイ シェンナ
大工仕事なんか できないね

ボサイクモンダケンネ (A {笑}) ソーデ〔4〕
不器用者だからね (A {笑}) それで

7 C : ソゲツー コト アーマセン
そういう こと〔は〕 ありません

8 B : マー オシー ギバンデ カー ツーテカーニ イマ
まあ 牛を がんばって 飼う と言って 今

9 A : イー コトデスワネ
いい ことですよね

10 B : トーバカーガ カーチョーマスガネ (A ハー ハー)
10頭あまりが〔=を〕 飼っていますけどね (A はあ はあ)

ナカナカ ソーヌステモ アーモ ス コイツモ
なかなか それにしても あれも する これも

ス {笑} ホンニ ナナサイコヤビンボー〔5〕
する〔のは〕 {笑} 本当に 七細工八貧乏

トユー ヤツデ {笑} ナント エライデスダドモネー
という もので {笑} 本当に たいへんですけれどね

11A：ヨー サッシャイマスワネ
よく なさっていますよね

12B：イヤー ヨー サー ツー コトワ ナイ
いや よく する という ことは ない

13C：オマエ トコニワ マタ ウシバッカージャーネー
あなた[の] ところには また 牛ばっかりではなく[て]

ヤサイモノモ ツクラッシャーケン (B {笑})
野菜ものも 作られるから (B {笑})

ソーガ ナカナカ タイヘン
それが なかなか たいへん

14B：ソー ツーガ ゲンタンシェー テ イヤ ナンナト
そう 言うのは 減反せよ と 言えば なんなりと

コンド ツクラニャ イケンダケンネー (A アー)
今度[は] 作らないと いけないからね (A ああ)

マー ボクソー ツクツタル ホイカラ マタ
まあ 牧草[を] 作ったり それから また

アノー ヤサエオ ツクツタリ
あの 野菜を 作ったり

コトシワ ヤシェーホド イマノ ヤサイオネ (A ヘー)
今年は やせるほど 今の 野菜をね (A ええ)

島根 04-4

ツクッテ タデ ツクッテカーニ
作って 田で 作って

マ ハタケデモ ツクッチョーダドモノ (A ハー ハー)
まあ 畑でも 作っていますけどね (A はあ はあ)

アノ、ウリオ ツクッタトコ オミヤー コトシワ
あの、瓜を 作ったところ あなた 今年は

アメガ フッタダケンネ (A ハー)
雨が 降ったからね (A はあ)

ナント ネダンガ ワーヤエデ ヨーテ
なんと 値段が 割合に よくて

15A：ヨーゴザエシタネー
よかったですね

16B：ハー ヨロコンデネー (A ヘー)
はあ 喜んでね (A ええ)

アノ ノーキョーエ ダイテ ヘカ
あの 農協へ 出して それから

ノーキョーカラ フロスマ〔6〕ノ ホーエ
農協から 広島の ほうへ

ダサレーソーデスガネー (A ホー) ハイ
出されるそうですよ (A ほう) はい

17A：ソレカラ キンノーノ アサモ アゲ
それから 昨日の 朝も あのように

イワレマシヨッタガ タマネギ ナエオ
言われていたでしょう タマネギ[の] 苗を

(B {笑}) ヨーケ シチヨラッシャー テテ
(B {笑}) たくさん 作っておられる と言って

アレワ ドコエ ダサッシャーカネ
あれは どこへ 出されるのですかね

04↑05

18B：ソイカラ ソノ アトエネー (A ハー) イマノ ハナシデ
それから その あとへね (A はあ) 今の 話で

19A：ハ ソノ ウリノ アトエ (B ハー)
はあ その 瓜の あとへ (B はあ)

タマネギノ ナエオ
タマネギの 苗を

20B：アトエ (A ハハー)
あとへ (A ははあ)

アノー ショーゴインノ ダエコン[7]ト (A ハー)
あの 聖護院の 大根と (A はあ)

ホエカラ マー ハンブングライホド
それから まあ 半分くらいだけ

島根 05-2

アノー タマネギ ナエオネー (A ハー)
あの タマネギ[の] 苗をね (A はあ)

ショーゴインノ ダエコンワ イマー アノ
聖護院の 大根は 今 あの

サトデ オデンヌ ツカー ブンデスワ (A ハー)
町で おでんに 使う 分ですよ (A はあ)

トクベツナ ショーゴインデネー
特別な 聖護院[の大根]でね

21A：ソゲデスカ

そうなんですか

22B：アンマ トッピョーシニ オーキナ コトニワ
あんまり 突拍子もなく 大きな ことには

ナランダドモ
ならないけれど

23A：ホナ チャント ヨヤクズミデスネ
それでは ちゃんと 予約済みですね

24B：アー マー アノ コーモ ヤッパリ フロスマエ ダスマスダドモネ
ああ まあ あの これも やはり 広島へ 出しますけどね

(A ハー) ニテモ ナンボ ニテモ アノ、
(A ええ) 煮ても いくら 煮ても あの、

クズレン ダイコンデスワ
崩れない 大根ですよ

25 A : ハー ソゲデスカネ
はあ そうですか

26 B : ハー ホエカラ タマネギ ナエワ ドゲダイ
はあ それから タマネギ[の] 苗は とういうか

アゲニ ジャーン[8] ツクッテ
あんなに たくさん 作って

ワワーゴト ウエダラ {笑} (A ハー)
自分だけで 植えたりは {笑} (A はあ)

ヨー スマシエンダケン
できませんから

27 A : アゲデスネー
そうですね

28 B : アノー ニタノ ノーキョーヤネー (A ヘー)
あの 仁多の 農協だね (A ええ)

ヨコタノ ノーキョーヤ アノ ナヌステ ツクッテゴシェ
横田の 農協や あの なにして 作ってくれ

イー コトデステネー (A ハー ハー)
[と]いう ことでしてね (A はあ はあ)

ヤッチャーマスガ マー コイツモ ジェニニ ナーヤン
やっていますが まあ これも お金に なるように

ナーダヤ ナランダヤ ワカーマシェン {笑}
なるのか ならないのか わかりません {笑}

29 A : ヤー イスコニ〔9〕 ハエマシタサーナケン (B {笑})
いや いい具合に 生えたそうですから (B {笑})

マー ジェニニ ナーマスワネ
まあ お金に なりますよね

30 B : ヘー ナカナカ コイチャ コメ ツクーヤナ ワケニ
ええ なかなか これは 米〔を〕 作るような わけに〔は〕

イカンデ {笑} (A ヘー) ホンナ コタ ショードクオ
いなくて {笑} (A ええ) 本当の ところは 消毒を

スタリ ソイカ マー イマンゴロノ コトダーケー
したり それから まあ 最近の ことだから

ズキ アトエ ホンナ マクカ トユー ワケニワ イカンダケニ
すぐ あとに それなら まくか という わけには いかないから

ドジョーノ アノ、 カイリョーゾーシャニ タノンデ
土壌の あの、 改良業者に 頼んで

ケンサモ ゴット ステモラーテネ (A ハー)
検査も 全部 してもらってね (A はあ)

ホンデ ナンガ タランケン ドゲナフーニ シェー
それで なにが 足らないから どのように しろ

(A ハー ハー) ナンガ スギチョートカネー
(A はあ はあ) なにが 過ぎているとかね

(A ハー ハー) イーヤナ コトデ
(A はあ はあ) [と]いうような ことで

イヤー ソードーバッカー ヤッチョーマスワネ {笑}
いやあ 騒動ばかり していますよね {笑}

31A: イヤー ソリヤー ナニー ツクッテモ
いや それは なにを 作っても

ショードクセニヤー ネー デキマセンケンネー イマワ
消毒しないと ねえ できませんからね 今は

05↑06

32B: イヤ ホンヌ ショードクホドワネー (A ヘー)
いや 本当に 消毒だけはね (A ええ)

イマンゴ シェワイテ[10] シェナ イケンダケン
最近[は] 一生懸命に しないと いけないから

ヘーカラ マタ モノニヨッチャ アンマー ショードクヤク
それから また ものによっては あんまり 消毒薬[が]

カカート コンドワ ミシェヤノ ホーカラ
かかると 今度は 店屋の ほうから

キラワレーヤーナ コトモ アーマスダケンネー
嫌われるような ことも ありますからね

33A：ソゲデスカー？
そうですか

34B：ハー ナルベク アゲナ モノオ カケン モンデナケニヤ
はあ なるべく ああいう ものを かけない ものでないと

カワンコト ナンツツテネ (A ヘー ヘー)
買わないように などと言ってね (A ええ ええ)

ホレカラ X1サン トコニ エライ イー
それから X1さん[の] ところに とても いい

ナンダイラ ハイベスターダイラ ナンベスターダイ
なんだか ハーベスターだか なにベスターだか

スランガ {笑} エー キカイオ カーテ
知らないが {笑} いい 機械を 買って

アーノ イネコギデモ エライ マゲナッタ ナンテ
あの 稲扱きでも とても 楽になった なんて

イワッシャーガ マー ムカシャー ホンノ コトワ
おっしゃるけれど まあ 昔は 本当の ところは

ズンド ムンナ コドモ ジブンニワ
ずっと みんな 子ども[の] 頃には

島根 06-3

アノ センバ[11]チー ヤツデネー (A ハイ)
あの 千把[扱き]という ものでね (A はい)

エネ フツパッテ コギヨッタモンダ (A ソー ソー)
稲[を] 引っぱって 脱穀していたものだ (A そう そう)

ナースト ソイツワ オラーツ[12]モ コドモノ ズブンニ
なんと それは 私たちも 子どもの 頃に

オラー ワシレンガ ケー[13]、
私は 忘れないが こう、

ガッコカラ モドッテモ ホンニ ユキガ フルマデ
学校から 戻っても 本当に 雪が 降るまで

アノ モムノ ナカー アルイテ アガーナ イケンデ
あの 糶の 中を 歩いて 上がらないと いけなくて

ナント キチャネーナー ト {笑} オモッテ ナント
なんと 汚いな と {笑} 思って なんと

ナントカ ナランモンダー ナンテ オモイヨッタ (A ハー)
どうにか ならないものかな などと 思っていました (A はあ)

ムカシワ ゴット アノ ケー イエン ナカデ
昔は 全部 あの こう 家の 中で

ボラーボラー アノ シェンバチー ヤツデ
ぼつぼつ あの 千把[扱き]という もので

ツータテ フッカケテ イネ コギヨッタダケンネー
ついたて[を] かけて 稲[を] 脱穀していたからね

35 A : ハー、アゲダスネー マー ソリヤー ミンナ ズット
はあ、そうですね まあ それは みんな ずっと

(B {笑}) コドモデスタダケンネー (B ハー)

(B {笑}) 子どもでしたからね (B はあ)

アノー コノ ソバヌ ユルガ アーマシタケンネー (B ハー)
あの この そばに ユリが ありましたからね (B はあ)

ヨリ ヨリ[14] ツーマシタカ (B ソー ソー)
×× 縊り[縄] と言いましたか (B そう そう)

アレ マー ソロエアモンデゴザイシタネー
あれ[を] まあ そろえたものでしたね

36 B : ホー、ダレモネー (A ハエ)
ああ、みんなね (A はい)

アノ ヒッパッテ コイダ コトワ
あの 引っぱって 脱穀した ことは

37 A : タイシテ ヒッパッタ、ツテ コイダ コトワ
あまり 引っぱって 脱穀した ことは

オボエチョーマシェンダドモ (B ハー ***)
覚えていませんが (B はあ ***)

ワキノ マー ヨルドモー ソロエテ {笑}
脇の まあ 縋り[縄]でも そろえて {笑}

マタ サキ ツカーヤーニ {笑}
また [これから]先[に] 使うように {笑}

38B : ミ {笑} ムンナガ イワユル
× {笑} みんなが いわゆる

(A {笑}) カッカラツガ {笑}
(A {笑}) 母親たちが {笑}

**** ヒッパッテ コギヨッタガネ {笑}
**** 引っぱって 脱穀していたじゃないか {笑}

06↑07

39A : オババヤチャ
おばあさんたちは

40C : コギマショッタ[15]
脱穀していました

41A : コガッシャッターガ
脱穀されたでしょう

42C : コギマショッタ。 ソーカラ モット
脱穀していました。 それから もっと

ガッコーエ イク ズブンワネー (A ハー)
学校へ 行く 頃はね (A はあ)

アノ ヨズロー〔16〕 ユー モノオ
あの 「よじろう」 〔と〕いう ものを

トモイテオッテ (A ハー) パンニ (A ハー)
灯していて (A はあ) 晩に (A はあ)

イネコギ サー、 アノ ショッタカラ (A ***)
稲扱き〔を〕する、 あの していたから (A ***)

43B : ヨズロー テテ、 ヤネデ ***
「よじろう」 と言って 〔松〕やにで ***

44C : ハイ ヤネ マツヤネオ コネテ コスラエテ (B ウーン)
はい やに 松やにを こねて 作って (B うん)

ソレオ トモイテ。 (B ウン) ソレワ トキドキ
それを 灯して。 (B うん) それは 時々

タタカニヤ イケンカッタ (B アー アゲアゲダ)
叩かないと いけなかった (B ああ そうだ)

オマエワ ココニ ツイチョッテ ヤネタタキ セー
あなたは ここに ついていて やに叩き〔を〕 しないで

(A・B {笑}) イッテ パンニ スンマデ
(A・B {笑}) 〔と〕言って 晩に 〔作業が〕すむまで

(B ハー) ヤネタタキ シテ
(B はあ) やに叩き〔を〕 して、

島根 07-3

イマノ ヨリーオ ソロエテワ ヤネタタキ
今の 縫り[縄]を そろえては やに叩き[を]

(B ハー) シマショッタ

(B はあ) しておりました

45 B : ソイツガ イマンゴートワ ツガーテ パンニ
それが 最近とは 違って 晩に

ヒーサンニ ヤーカラネー
長い間 するからね

46 C : アノ ナナツボシサンガ アタマノ ウエー アガーマデワ
あの 北斗七星が 頭の 上に 上がるまでは

(B {笑}) バンノ シゴトオ セニャ (B アー)

(B {笑}) 晩の 仕事を しないと (B ああ)

イケン ユー コトデ ソゲナ コトオ キーテ
いけない [と]いう ことで そんな ことを 聞いて

シマショッタ

[仕事を]しておりました

47 B : ナントモ ツガータモンダテヤネー イマンゴートワ
なんとも 違ったものだよ 最近は

48 A : * * * ホンナラ

* * * 本当ですね

49 C : イマンゴロノ モンワ ラク サー コトデ バンヤナンカニ
最近の 者は 楽[を] する ことで 晩などに

コナーシ[17]ドモ サーナンツ コトワ (B {笑})
脱穀など[を] するなんていう ことは (B {笑})

ゼッタイ ナイヤン ナッタ (A ヘー)
絶対[に] ないように なった (A ええ)

50 B : オラモ ワッシュエシエンガ サー ドゲナ ブンダッタヤラ
私も 忘れもしないが さあ どんな ものだったやら

ウツノ マエノ X 2ノ ズーサンガ イマノ
私の家の 前の X 2の おじいさんが 今の

ノークワイエナンカエ デラレー ジブンダッタガ (A ハー)
農業会へなどへ 出られる 頃だったが (A はあ)

アノー ナント イネコギキカイガ デキタゲナ
あの なんと 稲抜き[の]機械が できたそう

ナンツツテネ (A ヘー) アスデ フンデ コグダゲナ
などと言ってね (A ええ) 足で 踏んで 脱穀するそう

ナンツ ユー、マー ホンデ ドゲナ モンダイ ト {笑}
などと 言う、まあ それで どんな もんだろう と {笑}

オモイヨッタ ドーノ マワー ヤツデネー (A ヘー)
思っていたものだ。胴の 回る ものでね (A ええ)

ソレ ウツダスキダツカイナー ナンダイ イーテ
それ 内田式だったかな なんとか 言って

モッテ モドラエテ イヤ ナーント エラエ モンガ キタナー
持って 戻られて いや なんと たいへんな ものが 来たな

ツーテ ミヨッタ イ エカラ ソイツワ マタ イロイロ
と言って 見ていた × それから それは また いろいろ

タニガワスキダコトノ ナッダ イロイロナ スキガ アッテ
谷川式だとか なんだか いろいろな 式が あって

07↑08

ミンナモ ガッコー ヤメタ トブン ズブンゴース
みんなも 学校[を] やめた ××× 頃に

オツニャー タニガワスキダイ ナンダイ ツー ヤツ
私の家には 谷川式とか なんとか という もの[を]

カーテ フターデ フンデネー (A ハー) ヤッテ
買って 二人で 踏んでね (A はあ) [稲扱きを]して

ヨーニ パンヌ、イマンゴーンター ツガーテ
すっかり 晩に、 最近とは 違って

マスクダ ゴッター アラエズ
マスクだ[とか] なにも なくて

ハスカーノッテ[18] ケー、アシェガ デーニ
かゆくなって こう、汗が 出るのに

島根 08-2

イッショーケンメー フッダウエニ フンデ
一生懸命 [稲束を] 振ったうえに 踏んで

コグダケン (A ハイ) イヤ オソーマデ ヤッテネー
脱穀するから (A はい) いや 遅くまで やってね

51A: アゲ サート アンマ イタスーゴザイシテネ。
あんなふうにとすると 非常に 疲れて苦しくてね。

(B ハー) ソーカラ オツラチャー
(B はあ) それから 私たちは

マタ フトリワ ボクトー[19] ツーチョッテ
また 一人は 棒切れ[を] 突いていて

フン モンデゴザイシタ (B ホー) ソーカラ マー アノ
踏む [役の]者でした (B ほう) それから まあ あの

フトリ モー カタハラニネー オトコガ オッテ (B フン)
一人 もう 傍らにね 男が いて (B うん)

コギマシタドモ フトリ フン ヤクニ、
脱穀しましたがけれども 一人[が] 踏む 役に、

ボクトー ツーチョッテ {笑} フン ヤク
棒切れ[を] 突いていて {笑} 踏む 役[を]

シマショッタワ
しておりましたよ

52B：ホー、 イヤ ホンニ
ほう、 いや 本当に

53A：ハイ イタスーテネー (B エライ コトヤ)
はい 疲れて苦しくてね (B たいへんな ことやら[なにやら])

イケマセンダケン
だめなものだから

54B：ホンナ ソゲ スー コト ダイブン シテカラ
そうすると そう する こと[を] だいぶん してから

ホシェー ハツドーキニ カケテ ヤート マゲナ[20]ゲナ
小さい 発動機に かけて すると 上手にできるそうだ

ナンツーテ (A ハー) ツンオ トッテナンカ シテ
などと言って (A はあ) 手間賃を とったりなど して

アルカレー シーモ アース (A ハー)
歩かれる[=商売される] 人も あるし (A はあ)

ヤリヨッタニ イマンゴロワ マー、
やっていたのに 最近は まあ、

マゲナ コトヌ ナッテカーヌ デンキデ
うまい 具合に なって 電気で

ムーンナ ヤーダケンネ (A ハー アノー)
全部 やるんだからね (A はあ あの)

ヘーカラ ソレワ イーダドモ コエデシマーテカラ
それから それは いいけれど 脱穀してしまってから

コッド ソイツ マタ アノー キネデ タタエテ
次に それ[を] また あの 杵で 叩いて

(A ヘー ヘー) ツリオトシ ツーヨツタカイネー
(A ええ ええ) 塵落とし と言っていましたかね

55 C : ヘー アリヤ ツリタタキ[21] イッテネー
ええ あれは 塵叩き [と]言ってね

56 B : タタキ ツーダ
[塵]叩き と言うのか

57 C : ソリヤ アノー ムカシノ モノワ
それは あの 昔の 者は

アノ カガマタ[22]ダ イッテ (B フーン)
あの カガマタだ [と]言って (B ふうん)

カガマタガ アッテー アノ、 コメニ
カガマタが あって あの、 [よい]米に

ナランカラ ソレオ ヨッテ (B ソー ソー)
ならないから それを 選んで (B そう そう)

アノー シマツ シチヨイテ (B ウン)
あの 始末[を] しておいて (B うん)

ホイカラ ソレ イッショニ ダイテ
それから それ[を] 一緒に 出して

58A : アゲダッタネー
そうだったね

59C : キネデ アノ フターリデモ サンヌンデモ、(B ソー ソー)
杵で あの 2人でも 3人でも、(B そう そう)

ウシノーヤ[23]ダ イーヨッタガ
白庭だ [と]言っていたでしょう？

(B ハー) ウシノーヤ ヒロゲテオイテ (B ハー)
(B はあ) 白庭[に] 広げておいて (B はあ)

ソゲシテ タタイテ、マワッテ
そうやって 叩いて 回って

マ タタキタタキシテ
まあ 叩き叩きして[=何度も叩いて]

60B : アゲダッタネー
そうだったね

08↑09

ホエカラ ソイツワ マタ キノ アノ オスデ オーキナ
それから それは また 木の あの 白で 大きな

タカサノ タケー キ キノ (C ハイ) ウスデ (A ハ)
高さの 高い 木 木の (C はい) 白で (A はい)

島根 09-2

ゴローゴロー フーテネー (A ハー ソー ソー)
ごろごろ[と] 挽いてね (A はあ そう そう)

61C : キノ ウスデネー
木の 臼でね

62B : パンニ オソーマデ ソイツ ヤッテ
晩に 遅くまで それ[を] やって

ホエカラ マー ダイショー コメガ トレタ ツーモンデ
それから まあ 多少 米が とれた というので

マー、 ヤシヨクオー クワナ[24] イケンジョー
まあ、 夜食を 食べないと いけないよ

ツヤナ コトデ (A ハー)
というような ことで (A はあ)

マー ウドンドモ カーテキテ。 イマンゴ {笑}
まあ うどんでも 買ってきて。 最近[は] {笑}

ヤーカ ** {笑}
するか ** {笑}

63A : サンヌン ササッター (B {笑})
3人 // // // (B {笑})

ヒッバラニヤ イケマヘダッタケンネー
引っぱらないと いけませんでしたからね

島根 09-3

64B：ダイブン イー ブンデネー (A ハイ) イヤ ホンヌ
だいぶん よい 分でね (A はい) いや 本当に

65A：ソーデ オツニャー アノー オズーサンガ
それで 私の家には あの おじいさんが

アノ ナンデデゴザイスガネー オイボースニ ナー モンガ
あの なんとかですけどね 甥に なる 者が

アノ オータン[25]ノネー (B ホー) ノーキグ
あの 大谷のね (B ほう) 農機具[屋を]

ヤッチョーマスタダケン (B アゲアゲ)
やっていましたから (B そうそう)

ソーカラ (B ウン) アノ ズーサンニ
それから (B うん) あの おじいさんに

ナーントノー オツツァン イー キカイガ デキテノー
なんとね おじさん いい 機械が できてね

アノ コゲシテ ケー、イネ サッサイスリヤ
あの こうして こう、稲[を] 差しさえすれば

アノ チャーット ケー モミガ (B {笑})
あの さっと こう 粃が (B {笑})

イスコニ デテキテ (B ホー) ハエカラ
うまい具合に 出てきて (B ほう) それから

島根 09-4

デンキワ タタキダー ナーンダイ シューデモ
電気は 叩いたり なんにも しなくても

イーケン (B ホー) イー キカイガ デタケン オツツァン
いいから (B ほう) いい 機械が 出たから おじさん

ナント カワジャネーカ イーテ (B ホー)
なんとか 買おうじゃないか [と]言って (B ほう)

ホダラ ソゲナ マー イー キカイガ アリヤ
そうしたら そんな まあ いい 機械が あれば

マー モツテキテ ミシエテゴシエー (B ハイ)
まあ 持ってきて 見せてくれ (B はい)

イーテネー (B ハイ) ハエカラ ヘー ジーサンモ
[と]言ってね (B はい) それから ええ おじいさんも

フト トシ トツテ ナンギニゴザイスダケンネー
×× 年[を] とって 苦労したからね

イー コトオ イーテゴイタワ ナンツテ ヨロコンデ
いい ことを 言ってくれたよ などと言って 喜んで

ソーカラ モツテキライマシタワネ (B ハイ)
それから 持ってこられましたよね (B はい)

オシノワエ スエラレタラ ナーヌ ホンニ マゲニ
白庭に 据えられたら なあに 本当に うまく

ゴザイシタダケンネー コゲステ ズット コゲステ アッチエ
できましたからね こうして ずっと こうして あちらへ

ポイト ウシロエ ナゲテ ソゲサート (B ハー)
ポイトと 後ろに 投げて そうすると (B はあ)

モミガ イスコニ デマーダケン
糊が いい具合に 出ますから

66 B: イヤ ソゲダ
いや そうだ

67 A: カラスト ヤツノ ホーノ ソノ *** {笑}
////// ものの 方の その *** {笑}

チガーマシタガネー
違いましたかね

09↑10

68 B: イヤ アゲデスガ
いや そうですよ

69 A: ハー アノ ウチ ハジメテ カイマシタケンネー
はあ あの 私の家[は] 初めて 買いましたからね

(B ハー) サキ。 ソーデモ ホンニ
(B はあ) [他家より]先[に]。 それでも 本当に

イー キカイダ ト オモーテネー (B ハー) オーマシタニ
いい 機械だ と 思ってね (B はあ) いましたのに

島根 10-2

マー イマ マタ ヨンナーマシタダケン
まあ 今 また よくなりましたから

70B: [笑] アゲーデスワ イマンゴロワネー (A ハー) **
[笑] そうですよ 最近はね (A はあ) **

ヨンナッテカーニ マゲナモンデスガネ
よくなって 楽なものですよね

71C: ウチラツニワ スイシャニ カケテ (B アー)
私の家などでは 水車に かけて (B ああ)

コギマスタジャ?
脱穀しましたよ

72B: フーン (A ホー ホー ソゲ) ミズノ ベンリノ
ふうん (A ほう ほう そう) 水の 便利の

イー トコワ ホンニ アノコトガ **タケンネー
いい ところは 本当に あのことが **たからね

73C: イヤネ ベンリガ イー イーテモ ミズガ ナイ トキニヤ
いやね 便利が いい [と]言っても 水が ない 時には

(B ホー) アノ トナーノ シーガ ヒル コガレリヤ
(B ほう) あの 隣の 人が 昼[に] 脱穀されたら

(B ホー) ソノ ネラレテカラ コンド
(B ほう) その [夜]寝られてから 次[は]

島根 10-3

ワーワツガ トコエ (B ホー) トッテ
私の家の ところへ (B ほう) とって

(A {笑}) ソレデ フトノ ネラレテカラ
(A {笑}) それで [他家の]人が 寝られてから

コイダリ シテ (B フーン) ソーデモ フィーヨリ イーヤナ
脱穀したり して (B ふうん) それでも 昼より いいような

キガ シテ (B イヤ ソレワ) スイシャデ コイデ
気が して (B いや それは) 水車で 脱穀して

スイシャデ コギヤー ナワノ ツナダラガネ (B ホー)
水車で 脱穀したら 縄の 綱でしょう (B ほう)

ソノ ナワノ ツナガ アタラシー ナカーワ (B オー)
その 縄の 綱が 新しい 間は (B ああ)

ノビデ ナガーン ナッテ (B ソー ソー {笑})
伸びて 長く なって (B そう そう {笑})

マタシチャ トンデデテ (B {笑}) ソレ キッテ
またしても 飛んで出て (B {笑}) それ[を] 切って

ツズメニヤ イケン (B オー) コンド フルー ナラ
縮めないと いけない (B ああ) 次に 古く なったら

ドッコカラデモ ツギレーヤニ ナッテ。 (B ソー)
どこからでも ちぎれるように なって。 (B そう)

島根 10-4

アメガ フリャ フトリガ カサー サイト フトルワ
雨が 降れば 一人が 傘を さして 一人は

アカリ モッテ ニワノ (B {笑}) パンオ
明かり[を] 持って 庭の (B {笑}) 番を

シテオッテ (B {笑}) ニワノ ホーエ デ
していて (B {笑}) 庭の ほうへ 出、

スイシャゴヤノ ホーエ イキ シテ (B ハー)
水車小屋の ほうへ 行き[など] して (B はあ)

ソゲシテ ナンギシテネ コイダモンデ
そうして 苦労してね 脱穀したもので

ソレ ヤーポリ ワーワツモ ツイテ アルイテ
それ[を] やはり 私たちも ついて 歩いて

ソノ アジ ミチヨーマスワ
その / / 見えていますよ

74A：アゲーデスワネー
そうですね

75C：ダケン ダイブ ムカシノ モンデゴジェマスワ {笑}
だから だいぶん 昔の ものですよ {笑}

76B：{笑} イヤ ソゲダ {笑}
{笑} いや そうだ {笑}

77A：ネー

ねえ

10↑

— 中 略 —

78B：ソレカラ マー ソリヤー ホンナ コタ イマンゴーワ

それから まあ それは 本当の ところは 最近は

↑11

ゴーギニ カワッタモンダガ ゴットガ オタガイニ[26]

とても 変わったものだが みんなが お互いに

ホシェー ズブンノ オモイデヤ ナンカガ

小さい 頃の 思い出や なにかが

マー アーワケデステネー (A ヘー)

まあ あるわけですからね (A はあ)

ムカシワ ケー シェワイテ マー ガッコー ナラーヨカ

昔は こう がんばって まあ 学校[へ行って] 習うよりも

イエノ テゴー シェワイテ サシェタモンダワネー (A ヘー)

家の 手伝いを がんばって させたものだよね (A ええ)

ホエカラ オマエントコヤツモ ドッコニモ

それから あなたの家にも どこにも

マゴサンツモ マー オラッシャーワケデ ナンサガ

お孫さんたちも まあ いらっしゃるわけで そうですが

島根 11-2

イマンゴロワ ケー、ムカストワ ツガッテ (A ヘー)
最近は こう、昔とは 違って (A ええ)

テゴヤナンカ ジャーン サシェンコニ (A アー)
手伝いやなんか 十分に させないで (A ああ)

ホンニ ケー、ベンキョー ベンキョーバッカ ユーダケン
本当に こう、勉強 勉強ばかり 言うから

79A: ベンキョースラレマスネー
勉強されますね

80B: ホエカラ ナカナカ イマノ ムカシワ オヤデモ
それから なかなか ××× 昔は 親でも

ヨー イー グワイナ スツケヤナンカヤワ シェダツタモンダノヌ
よく いい 具合な しつけなどは しなかったものののに

イマンゴーワ マー アゲナ コトガネー (A ハイ)
最近は まあ あんな ことがね (A はい)

カワッテキテカーニ マー オマエツモ
変わってきて まあ あなたたちも

ドゲ オモワッシャーヤラ (A ハー)
どのように 思っておられるか (A はあ)

オラヤツダツタラ シンボーニ〔27〕 ナツタトコメガ
私だったら 熱心に なったところが

島根 11-3

シェワイテ アノー ヒャクショーノ テゴードモ
がんばって あの 百姓の 手伝いでも

コドモヌ サシチョキヤー サセリヤー
子どもに させておけば させれば

オーケン ナツテカラ オモイダイテ (A ハー)
大きく なってから 思い出して (A はあ)

アノ モドッテコワモンダ イッテネー (A ハー)
あの 戻ってくるものだ [と]言ってね (A はあ)

ソノー ヒャクショーノ テゴー スタラ マー ドゲユーカ
その 百姓の 手伝いを したら まあ どうか

アゲナ カテーテキナ ナンガ ノコッチョッテネー (A ヘー)
あんな 家庭的な なにが 残っていてね (A ええ)

ホーデ イマンゴーワ ゴーットー デタートイヤー
それで 最近は みんな [村から]出たといえば

ナカナカ モドランダケン {笑}
なかなか 戻らないから {笑}

81A: ハー アゲデスネー モドッテキマセン
はあ そうですね 戻ってきません

82B: ヨーニ ソーデ コマーダケン (A ヘー)
本当に それで 困るから (A はあ)

ナース アソコノワ ガッコー
なんと あそこの[人]は 学校[を]

サッシャッター モドランヤニ
されたから[=行かせたから] 戻らないように

ナッテスマーチャッテ (A ウーン) アトワ
なってしまって (A うん) あとは

ケー ヨーニ トスヨースーバッカーダ ツーヤナ コトニ
こう 本当に 年寄り衆ばかりだ というような ことに

83A: アゲナ カテーガ アーマスワネー
そんな 家庭が ありますよね

84B: {笑} ナーダケンネー (A ヘー)
{笑} なるからね (A ええ)

ホーデ イツダッタラ スンブンニモ
それで いつだったか 新聞にも

カイチョッタデスガネー (A ハー ハー) アノー
書いてありましたがね (A はあ はあ) あの

ベンキョーワ マー モツロン セニャ イケンダドモ
勉強は まあ もちろん しないと いけないけれども

(A ヘー) イエノ テツダイオ マー ヒャクショー
(A ええ) 家の 手伝いを まあ 百姓[を]

11↑12

島根 12-2

ヤッチヨリヤ ヒャクショーノ テツダイオ (A ハイ)
やっていたら 百姓の 手伝いを (A はい)

ニヤータヤーニ コドモニ サシェテオクト (A ハー ハー)
似合ったように 子どもに させておくと (A はあ はあ)

オシェン ナツテカラネー (A ヘー) アノー イナカノ
大人に なってからね (A ええ) あの 田舎の

ヨサ ツーカ ヒャクショーノ ヨサ ツーカ (A ヘー)
よさ というか 百姓の よさ というか (A ええ)

オモイダイテネー (A ヘー) アノー ダイタイ
思い出してね (A ええ) あの だいたい

モドッテコワヤナモンダ ツーヤナ コト
戻ってくるよ[という]ようなものだ というような こと[が]

カITEアッタ マー イカサマ ソリヤ ソゲナ コトワ
書いてあった まあ なるほど それは そんな ことは

ホンニ アーカモシレンナー ト オモーテネー (A ハー)
本当に あるかもしれないな と 思ってね (A はあ)

マー イマンゴートワ ダイブン ツガイマスワネ
まあ 今頃とは だいぶん 違いますよね

85A: マー コドモノ ズブンノ (B {笑}) コトガ
まあ 子どもの 頃の (B {笑}) ことが

島根 12-3

デマシタケンダガ オラヤツガ ガッコーエ イクブンニヤ
出ましたものだから 私たちが 学校へ 行くのには

ソリヤ マタ ホシューエ ダイテモライマシタダケン
それは また 補習[科]に 出してもらいましたから

(B ハー) カメダケ (B ハー ハー ハー {咳})
(B はあ) 亀嵩[の] (B はあ はあ はあ {咳})

マー ホンニ オーユキガ フートネー (B ハー)
まあ 本当に 大雪が 降るとね (B はあ)

モンベガ アーマシェンガ?
もんべが ないでしょう

86 B: ハー ムカシワ ナカッタダケン
はあ 昔は なかったから

87 A: チョッコス マー キモノ カラゲテ (B ハー)
ちょっとだけ まあ 着物[を] からげて (B はあ)

ソッカラ トキヌヨート サラテー スコイテ
それから 時には // // 手でかき分けて

オオタワ アルカナ イケマセンガ (B ハー)
大峠[を] 歩かないと いけないでしょう (B はあ)

マーズ ホンニ オーユキデ エライ トキガ
とにかく 本当に 大雪で たいへんな 時が

島根 12-4

アーマシテネー (B ハー) ソゲスート イッツモ
ありましてね (B はあ) そうすると いつも

ツコクデゴザイスワネー (B ハー)
遅刻ですよ (B はあ)

ソーダドモ ホンヌ {笑} X 3 シェンシェーガネー
そうだけれど 本当に {笑} X 3 先生がね

イー シェンシェーデ ゴザイシテネー (B ホー)
いい 先生で いらっしゃってね (B ほう)

アノ X 3 シェンシェー。
あの X 3 先生[は]。

88B: オトーサンガ
おとうさんが

89A: ハイ?
はい

90B: オトーサンダイ、
おとうさんとか、

91A: ハー (B ハー) アノー ナライマショッタケン (B ハイ)
はあ (B はあ) あの 習っていたものですから (B はい)

イヤー サイブ[28]カラ キタ モノワ エライネー
「いやあ 西部から 来た 者は 偉いね」

(B {笑}) ユーテ イツモ コノ、 オーキナ ヒバチニ

(B {笑}) [と]言って いつも この、 大きな 火鉢に

スミビー オコイテアーマショッタダケンネー (B ハー)

炭火を おこしてありましたからね (B はあ)

ソーカー マー アガ アノー、 アガラッシャリヤ

それから まあ ×× あの、 上がられたら

マー アノー ソノ キモノノ スソノ ユキホダー トカイテ

まあ あの その 「着物の 裾の 雪だけは とかして

ソーカー ツクエニ (B ハー) スワレ ユーテネー

それから 机に (B はあ) 座れ」 [と]言ってね

(B ホー) クダシャンスタケン ホンニ

(B ほう) くださったから 本当に

アノコトワ ワスレマシェンワ (B ホー)

あのことは 忘れませんよ (B ほう)

ケ ココガ ズーット ユキダラケニ

こう ここが 全部 雪だらけに

ナッチョーマスダケンネー (B ホー) ソーデ アノ

なっていますからね (B ほう) それで あの

12↑13

トカイテ ソーカラ イスニ スワッテ

[雪を]とかして それから 椅子に 座って

島根 13-2

92 B : インヤ ソゲニ

いや そんなふうに

93 A : イーテネー アノ コノ シェンシェーガネー (B ホー)

[と]言ってね あの この 先生がね (B ほう)

イスコニ イーテクダサンシテネー

うまい具合に 言ってくださってね

94 B : オラヤツワネー

私たちはね

95 A : アレ ヤッパ キオクニ ノコッチョーマスワ

あれ やはり 記憶に 残っていますよ

96 B : オラヤチャ イマノ ショーガッコーオ ソツギョーステカラ

私たちは 今の 小学校を 卒業してから

ヨコタノ (A アア) アノ ノーガッコー ツー

横田の (A ああ) あの 農学校 という

97 A : ソー ソー アゲデスネ

そう そう そうですね

98 B : アスコエ マー モーニ オヤジヤツガ {笑}

あそこへ まあ 無理に 父親が {笑}

(A ハー) イカナ イケン ユーダケン

(A はあ) 行かなければ だめだ [と]言うから

島根 13-3

ホエカラ イツテネア (A ハー)
それから 行ってね (A はあ)

マー ムカスノ ナッデ イヤ
まあ 昔の あれで 言えば

ヌル、ヌル アーマスケンネー (A ハー ハー)
2里、2里 ありますからね (A はあ はあ)

ソレ アルイテ カヨーマショッタガネー
それ[を] 歩いて 通っていましたよ

99A: アラー トマッコラッシャー
あれは 泊まって[=寄宿して]いらっしゃりは

シマシェンダッタカネ
しなかった[の]ですか

100B: インヤー ユキガ フー ズブンホド トマッテネー (A ハー)
いや 雪が 降る 頃だけ 泊まってね (A はあ)

ホイカラ (A ハー) アイダー アルイテ カヨウダッタ
それから (A はあ) ふだんは 歩いて 通った

(A ホー) ソーデ ナント ハラー ナエルニ オーキナ
(A ほう) それで なんと お腹が すくから 大きな

ベントー、エライ ヤツオ コス イワエツケテネー
弁当、 たいそうな ものを 腰[に] 結わえつけてね

島根 13-4

(A ハー) ヘ コー ワッシェモセン {笑}

(A はあ) ええ こう 忘れもしない {笑}

スタニ〔29〕ニ アノー X 4 サン ツー シーガ
すだにに あの X 4 さん という 人が

(A ハー) オッチャッタケン

(A はあ) おられたから

コドモヤツラー {笑} モドツタカー {笑} アーイ モドツタ
「子どもたち {笑} 戻ったか」 {笑} 「はい 戻った」

ナヌ ナラータラー キョーワ {笑}
「なに〔を〕 習ったか 今日は {笑}

オーケナ ベントーバッカー オーテッテ
大きい 弁当だけ 背負って行って

ナニ ナラータラ {笑} ソイカラ コナ ケー
なに〔を〕 習ったか」 {笑} それから あれが こう

エツモ アゲナ コト ユーテ カマーケン
いつも そんな こと〔を〕 言って からかうから

ツート コンドメニヤー モドー サニ カマーチャラーコイ
ちょっと 次は 戻る 時に からかってやろうか

(A ハー) シモナカ〔30〕ノ X 5 ツアング イッショダドモ

(A はあ) しもなかの X 5 さんが 一緒だけれど

島根 13-5

アリヤー サンネンシェーデ ウエダッタダケン (A ハー)
あれは 3 年生で [学年が]上だったから (A はあ)

アノ コンナー X 4 ツーケン、
あの これは X 4 というから、

キョーワ ツクサンデ ベンター ナラータ [31]
今日は 畜産[の授業]で ベンタ[について] 習った

イテ {笑} カマーチャラー ツーテ {笑}
[と]言って {笑} からかってやろう と言って {笑}

(A {笑}) {笑} ホイカラ マタ カズヤダケー
(A {笑}) {笑} それから また 鍛冶屋だから

アノ ウエニ オッテネー (A ハー) マター、
あの 上に いてね (A はあ) また、

コストドー モドツタカー オーキナ ベントーバックカー
「子どもたち 戻ったか 大きな 弁当ばかり

クラーテ ナニ ナラータヤ {笑}
食べて なに[を] 習ったか」[とからかうから] {笑}

キョーワ ツキサンガ アッテ
「今日は 畜産[の授業]が あって

ベンター ナラータ
ベンタ[について] 習った」[と言うと]

イーヤ コナ コドモ {笑} (A {笑})
「なんと この 子ども[は]！」 {笑} (A {笑})

オコッテネー (A {笑}) X 4 ツー ナマエダラケン
[と]怒ってね (A {笑}) X 4 という 名前だから

13↑14

キョーワ ツクサンガ アーテ ベンター ナラータワ
「今日は 畜産[の授業]が あって ベンタ[について] 習ったよ」

イーヤ イーヤ コスタドモガー イーテ。
[と]言ったら 「なんと、 こいつらめ」 [と]言って。

{笑} マー ワシレンガ ホーデ ヌルモ アルクト
{笑} まあ 忘れないが それで 2里も 歩くと、

ナント アサマ シグワツ マ サングワツ
なんと、 朝のうち 4月、 まあ 3月[で]

ユキガ キエーヤニ ナート ナーント ホノボノ
雪が 消えるように なんと なんと ほのほの[と]

サーヤン ナート アサマ イッテ
そんなふうになると 朝のうち[に] 行って

ヨーヌ クタービレテネー (A ホー)
すっかり くたびれてね (A ほう)

ホイカラ マー イスニ コシカケート ケー
それから まあ、 椅子に 腰掛けると こう、

島根 14-2

コーステ ネットスマーダケン (A ハー)
こうして 寝てしまうから (A はあ)

ソゲサート アスコノ ヨコタン マチノ スモノ
そうすると あそこの 横田の 町の 下の

アノ テンノーサン[32] トコノ カンノッサン
あの 天皇神社[の] ところの 神主さん

X 6 シェンシェー ユーテネー (A ハイ)
X 6 先生 [と]言ってね (A はい)

コクゴノ シェンシェーダッタガ (A ハイ)
国語の 先生だったが (A はい)

ソーガ {笑} アノ、ズカンニ
それ[=その先生]が {笑} あの、[先生の授業の]時間に

コッツガ シランコニ チャーント ネチョッタラ {笑}
こっちが 知らないで ちょっと 寝ていたら {笑}

イヤ ハジマッタノ シランコニ ネチョッテネー
いや、[授業が]始まったの[を] 知らないで 寝ていてね

(A ハー) ホイカラ コクバンヌ オラ ネチョー
(A はあ) それから 黒板に 私[が] 寝ている

デコ[33] カイテ {笑} ソイカ キテカーニ
似顔絵[を] 書いて {笑} それから [私のところへ]来て

島根 14-3

コー (A {笑}) ツメクッテ オコサッシャーダケン {笑}
こう (A {笑}) つねって 起こされるものだから {笑}

コゲシテ マー ** チャーット シェンシェー
こうして まあ、** ちょっと 先生[が]

オコサッシャー マエ ミート コノ オラガ ネチョー
起こされる[ので] 前[を] 見ると この 私が 寝ている

デコ カイテアーダケン イヤ ハツカスーテネー
似顔絵[が] 書いてあるから いや 恥ずかしくてね

(A ハー) アゲナ コト ヤリヨッタモンダ {笑}
(A はあ) そんな こと[を] やっていたもんだ {笑}

ホエカー オマエツモ シッチョラッシャーカネ
それから あなたたちも 知っておられるかな

サーマワシヤ ナンカガ キヨッタガネー
猿回しや なにかが 来ていたじゃないか

101A : ハー キマシヨッタネー
はあ 来ていましたね

102B : ハー ムカシワ アゲナ コトオ ヤッテ アルキヨッタ モンガ、
はあ 昔は あんな ことを やって 歩いていた 者が、

イ イマンゴーワ アゲナ モンオ ヤリヤー マタ
× 最近 は あんな ものを したら また

島根 14-4

ハヤラート オモーヤガナモンネ {笑}
流行すると 思うんだけどね {笑}

103A : ハー
はあ

104C : イマン コドモワ サーナ セン。
今の 子どもは そんな[ことは] しない。

(A {笑}) アゲナ モノワネー
(A {笑}) あんな ものはね

105B : ハー サルヌ ゲーオ ナラワシェテ (C ハイ) サイシェンヤ
はあ 猿に 芸を 習わせて (C はい) 賽銭やら

コメヤオ (C ソー ソー) ゴタ ヤッタモンダネ
米やらを (C そう そう) たくさん あげたものだね

106C : サーマワシガ コーケン イーテ オトガ サート
猿回しが 来るから [と]言って 音が すると

ヨロコンデ マッチョリヨッタ
喜んで 待っていた[ものだ]

107B : {笑} タイコ タタイテネア。 ホイカラ マアー
{笑} 太鼓[を] 叩いてね。 それから まあ

エイグワヤ ナンカ アーヘンダケン
映画や なにか[は] ないから

島根 14-5/15-1

カゲニンゲ[34]ダコトノ ホエカラ ハチニンゲ[35]ダコトネー
影絵だとか それから 八人芸だとかね

マー ダイカグラガ アリヨッタネー
まあ 大神樂が ありましたね

108C : カゲニンギョー[36]ホド、 ニドホド ミマシタ (B ハー)
影人形だけ 2度だけ 見ました (B はあ)

カゲニンギョー
影人形[を]

14↑15

109B : ホホー ダイカグラガ コースネー
ほほう 大神樂が 来るしね

110C : *** ドコゾエ イキヤーネー ダイカグラヤ ナンカイ、
*** どこかへ 行けばね 大神樂や なんだか、

(A ハー) シヨッタドモ
(A はあ) やっていたけれども

111B : ムカシワ キヨッタケンネー オツノ ホーニモ (C ウー)
昔は 来ていたからね 私の家の ほうにも (C うん)

ホイカラ アノ コークウイドーノ ニワノ ホーデ
それから あの 公会堂の 庭の ほうで

(A ハー) ヨー ヤッタナンカ シヨッタ
(A はあ) よく やったりなど していた

島根 15-2

112C : オチノ ホーワ チート オクダケニ (B ハー)
私の家の ほうは 少し 奥だから (B はあ)

アゲナ モンガ コーナッツ コトワ ナイダケンネー
あのような ものが 来るなんていう ことは ないからね

113B : イヤー アノ チャル〔37〕ガ オッテ
いやあ あの 道化役が いて

オモシローテネー {笑}
おもしろくてね {笑}

114C : アリヤ ドーケズーダ
あれは 道化爺だ

115B : ドーケズーダ
道化爺だ

116A : アリヤ (B {笑}) オゾーテ
あれは (B {笑}) 怖くて

イケマシェダッタガ (B {笑}) {笑}
だめだったでしょう (B {笑}) {笑}

117C : イヤ マー ガッコーエ イク ズブンカラ
いや まあ 学校へ 行く 頃から

ナンギスタモンデスワ
苦勞したものですよ

島根 15-3

118A : ハー ホンヌ ネー (B ハー)

はあ 本当に ねえ (B はあ)

119C : アノ イマンゴートワ チガーテ (A ハー) オ
あの、最近とは 違って (A はあ) ×、

アノー オラガ ヨネンセーノ ズブンダッタガ

あの、私が 4年生の 頃だったか

オチニャー サンジーサンネンホド アスノ タタン

私の家には 33年ほど 足が 立たない

ズーサンガ オッテデシタダケン (B ホー)

おじいさんが いらっしゃいましたから (B ほう)

ソーノ チレアイガ マタ ビョーキ ステ マ

その 連れ合いが また 病気[を] して まあ、

ヤマヌ ヤマイガ ナイホド ヤンダモンダケン (B フン)

病まぬ 病が ないくらい 病んだものだから (B うん)

マズ クスル トル イカンナランカラ

まず 薬[を] 取り[に] 行かなければならないから

ヨネンシェーグライナ ジブンカラ

4年生くらいの 頃から

マバセ[38]ノ ホーカラ (B ハー) アノー

馬馳の ほうから (B はあ) あの、

島根 15-4

ドエ〔39〕カラ (B ハー) クスル トル
どいから (B はあ) 薬〔を〕 取り〔に〕

ガッコー ヤスンデ イキヨッタ。(B ハー) ホンニ
学校〔を〕 休んで 行っていた。(B はあ) 本当に

ハンプンドモワ ガッコーエ イキヨッタモンダダイ
半分くらいは 学校へ 行っていたものか

(B {笑}) ショーガッコーノ ヨネンシェーノ ジブンカラ
(B {笑}) 小学校の 4年生の 頃から

120 B : ソゲ、 ソゲダッタカイネー
そんな、 そうだったかね

121 C : ソノ ウマレノ サキカラ ソゲナ アシノ
その 生まれる 前から そんな 足の

タタン ズーサン
立たない おじいさん

122 A : タカラバツ〔40〕 ヌー ノーチョラッシャッターラーガ〔41〕
宝鉢〔を〕 ×× 作っていらっしゃったでしょう

123 C : ハエ、 アノ ジーサンガ サンジューサンネンホド
はい、 あの おじいさんが 33年ほど

アシガ タタザッタ (A ホー) (B ホー) ソーデ マー
足が 立たなかった (A ほう) (B ほう) それで まあ

ソノ ズーサンヌ スカラレタモンダ テテ トテモ ホンネ
その おじいさんに 叱られたものだ といったら とても 本当に

アンマリ スカラレーダケニ マー ドコエヤ カシコエヤ
あんまり 叱られるから まあ どこへや かしこへや

イク トキヌ ズッセンワテ コツカイオ モラーテ
行く 時に 10銭ずつ こづかいを もらって

(B ハー) ナンニダイ ショトセンコニ マー、
(B はあ) なんにも しようとしなくて まあ、

ゴシェンダホダー コンペイトー カーテ モッテ モドッテ
5銭ほどは 金平糖[を] 買って 持って 戻って

ソノ ズーサンノ キゲントルヌ、(B ヘー) ソノ
その おじいさんの 機嫌取りに、(B ええ) その

ズーサンヌ アゲヨッタ。ホエカラ アトノ ゴシェンワ
おじいさんに あげていた。それから あとの 5銭は

15↑16

マ、 ノコイチョク ヤツ (B {笑} ソヤッテ)
まあ、 残しておく もの (B {笑} そうして)

ソゲシテ ワーワツガ クー モナ ナンダ アリヤセン
そうして 私が 食べる ものは なんにも ない

マー サエワエ アマイ モンガ キライダッタダケニ
まあ 幸い[に] 甘い ものが 嫌いだったから

島根 16-2

カー モンガ ナイダケン (B ホー) ソゲシテ ケー
買う ものが ないから (B ほう) そうして こう

ウマレノ ウチカラ ソゲナ トコデ
生まれた 頃から そんな ことで

ナンギシタモンダダ (B フーン) ホイカラ ガッコー
苦労したものだ (B ふうん) それから 学校[を]

ヤメテカラ チーハン ズブンマデ
やめて[=卒業して]から[は] 昼食[の] 頃まで

スゴトノ テゴニ デテ モドート、 チーハンガ
仕事の 手伝いに 出て 戻ると、 昼食が

オソー ナート ワラチャ トキシラズ ツー モンダガナー
遅く になると 「おまえは 時知らず という ものだぞ」

(B {笑}) シカラレテ {笑}

(B {笑}) [と]叱られて {笑}

(B ハー) ソノグライダケニ ドッコエ デテ モドッテモ

(B はあ) そのくらいだから どこへ 出て 戻っても

カドノ サカマデ モドッタラ モー ヨーニ
角の 坂まで 戻ったら もう すっかり

キガ スズンデ (B ホー) オモシロイ コトダ
気が 沈んで (B ほう) おもしろい ことも

島根 16-3

ナンダイ ナカッタ (B フン) ナンギスタモンデスワネー
なにも なかった (B うん) 苦労したものですよね

(B イヤ)

(B いや)

124 A : オヤサンカネ ソラ
親ですか? それは

125 C : オヤジャネー
親じゃない

126 A : ズーサンカネ
おじいさんか?

127 B : オズーサンカ
おじいさんか?

128 C : オラガ オヤワネー、(A ハ) アノー ナ
私の 親はね、(A はあ) あの、×

アニノ コニ ナッチョーッタカラ (B ホー)
[自分の]兄の 子[=養子]に なっていたから (B ほう)

ソーデ オッツアンボニ ナー モンガ
それで [私にとって]おじさんに あたる 者が

ズーサンダッタ (B ホー) (A フーン)
おじいさんだった (B ほう) (A ふうん)

島根 16-4

ソゲニ サ アスガ タタンカラ オヤガ
 そのように × 足が 立たないから 親が、

オヤニ ナー モノワ オチデ アノ ナカツギ スタ
 親に あたる 者は うちで あの 中継ぎ[を] した

129A：ハー ハー マー タカラバツ カイニ イキタ コトワ
 はあ はあ まあ 宝鉢[を] 買いに 行った ことは

(B ホー ホー) オボエチョーワ

(B ほう ほう) 覚えているよ

130C：タカラバチ イーテネ
 宝鉢 [と]言ってね

131B：アゲダツタネ。 タカラバチ。 ホンニ
 そうだったね。 宝鉢。 本当に

132C：アノー ガッコー ヤメテカラワ ソノ タカラバツオ
 あの 学校[を] やめてからは その 宝鉢を

オロシヤエ オーテケ (B ホー)

卸屋へ 背負っていけ[と言われて] (B ほう)

ゴジューワテ カランデモラーテ オート ナカナカ
 50ずつ まとめてもらって 背負うと なかなか

ニモツガ オモタイダケン (A ウン) (B ホー)

荷物が 重たいから (A うん) (B ほう)

島根 16-5/17-1

ソレ オーテ ミトコロ〔42〕ノ ホーカラ
それ〔を〕 背負って 三所の ほうから

ヤシロ〔43〕ノ マチノ ホーエ (B ホー) オロシニ
八代の 町の ほうへ (B ほう) 卸しに

オーテイキヨッタ
背負っていっていました

16↑

—— 中 略 ——

133B：イヤー ショーガッコーズダイデモ ナンダイダネー
いやあ 小学校時代でも なんだね

↑17

ホンナ コター アゲー ステ テゴー スタラ マー
本当の ところは あのように して 手伝いを したら まあ

ベンキョー ユータテテ ミンナモ ダイタイ
勉強 [と]言っても みんなも だいたい

アタマ ワーカッタケン ベンキョーヤ ナンカヤ
頭〔が〕 悪かったから 勉強や なんか〔は〕

スタモンジャンナイガ ホエカラ ムカシワ エンソクナンテ イヤ
したものではないが それから 昔は 遠足などと 言えば

マー ヤマーアガリダッタネー (A ハー) タイテー
まあ 山登りだったね (A はあ) たいてい

134 A : アー アゲデスネ
ああ そうですね

135 C : ヤマアガリ。
山登り。

136 B : ナベサカ[44]エ アガートカ ジョーヤマ[45]エ アガートカ
鍋坂[山]へ 登るとか 城山へ 登るとか

イーヤナ イマンゴーノ エンソクト イヤー ケー、
[と]というような 最近の 遠足と 言えば こう、

ズドーシャデ タイシャノ ホーエ デアトカ (A ハー ハー)
自動車で 大社の ほうへ 出るとか (A はあ はあ)

ヤスギノ ホーエ デアトカネー (A ソー ソー)
安来の ほうへ 出るとかね (A そう そう)

ダカ ダイブン カワッタモンダワネ
だから だいぶん 変わったものですよ

ホエカラ ミンナ コドモ ジブンニワ オヤツヤナンカ
それから みんな 子ども[の] 頃には おやつなど

イータテテ アラヘンダケンネー (A ヘー)
特別に ないからね (A ええ)

ハラ ホセーヤナ コト イヤー ケー、
お腹[が] すいた[という]ような こと[を] 言えば こう、

島根 17-3

マー アノ ニギヤメス ステカーヌ シオムスビデモ
まあ あの 握り飯[を] して[=作って] 塩むすびでも

シテ マー クエーガヤナ コト
して[=作って] まあ 食べろよ[という]ような こと[で]

(A {笑}) イヤ ホンニ カータ モノワ ナーベク

(A {笑}) いや 本当に 買った ものは なるべく

(A {笑}) ナニモ シェンコヌ ヤーナ

(A {笑}) なにも しないように しないと、

ジェニモーケガ ****、
金もうけ[すること]が ****、

ヤリヨッタモンダワネー
[そんなことを]やっていたもんだよね

137C : ソーデモ シオムスビデモ モラーテ クヤ イイ
それでも 塩むすびでも もらって 食べたら いい[ほうだ]

*** (B {笑}) イヤ ホンノ コトニ ウチニヤー

*** (B {笑}) いや 本当の ことに 私の家には

ホンニ ケ マエカラ ケ、
本当に こう 前から こう、

ソノ ジーサンワ コガ ナエクライダケニ (B ホー)
その おじいさんは 子が ないくらいだから (B ほう)

キビシカリヨッタケニ (B ハー) アイダデ
厳しかったから (B はあ) 間で

ヨー クー モナ アイマ グーダケニ
よく 食べる ものは 間食[を] 食べるから

サージャアナイ (B {笑}) ユー コトデ
するんじゃない (B {笑}) [と]いう ことで

ケー、ソゲステ ソダッタモンデスワ
こう、そうして 育ったものですよ

138 B: フーン、イーヤ
ふうん、いや

17↑

—— 中 略 ——

139 B: イマー ナンデスガ、イロイロ コー ダイブ
今 なんですが、いろいろ[と] こう たくさん

↑18

ハナイトワケダガ ナツマツデーモ ウチノ ホーワ ダイブ
話したわけだけど 夏祭りでも 私の家の あたりは たいそう

アノ、ニギヤカー ヤッテ ムカスネー (A ハー)
あの、にぎやか[に] やって 昔[は]ね (A はあ)

アー ヤリヨッタモンダガ イマンゴロワ ケー、
ああ やっていたものだけど 最近は こう、

島根 18-2

タノンデキテ アノ {笑} アー ナン ツーテ イーカ
頼んできて あの {笑} ああ なんと 言って いいか

ニギヤカサヤナ モノオ ケー、 タノンデキテ
にぎやかそうな ものを こう、 頼んできて

カネー ダイテ ヤッテスマーガ ムカスワ
お金を 出して やってしまうだろう 昔は

タカタ〔46〕 コトマクラ〔47〕 コーリ〔48〕 ツーヤナ
高田 琴枕 郡 というような

ゴット ベツベツニ アノー
全部 別々に〔＝地区ごとに〕 あの

ニワカ〔49〕ー (A ウン) ステ デタリネー
にわか〔芝居〕を (A うん) して 出たりね

140 A : ニワカー ステ デターナンズネー (B {笑})
にわか〔芝居〕を して 出たりなんてね (B {笑})

サレマショッタ
されていました

141 B : ソレカラ チョード スワカデ ナーテモ (A ウン)
それから ちょうど にわか〔芝居〕で なくても (A うん)

マー ガクタイ ヤートカ (A ウン) ホイカラ
まあ 楽隊〔を〕 やるとか (A うん) それから

142A：コトマクラワ スバイ
琴枕は 芝居

143B：アー コトマクラ {笑}
ああ 琴枕 {笑}

144A：タカタモ スバイガ ジョーズデネー (B ソー ソー {笑})
高田も 芝居が 上手でね (B そう そう {笑})

マー タカタワ ダイタイ カグラオ スタリネー (B アー)
まあ 高田は だいたい 神楽を したりね (B ああ)

ホンカラ タカタカグラノ オトバカリダ ナンツーテ イーテモ
それから「高田神楽の 音ばかりだ」などと 言っても

(B {笑}) マー ムカシワ カグラニネー
(B {笑}) まあ 昔は 神楽にね

145B：インヤ アゲデスワ
いや そですよ

146A：サレタ コトガ アッタス
された ことが あったし

147B：タカタニャネー (A ハー) イマノ マー
高田にはね (A はあ) 今の まあ

カシラウチ〔50〕モ フッカツステ
頭打ちも 復活して

島根 18-4

イマ マタ ウマイコト ヤラレマスドモ (A ハー)
今 また 上手に されますけれども (A はあ)

ムカスカラ ソーダケン タカタ ユー トコワ
昔から そうだから 高田 [と]いう ところは

アーユーフーナ (A ワリアイデネー)
ああいうふうな (A 割合でね [= 割とね])

ゲーノ ナヌガ、デントーテキナネー (A ハー)
芸の なにが、伝統的なね (A はあ)

ナンガ アッタモンデスネー
なにが、あったものですね

148A：ハー マー アノ X7サンガ ホンヌ スバイガ ジョーズデ
はあ まあ あの X7さんが 本当に 芝居が 上手で

(B フン) ヤクシャジャッタモンダガ (B アー)
(B うん) 役者だったものですが (B ああ)

ヤッパ コトマクラト コンビデ ヤッタモンダネー
やっぱり 琴枕と コンビで やったものですね

149B：アゲデスワ X8サンガ
そうですよ X8さんが

150A：X8サント
X8さんと

島根 18-5/19-1

151 B : スイチョットカラネー (A ハー)
好きだったからね (A はあ)

アー ホーデ アート メーコンブデ (A ハー)
ああ それで あれと 名コンビで (A はあ)

ヤラレタモンデスタドモネ
されたものですけどね

152 A : ハー ホイカラ アノー X 9 ガ コールエ イクマデノ
はあ それから あの X 9 が 郡へ 行くまでの

トコデ (B ホー) アノー アー
ところで (B ほう) あの ああ

18↑19

153 B : アゲカイナー
そうかね

154 A : アノー トナーノ (B ハー) X10サンノネー
あの 隣の (B はあ) X10さんのね

(B ハー) アリャ アノ ナンダイダガ?
(B はあ) あれは あの なんとかでしょう?

ホンニ ジューハチバンダガ X11ツアンノ *****
本当に 十八番でしょう X11さんの *****

155 C : コトマクラワネー
琴枕はね

島根 19-2

156A：アノ ユキノワカレダ (C フン フン フン フン)
あの「雪の別れ」だ (C うん うん うん うん)

イーテ (B {笑})
[と]言って (B {笑})

マー トテモ ホンニネー (B {笑}) ホーンニ
まあ とても 本当にね (B {笑}) 本当に

X11ツアンノ ジョーズデ
X11さんの[=が] 上手で

157B：インヤ ジョーズダッタ
いや 上手だった

158A：ホエカラ X10サンヤネー (B ハー) ソゲナ トキヌ
それから X10さんやね (B はあ) そんな 時に

アノー イマノ オカダ[51] イッチョラレーネー (B ウン)
あの 今の 岡田[に] 行っておられるね (B うん)

X12サンヤ (B ハア) X13ヤ (B ハー ハー)
X12さんや (B はあ) X13や (B はあ はあ)

ホエカラ アノ アソコノ シモジョ[52]ノ マエノ
それから あの あそこの しもじょの 前の

X14サンヤ (B ハイ ハイ) アーラツー
X14さんや (B はい はい) あの人たち[を]

島根 19-3

アノー ツカーテネー (B フン) トーテモ
あの 使ってね (B うん) とても

ホンニ ジョーズニ ヤラエマショッタワネー
本当に 上手に やっていらっしゃいましたよね

159 B : {笑} イヤー アゲデシタ
{笑} いや そうでした

160 A : ホンニ X11ツアンワ スンカラ スキダッタサーデネー
本当に X11さんは 心から 好きだったようですね

161 B : イヤー スキ スキ サケモ スキダッタガ イマノ {笑}
いや 好き 好き 酒も 好きだったが 今の {笑}

(A ハー) アノ ゲーガ スキダッタネー
(A はあ) あの、芸が 好きだったね

162 A : マー ヨー マワシナッタナー
まあ よく [にわかを]舞われたね

163 B : アーユーフーナネ アノ、 ソレグライダケン
ああいうふうだね あの、 それくらいだから

ジューケンドーモ ジョーズダッタスネー
柔剣道も 上手だったしね

164 A : ハー ソゲカネ
はあ そうかね

165 B : ハー アリヤー メイズズングーマデ

はあ あれは 明治神宮まで

イチョッテデスケネー (A フーン) アー、
行って[=出場して]おられますからね (A ふうん) ええ、

アーユーフーナ コトガ ダイタイ スキデスタワ
ああいうふうな ことが だいたい 好きでしたよ

(A ハー ハー) ダレモ ダイヒョー
(A はあ はあ) だれも 代表[になることは]

キライジャネードモ ナント ツトメチョート リョーガケワ
嫌いではないけれど なんと 勤めていると 両方は

(A ハー) デ、 ナカナカ イー グアイニ
(A はあ) × なかなか うまい 具合に[は]

ナラエデネー
ならないでね

166 A : アゲダガ コールニ アゲナ

そうだね 郡に[は] あんな

167 B : アゲナ ドーブ ドーブチャ ナンダカ {笑}

あんな ××× 動物や なんだか {笑}

168 A : スバイ マワッシャル スガ

芝居[を] 舞われる 人が

169 B : オランガネ

いないよ

170 A : ナカッタダラーガネ

なかったでしょうよ

171 B : アー イッペン アノー プラクベツヌ イマ アノ

ああ 一度 あの 部落 [= 集落] 別に 今 あの

ナンナト ナツマツリヌ ゲーオ ヤラー ユー コトデネー
なんでも 夏祭りに 芸を やろう [と]いう ことでね

(A ハー) ホエカラ ミンナモ アスコデ

(A はあ) それから みんなも あそこで

アー ヤタイ クンデ {笑}

ああ 屋台[を] 組んで {笑}

ヤッタ コトガ アーガ (A ハー)

やった ことが あるだろう (A はあ)

19↑20

アノー ナンダイオ ヤッテネー アリヤー、アート、

あの なんとかを やってね あれは ええと、

モミズノ アルノヌ ユキガ フル ツー ヤツ

「紅葉が あるのに 雪が 降る」という もの

メノ ミエン アーガ ナンテ ナー、{笑}

目の 見えない あれは なんて 名前、{笑}

172D：サワイツカネ
沢市かね？

173B：アー サワイチカ
ああ 沢市か

174D：ツボ ツボサカ
×× 壺坂

175B：アー ツボサカレーゲンキ[53]オ ヤッター
ああ 『壺坂靈験記』を やった

(A アー アー アー) ソノトキヌ アノー

(A ああ ああ ああ) その時に あの

X15サンガ (A フン) アノー {笑}

X15さんが (A うん) あの {笑}

メノ ミエン モンニ ナッテネー (A {笑}) {笑}

目の 見えない 者に なってね (A {笑}) {笑}

イー コトガ オモシレーダ (A {笑}) ドゲダッタカイナー

言う ことが おもしろいよ (A {笑}) どうだったかな

アメノ フラヌニ ユキガ フーダイ ドゲダイ イーテ

「雨が 降らないのに 雪が 降る」とか なんとか 言って

ヨーニ {笑} オカスーテネー (A ハー)

本当に {笑} おかしくてね (A はあ)

島根 20-3

ソノ ケーコオ サーニ ナカナカ
その 稽古を するのに なかなか

ソレカ シェンセーノ イー プンガ オラント
それから 先生の いい 人が いないと

アリヤ デキンモンデネー (A ウン ウン ウン)
あれは できないものでね (A うん うん うん)

ホントーワ。 ホーデ カメダケガ ステモ アノー
本当は。 それで 亀嵩が しても あの

アーユフーナ マツルヌデモ アー
ああいふうな 祭りにでも あの、

チューコンヒノ マエデ ヤッタ ズブンデモ
忠魂碑の 前で やった 頃でも

X16シェンシェーヤツガネー (A ウン ウン)
X16先生たちがね (A うん うん)

ヤッパ ヘーカ マー ゲンザイジャー
やっぱり それから まあ 現在では

X17シェンシェーガ ウマイデスガ
X17先生が 上手ですよ

176A : アー X17センセーガ (B ハイ) ジョーズダネー
ああ、 X17先生が (B はい) 上手だね

177B : アー、アーユーフーナ アノー ヤッパ ヒトツノ、
ああ、ああいうふうな あの やっぱり 一つの、

ナラワシエル ヒトノ イー ヒトガ ナイトネー (A ハイ)
習わせる 人の いい 人が ないとね (A はい)

ナカナカ デキング ソノテンニ オイチャー
なかなか できないが その点に おいては

イマノ タカタナンカワ ヤッパル デントーテキヌ
今の 高田などは やはり 伝統的に

ムカスカラ カグラデモ ヤッチョラレタス
昔から 神楽でも やっておられたし、

ホイカラ (A ウン) カスラウツデモ アッタ
それから (A うん) 頭打ちでも あった

トユーヤナ コトデ オラー アゲナ コトワ
というような ことで 私は あんな ことは

タカタノ ヒトガ ウマイナー ト オモーテ オモーヤナ
高田の 人が 上手だな と 思って 思うような

コトデスガネー
ことですよ

178A : カスラウツー コノー マエワ ナンネンホド マエダッタヤラ
頭打ち[は] この 前は 何年ほど 前だったか

マー X 3 ノ ズーサント X18ツアンガネー
まあ X 3 の おじいさんと X18さんがね

(B ハイ ハイ) アノー サエツー ゴロデスケンネー
(B はい はい) あの なさっていた 頃ですからね

(B ハイ ハイ ハイ) ソーカラ マー ウマイコト
(B はい はい はい) それから まあ 上手に

ヤラレタモンデスワネ (B ホー) ホーカラ マタ
されたものですよね (B ほう) それから また

イマノネー マタ ワカイ スーガネー ソレ (B ホー)
今のね また 若い 人たちがね それ (B ほう)

フッカツステ (B ホー) ダイブン ジョーズニ ヤリマ**
復活して (B ほう) だいぶん 上手に やりま**

179B: インヤ ソゲデス
いや そうです

20↑21

アノー トツバタ[54]ノ X19ツアング
あの とちばたの X19さんが

カグラジャー ダイブン ドー[55] タタイトル
神楽では だいぶん 鑿[を] 叩いたり

ホイカラ ナンカ ウマイコト
それから なんだか 上手に

島根 21-2

180 A : アー アノ オヤガ
ああ あの 親が

181 B : インヤ ソーデ X19ツアンモナ、 イヤ ***
いや それで X19さんもね、 いや ****

182 A : アレ アンマ マー イッポ (B ウン ウン)
あれ[は] あんまり まあ /// (B うん うん)

X19ツアンニ ホエカラ X20サンニ (B ウーン)
X19さんに それから X20さんに (B うん)

イヤー トテモ マータモンダワネー
いや とても 舞ったものですよ

183 B : X20サンワ ツート ボサエクナ ヤツデ ダメダネー {笑}
X20さんは ちょっと 不細工な もので だめだね {笑}

184 A : ハー ソレカラ イマノ
はあ それから 今の

185 B : X21サンヤ (A ウン) カネバタケ[56]ノ
X21さんや (A うん) かねばたけの

186 A : アリヤー マー **** (B {笑}) アノー コーナ
あれは まあ **** (B {笑}) あの こんな

X22サン イッテ
X22さん [と]言って

島根 21-3

(B ア ソー ソー) アーガ

(B ああ そう そう) あれ[=あの人]が

187 B : アゲデスワ
そうですよ

188 A : ドータタキ スーダイ
鑿叩き というか

タイコタタキ (B ハイ) スーダライネー
太鼓叩き (B はい) というかね

189 B : ハイ ヨカッタゲデスネー アリヤ
はい、よかったようですね あれは

190 A : ハー ジーズニネー アー ケー、ホンニ ケ、
はあ 上手にね ああ こう、本当に こう、

タツアガッテシマイマショッタケンネー[57]
立ち上がってしまっていましたからね

191 B : ハー ソー ソー {笑}
はあ そう そう {笑}

192 C : タイコタタキ (A ウン) タイコタタキ スーワ
太鼓叩き (A うん) 太鼓叩き[を] する[の]は

(A **) ****ガ ドータタキ (A ウン) ***
(A **) ****ガ 鑿叩き (A うん) ***

島根 21-4

193 A : マー トテモ ホンニ (B イヤ)
まあ とても 本当に (B いや)

ソーノズブンニャーネー (B ハー)
その時分にはね (B はあ)

ウツノ アノー オヤズラツモ ツータテ
私の家の あの 父親たちも 一緒に

ソノネー ****
そのね ****

194 B : ウン アゲダッタ (A アー) ** ソー ソー アゲアゲ
うん そうだった (A ああ) ** そう そう そのとおり

195 A : アノー デテホスー (B エー) ユー コトデネー
あの 出てほしい (B ええ) [と]いう ことでね

** ウチニャー アゲナ コトワ ホンニ ケー、
** 私の家の[父親]は あんな ことは 本当に こう、

マズメイッポーデネー
真面目一方でね

196 B : ダイタイ マズメナ ホーダ {笑}
だいたい 真面目な ほうだ {笑}

197 A : {笑} ケー アゲナ コトヤナンカ
{笑} こう、 あのような ことなど[は]

島根 21-5

キライデシタドモネー (B ホー ホー)
嫌いでしたけどね (B ほう ほう)

ソノ デー イー コトデ
その 出ろ [と]いう ことで

198 B : チキアイダワ {笑}
付き合いだよ {笑}

199 A : ソレカラ オラニ ノーテゴシェ ユーテネー (B ホー)
それから 私に 縫ってくれ [と]言ってね (B ほう)

アノー アゲナ キンバクノ ココ
あの あんな 金箔の ここ[を]

ズーット (B ハー) ナンダイ シタ ヤツネー
ずっと (B はあ) なにやら した もの[を]ね

(B ハイ ハイ) アレ エツマイ アノ ノエ
(B はい はい) あれ[を] 1枚 あの 縫え

イーテネ (B ホー) ホイカラ マ アノ ツケタ
[と]言ってね (B ほう) それから まあ あの つけた

ヤツホド アノ (B ウン) アゲマスタワ (B ウン ウン)
ものだけ あの (B うん) あげましたよ (B うん うん)

*** コトモ アーマスワ (B ハイ ハイ)
*** ことも ありますよ (B はい はい)

ドーガナカイ マワーテデシタダライラネー
どのくらい 舞っておられたのでしょうかね

200B：イヤ ホンデスワネ
いや そのとおりですね

201A：ホンカラ マー クウズニ アーマスタダケンネー イマノ
それから まあ 火事に 遭いましたからね 今の

コークワイドーガ
公会堂が

202B：コー、コークワイドーガネー (A ハー) ソー ソー
×× 公会堂がね (A はあ) そう そう

203A：ソーデ ナンダイカンダイテ ミンナ
それで なんでもかんでも 全部

ヤケマスタダケンネー (B ウン)
焼けましたからね (B うん)

ソーデ ケー、オスマイニ ナッチョーマスワ (B {笑})
それで こう、お終いに なっていますよ (B {笑})

21↑22

204C：カグラドーグガ ヤケテ (A ハー) (B ハー)
神楽道具が 焼けて (A はあ) (B はあ)

205A：カグラドーグガ ヤケテ ソノ イシヨーガ (C フン フン)
神楽道具が 焼けて その、衣装が (C うん うん)

島根 22-2

ムンナ ケ、 ヤケタダケンネ (C ウン)
 みんな こう、 焼けたからね (C うん)

カ、 カベヤモン カケテアツタスネー
 ×、 // // // [が] 掛けてあったしね

206 C : カグラサンワ ナカナカ ドーグガ ヨーケネ
 神楽は なかなか 道具が たくさんね

207 A : アー メンガ イット イーケンネー
 ああ [神楽には] 面が たくさん 必要だからね

208 B : アレガネー デキンデスワ ナカナカネー (A ハー ハー)
 あれがね できないですよ なかなかね (A はあ はあ)

209 C : X20サンガ スシバトオヌヌ キマッチョッタケン
 X20さんが シバトオニ[という役]に 決まっていたから

210 A : イヤー X19ツアンノ マイコト マワリヨッタケンネー
 いやあ、 X19さんが 上手に 舞われていたからね

(B ハー) * * * * * ホンニ

(B はあ) * * * * * 本当に

211 B : アノネー イズモノ ホーノ カンヌシサンノ カグラノネー
 あのね 出雲の ほうの 神主さんの 神楽のね

(A ハー) ドーグガ カメダケノ ユノズンジャ[58]、

(A はあ) 道具が 亀嵩の 湯野神社、

島根 22-3

X23シェンシェーノ トコヌ チヤント

X23先生の ところに ちゃんと

トッチョイテアリヨッタゲナデスワ (A ホー)

取っておいてあったそうですよ (A ほう)

ホドモ クワズデ コーモ ヤケタ。(A フーン)

それでも 火事で これも 焼けた。(A ふうん)

ソーデ イズモノ コッツノ ホーノ カグラ カンヌシカグラガ

それで 出雲の こっちの ほうの 神楽 神主神楽が

ヤメニ ナッタゲデスワ (A フーン) ウン。

やめに なったそうですよ (A ふうん) うん。

22↑

島根県仁多郡仁多町1980注記

〔1〕 タチマスダケン

立ちますから。共通語に直訳すると「立ちます+だ+から」。断定辞「だ」が入る。

〔2〕 ギバンデ

がんばって。「ギバム」は、さまざまな意味で使われる。

〔3〕 ヨー

「ヨー ～セン」の形で、「～することができない」を表す。

〔4〕 ソーデ

「ソレデ [sorede]」の [r] の脱落によって、「ソエデ」となり、さらに「ソーデ」となった。

〔5〕 ナナサイコヤビンボー

七細工八貧乏。多芸多才の人は、なんでもできるので成功しそうなものだが、かえってそれが災いして貧乏することが多い、という意味。

〔6〕 フロスマ

広島。「ヒ」が「フ」となるのは出雲方言の特徴の一つ。

〔7〕 ダエコン

大根。アクセントは「ダエ」が低く、「コン」が高く発音される。

〔8〕 ジャーン

たくさん。十分に。

〔9〕 イスコニ

いい具合に。場合によっては「都合よく」の意にもなる。

〔10〕 シェワイテ

一生懸命に。「シェワエテシェワエテ」で「ひっきりなしに」という意味になる。

〔11〕 センバ

千把扱き。稲や麦の穂を脱穀するための農具。櫛の歯のように並んだ鉄片に、穂を挟んで籾をしごき落とす。

〔12〕 オラーツ

私たち。「オラーツ」「オランツ」「オラヤツ」は、複数形を表す。

〔13〕 ケー

『島根県方言調査報告書（Ⅰ）—仁多町亀嵩地区—』（島根県教育委員会、1988年）の付録で、調査を担当した石橋俊雄氏が、訳に苦勞したことばの一つとして、「ケー」を挙げている。ここでは、「こう」とした。

〔14〕 ヨリ

「縫り縄」のこと。

農業や民俗関係のことばについては、亀嵩の東隣の、能義郡広瀬町^{ひだ}比田の民俗を中心にまとめた『能義奥の民俗』（畑伝之助、島根県文化財愛護協会、1967年）、『出雲比田の民俗』（畑伝之助、山陰民俗学会、1975年）などに詳しい。

〔15〕 コギマショッタ

脱穀していました。共通語に直訳すると「扱く＋ます＋よる＋た」。ほかの方言では、アスペクトを表す「ヨル」は動詞に続き、その後「マス」「タ」が続き、「コギヨリマシタ」という語順になることが多い。

〔16〕 ヨズロー

よじろう。松やにで作った蠟燭のようなもの。

〔17〕 コナーシ

脱穀。「コナス」は、「脱穀する」の意。

〔18〕 ハスカーノッテ

ハシカーナッテ。かゆくなって。「ハシカイ」は、いくつかの意味があるが、ここでは、のどがかゆいような状態を指す。共通語には該当する表現がない。

〔19〕 ボクトー

木の切れ端など、棒切れのこと。「木刀」のことではない。

〔20〕 マゲナ

「立派な」「見事な」「上手な」などの意。

〔21〕 ツリタタキ

塵叩き。杵と藁くずとを叩いて分けるのに使う杵のこと。

[22] カガマタ

『島根県方言辞典』に「稲を扱ぐ時、五六粒ぐらい残った穂を、万石通しにかけて篩に上げ、更に打って出来た塵の小なるもの」とある。

[23] ウシノーヤ

ウスニワ。白庭。土間のこと。土間に白が据えてあったことによる。

[24] クワナ

出雲方言では母音の無声化が起こりやすく、ここでは、「クワナ [kuwana]」の [u] が無声化し、合拗音「クワ」のようになった。

[25] オータン

大谷。仁多郡横田町の大字。木次線^{やかわ}八川駅の西。

[26] ゴットガ オタガイニ

みんながお互いに。「ゴット」は「全部」の意。

[27] シンボーニ

熱心に。「シンボーナ」は、「熱心な」の意。

[28] サイブ

仁多町北部の上三所^{かみみところ}の西部という字のことと思われるが、「ザエ」（田舎、在郷）とも解釈でき、いずれかは不明。

[29] スダニ

小字と思われるが、場所は不明。

[30] シモナカ

小字と思われるが、屋号または姓の可能性もある。

[31] ツクサンデ ベンター ナラータ

からかう相手、つまりX 4 氏の名前と、ベンタ（仔牛）をかけたもの。

[32] テンノーサン

横田町の仁徳天皇神社のことか。

[33] デコ

人物画。似顔絵。

[34] カゲニンゲ

影絵のことか。もしくは、影絵を使った影絵芝居のことか。

[35] ハチニンゲ

八人芸。寄席演芸の一つで、横笛を吹きながら片手で太鼓を叩き、同時に足でささらをこすりあわせて音を出すなど、一人で八つの楽器を操ったり、八人の声色を出したりする芸。

[36] カゲニンギョー

影絵のようなものか。もしくは、影絵芝居で使われた人形のことか。

[37] チャル

動詞で「道化る」の意があることから、道化役のことかと思われる。上方の芸人ことばには、「道化役者」の意の「チャリ」がある。

[38] マバセ

馬馳。仁多町の大字。木次線^{いずもやしろ}出雲八代駅のあたり。

[39] ドエ

横田町大谷の小字か。詳細は不明。

[40] タカラバツ

宝鉢。竹などで編んだ筥。

[41] ノーチャラッシャッターガ

作っていらっシャったでしょう。「ノーチャル」は、「編んでいる」「縫っている」の意。

[42] ミトコロ

仁多町北部の上三所。

[43] ヤシロ

八代。仁多町の大字。上三所の西、木次線出雲八代駅のあたり。

[44] ナベサカ

亀嵩の北西、仁多町と大原郡大東町との境にある鍋坂山（749.7m）のことか。

[45] ジョーヤマ

亀嵩の西にある城山（578.1m）のことか。

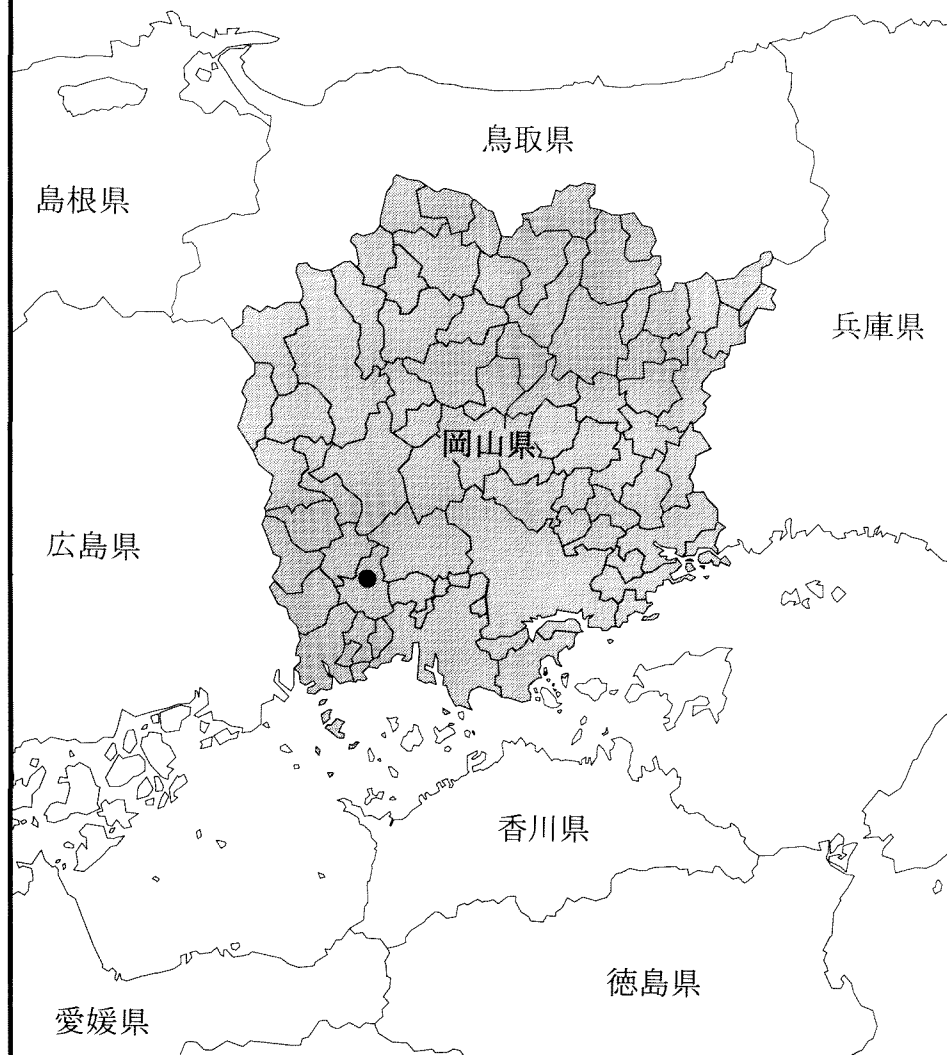
[46] タカタ

高田。亀嵩地区の小字名。

- [47] コトマクラ
琴枕。亀嵩地区の小字名。
- [48] コーリ
郡。亀嵩地区の小字名。
- [49] ニワカ
にわか芝居。宴席などで即興に演じたこっけいな芝居。
- [50] カシラウチ
頭打ち。牛供養の時などに撥で鑿^{どう}や太鼓を叩いて舞いながら音頭をとる囃子方のこと。
- [51] オカダ
地名か。
- [52] シモジョ
屋号か。
- [53] ツボサカレーゲンキ
浄瑠璃の『壺坂靈験記』。約300年前、大和国高取郷土佐町（現・奈良県高市郡高取町）にある壺阪寺のふもとに住んでいた沢市と妻のお里の夫婦愛を題材にした物語。
- [54] トツバタ
小字か姓か不明。
- [55] ドー
鑿。太鼓の一種。胴長太鼓で、皮の直径と胴の長さがほぼ同じ寸法のもの。一方、太鼓は皮の直径より胴のほうが短いもの。
- [56] カネバタケ
小字か姓か不明。
- [57] タツアガッテシマイマシヨッタケンネー
立ち上がってしまっていましたからね。共通語に直訳すると「立ち上がる＋て＋しまう＋ます＋よる＋た＋けん＋ね」。「マス」と「ヨル」の位置が逆転している例。さらに、「ケン」「ネ」が後接する。
- [58] ユノズンジャ
亀嵩の郷社。横に松本清張の小説『砂の器』の記念碑がある。

**Ⅲ. 岡山県小田郡矢掛町
1979**

岡山県小田郡矢掛町



岡山県小田郡矢掛町1979話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	石田 福与 岡田 章
司会者	岡本 政男
収録担当者	長尾 人志
文字化担当者	長尾 人志
共通語訳担当者	長尾 人志
解説担当者	長尾 人志

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一 江川 清 田原 広史 井上 文子
編集協力者	中東 靖恵 石橋 聖子 鳥谷 善史 熊谷 康雄

岡山県小田郡矢掛町1979解説

収録地点名

おかやまけん お だ ぐんやかげちやううち だ
岡山県小田郡矢掛町内田

収録地点の概観

位置

矢掛町は、岡山県の南西部、小田郡の南東部に位置する。倉敷市の市街地より北西に約20kmの地点である。

交通

山陽本線新倉敷駅より矢掛行バスで15km, 40分, 矢掛下車。高梁・鬼ヶ嶽^{たかはし}行バスで4 km, 10分, 内田下車。

地勢

矢掛町の南部、吉備高原と遙^{ようしょうざん}照山との間の断層谷を高梁川の支流小田川が東に流れる。また、美山川^{みやまかわ}が北部中央を南に流れ、小田川と合流する。小田川流域には水田が開け、人家が集中している。盆地性の気候で夏は高温であるが、冬は比較的温暖で積雪は少ない。年間降水量は約1,000mmで大半が夏季に集中する。

行政区画

1889(明治22)年、内田村・宇角村・下高末村・上高末村の一部の4か村が合併して美川村となった。1954(昭和29)年、矢掛町・美川村・三谷村・山田村・中川村・川面村の6町村が合併して矢掛町が成立した。1961(昭和36)年、小田町を合併し、現在に至る。

戸数・人口

1979(昭和54)年7月現在、矢掛町の世帯数4,763戸、人口18,665人。内田の世帯数487戸、人口1,925人。

産業

かつては、米・麦・養蚕を主として、若干木材生産も行われていたが、養蚕は衰退し、梨や野菜の栽培などが増加している。農業従事者は中高年齢層が主体で、若年層は南部の臨海工業地帯に通勤する者が多い。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

岡山県の方言は、^び備前・^び備中・^み美作の旧3国によって地域差が見られる。

矢掛町は、備中南部方言に属する。備中北部方言とは語彙・アクセントに若干の違いが認められる。しかし、備前方言や備後方言との差異は著しくはない。

音韻

- (1) 連母音の融合または長音化が見られる。

アカエ, アケー (赤い)

ナエ, ネー (ない)

アエサツ, エーサツ (あいさつ)

シレー (白い)

アチー (熱い)

備後との境では「アイ」は「アー」となる場合がある。

アカー (赤い)

ナー (ない)

- (2) 「ウエ」「クエ」「ツァ」「ツォ」「ミュ」などの音がある。

イウエー (祝い)

クエー (来い)

オツツァン (おじさん)

ゴツツォー (ごちそう)

ミュー (見よう)

- (3) 助詞「を」「に」「へ」「は」がその前の語末と融合する。

ミミュー (耳を)

テョー (手を)

ヤメー (山へ, 山に)

ヤマー (山は)

- (4) 古音の「シェ」「ジェ」を残している。

シェーフ (政府)

シェーサンシェー (生産性)

シジェンニ (自然に)

アクセント

アクセントは東京式アクセントであるが、東京語と違うものもある。

ナガ (名が)	(東京語 ナガ)
ハガ (葉が)	(東京語 ハガ)
ヒガ (日が)	(東京語 ヒガ)
ナツガ (夏が)	(東京語 ナツガ)
フユガ (冬が)	(東京語 フユガ)

文法

- (1) ナ行変格活用の名残りの「シヌル」「イヌル」がある。ただし、仮定形には五段活用とナ行変格活用とがある。

シヌル (死ぬ)
イヌル (帰る)
シニャー (死ねば)
シヌレバ → シヌリャー (死ねば)
イニャー (帰れば)
イヌレバ → イヌリャー (帰れば)

- (2) 共通語とは異なる五段活用動詞が見られる。

カル (借りる)
タル (足りる)
カケラン (駆けない)

- (3) 「立てる」「混ぜる」を自動詞として使う。五段活用動詞である。

タテッタ (立った)
タテラン (立たない)
タテリマス (立ちます)
マジェラン (混ぜらない)

- (4) 形容詞のうち、「濃い」「酸い」「遠い」「多い」は、「コイー」「スイー」「トイー」「オイー」となる。推量形・過去形・仮定形を作る場合は、長音を除いた部分が語幹になる。

コイー (濃い)
コイカロー (濃かろう、濃いだろう)

コイカッタ (濃かった)

コイケリヤー (濃ければ)

- (5) 「アイ」「オイ」「ウイ」で終わる形容詞は、融合して末尾が「エー」「イー」となる。推量形・過去形を作る場合は、融合形から長音を除いた部分が語幹になる。

アケー (赤い)

アケカロー (赤かろう, 赤いだろう)

アケカッタ (赤かった)

シレー (白い)

シレカロー (白かろう, 白いだろう)

シレカッタ (白かった)

アチー (熱い)

アチカロー (熱かろう, 熱いだろう)

アチカッタ (熱かった)

- (6) 形容詞の語幹に「カリョータ」をつけて、過去の習慣・継続を表す。

ウレシカリョータ (うれしかった)

エラカリョータ (苦しかった)

- (7) 形容動詞の終止形は、連体形と同じく「ナ」で終わることが多いが、語尾が「ジャ」となる場合もある。

キレーナ (きれいだ)

キレージャ (きれいだ)

過去形などを作る場合は、「～ナ」の形全体が語幹となり、形容詞的に活用する。

キレーナカッタ (きれいだった)

シズカナカロー (静かだろう)

- (8) 打消は「ン」、打消の過去は「ナンダ」「ザッタ」で表す。

イカン (行かない)

イカナンダ (行かなかった)

イカザッタ (行かなかった)

- (9) 共通語の「ないで」にあたるものに「ンデ」「イデ」「ーデ」がある。

イカンデ (行かないで)

イカイデ (行かないで)

イカーデ (行かないで)

- (10) 推量は、「ジャロー」のほかに「ウ」で表すことが多い。「ウ」は五段活用以外の動詞にもついて、動詞の語尾と融合する。意志も「ウ」で表される。

カクジャロー (書くだろう)

カコー (書くだろう, 書こう)

オキユー (起きるだろう, 起きよう)

ウキヨー (受けるだろう, 受けよう)

コー (来るだろう, 来よう)

シヨー (するだろう, しよう)

- (11) 打消推量・打消意志は、「マー」で表す。「マー」は動詞の終止形につくが、五段活用以外に続く時は、動詞の語尾の「ル」が脱落する。

トルマー (取るだろう, 取らないでおこう)

ノムマー (飲まないだろう, 飲まないでおこう)

オキマー (起きないだろう, 起きないでおこう)

ウケマー (受けないだろう, 受けないでおこう)

クマー (来ないだろう, 来ないでおこう)

スマー (しないだろう, しないでおこう)

- (12) 使役は「ス」「サス」で表す。

イワス (言わせる)

タベサス (食べさせる)

- (13) 助動詞「ようだ」「そうだ」は、形容動詞と同様、「ヨーナ」「ソーナ」で終わる場合がある。

カレイルヨーナ (枯れるような)

- (14) 動詞の連用形に「オル」をつけて、動作の進行を表す。

カキ+オル → カキョール (書いている)

イイ+オル → イョール → ヨール (言っている)

- (15) 動詞の連用形に「トル」をつけて、動作の進行や結果の存続を表す。

カエトル（書いている）

イネワ ヨー デキトル（稲はよくできている）

- (16) 共通語の「なければいけない」を「ニャーオエン」と言う。

ウエニャー オエン（植えなければいけない）

- (17) 敬語表現としては、「テジャ」「チャッタ」などがある。

イテジャ（行きなさる）

ユーチャッタ（おっしゃった）

イッチャッタ（行きなさった）

その他、次のような敬語表現がある。

ツカーサル（くださる）

イッテツカーサエー（行ってください）

クスリデゴザンス（薬でございます）

- (18) 「なさい」にあたるものには、次のような表現がある。

イカレー（行きなさい）〈備前〉

イキナイ（行きなさい）〈備中〉

イキナエー（行きなさい）〈備中〉

イキネー（行きなさい）〈備中〉

敬意が増すと次のような表現になる。

イキンサエー（行きなさい）

オイキンサエー（行きなさい）

- (19) 引用の助詞「と」が抜ける。

ドーシタン ユーケー（どうしたの〔と〕言うから）

- (20) 禁止の「ナ」は終止形につくが、五段活用以外に続く時は、動詞の語尾の「ル」が脱落する。

トルナ（取るな）

オキナ（起きるな）

ウケナ（受けるな）

クナ（来るな）

スナ（するな）

(21) 共通語の「ばかり」は、「バー」で表す。

ワスレルバー スル（忘れてばかりいる）

(22) 理由を表す「から」は、備中では「ケー」が多く使われる。なお、美作では「ケン」、備前では「カラ」が使われることが多い。

ミズガ アッタケー（水があったから）

ニチヨージャケー（日曜だから）

(23) 動詞の終止形に詠嘆の終助詞「ワ」がついた場合、融合して「ラー」となる。

ノラー（乗るわ）

オキラー（起きるわ）

ウケラー（受けるわ）

クラー（来るわ）

スラー（するわ）

シヌラー（死ぬわ）

(24) 終助詞には、「ナー」「ノー」「ドナー」「ドノー」「ドナーヤ」「ドノーヤ」「デ」「ガ」などがある。「ノー」「ドノー」「ドノーヤ」は、女性に使わない。

エラカッタドナー（苦しかったよな）

エレードノー（苦しいよな）

イクガ（行くよ）〈強い言い方〉

(25) 接続助詞「テ」に強調を表す助詞「カラ」をつけて、「テカラ」と言うことが多い。

モテイテカラ（持って行って）

ウシカイン イテカラ（牛飼いに行って）

(26) 接続詞には、次のようなものがある。

ホシテ（そして）

セーカラ（それから）

ヘーカラ（それから）

セーデ（それで）

ヘーデ（それで）

(27) 不可能を表す場合、「ヨー」と打消の助動詞「ン」が使われる。

ヨー イカン (行けない, 行くことができない)

(28) 疑問詞を受けて仮定形で文を結び, 疑問や反語を表す。

ナニガ ミタケリヤー (なにが見たいか) 〈疑問〉

ナニガ ミタケリヤー

(なにが見たいだろうか, いや, 見たいはずはない) 〈反語〉

(以上の解説は, 基本的に, 「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。)

岡山県小田郡矢掛町1979凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトイテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタんだナー↓

よく やったんだなあ。

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

///

〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//// 「文字」 なんです。

[]

〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

=

〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| |

〈全角〉

注意書きなど。

例：| A に対して |

[]

〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある再生の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「岡山23-1」は CD トラック番号が23で、その1ページ目ということである。「岡山23-1」「岡山23-2」……「岡山23-7/24-1」……「岡山36-7」の

ように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分のトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑23, 23↑24, ……… 35↑36, 36↑ のように表示される。

第14巻のCD（68分16秒）には、岡山県小田郡矢掛町の談話、【農業と天候】の全体の音声を取録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラック No.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
23	p. 152・ℓ . 1	p. 158・ℓ . 3	0:01:57
24	p. 158・ℓ . 5	p. 164・ℓ . 3	0:01:58
25	p. 164・ℓ . 3	p. 170・ℓ . 5	0:02:00
26	p. 170・ℓ . 7	p. 175・ℓ . 13	0:01:59
27	p. 175・ℓ . 15	p. 181・ℓ . 19	0:02:01
28	p. 182・ℓ . 1	p. 188・ℓ . 1	0:02:01
29	p. 188・ℓ . 3	p. 194・ℓ . 1	0:02:00
30	p. 194・ℓ . 3	p. 200・ℓ . 15	0:01:59
31	p. 200・ℓ . 17	p. 206・ℓ . 9	0:01:58
32	p. 206・ℓ . 9	p. 212・ℓ . 11	0:01:54
33	p. 212・ℓ . 13	p. 218・ℓ . 9	0:01:57
34	p. 218・ℓ . 11	p. 225・ℓ . 7	0:02:01
35	p. 225・ℓ . 9	p. 231・ℓ . 13	0:02:03
36	p. 231・ℓ . 15	p. 237・ℓ . 9	0:01:48
計	0:27:36		

岡山県小田郡矢掛町1979談話

収録地点 おかやまけん お だ ぐんやかげちょううち だ
岡山県小田郡矢掛町内田

収録日時 1979(昭和54)年 8 月25日

収録場所 岡山県小田郡矢掛町矢掛上本 矢掛町福祉会館会議室

話題 農業と天候

話者

A	女	1919(大正 8)年	(収録時60歳)	農業
B	男	1918(大正 7)年	(収録時61歳)	農業

司会者

男	(収録談話中に発話なし)	矢掛町役場職員
---	--------------	---------

調査者

2 名	(収録談話中に発話なし)
-----	--------------

収録時間 (CD) 27分36秒

【農業と天候】

話し手

A 女 1919(大正8)年生 (収録時60歳)

B 男 1918(大正7)年生 (収録時61歳)

1 B: ホーナラ コトシャー イネニ ドッコー ミズワ アルカ。
それなら 今年は 稲に 結構 水は あるか。

↑23

2 A: フーン コトシャー マー ケッコー ミズガ アッターケー
うん 今年は まあ 結構 水が あったから

(B {笑} コッチャー) クツレーダ[1]。

(B {笑} こちらは[=私のほうは]) 安心した。

キョネンワ バケツクツギュー[2] シテカラ モー
去年は バケツくつぎを して もう

オークタビレガ デテ クタビレテ クタビレテ {笑}
ひどい疲れが 出て 疲れて 疲れて {笑}

オージョーシタガ モー。 カレイル[3]ヨーナ (B {咳})
困ったよ もう。 枯れるような (B {咳})

カレテシモートッタケーナー。 (B ウーン)
[水がなくて]枯れてしまっていたからな。 (B うん)

キョネンノ イネワー ホガ デナンダモノー。
去年の 稲は 穂が 出なかったもの。

ドーノシタノ。

堂の下の。

3 B : ナンカ シモン タニガ オイー ユーテ イヨタノー
なんか 下の 谷が 多い と 言っていたな

ケサ アノ X1 クンガ。

今朝 あの X1 くんが。

4 A : ナンガ?

なにが?

5 B : ミズガ。

水が。

6 A : ホンナー。

そうか。

7 B : コーカダニガ オイー イヨタケー
こうかだにが 多い [と]言っていたから

ヘージャケー ウエガ アルケー チガウン。

それだから 上が あるから 違うのだ。

8 A : ホーン ソージャロー (B フン) ホンナラナー。

うん そうだろう (B うん) そうならな。

ウエカラ ヨケー オリテキョーンジャローナー。

上から 多く 下りてきているのだろうな。

岡山 23-3

コーカダニノ ホーナー (B フン) コーカツナ
こうかだにの ほうの[人]は (B うん) 狡猾な

ヒトバージャケー ソノ (B フン) ナニユー
人ばかりだから その (B うん) なにを

シヨンジャロー。 ミズオー オロシヨンジャローデ
しているのだろう。 水を 下ろしているのだろうよ

ケッコー。
結構。

9 B : オソーマデ ヒッタンカモシレンガ
遅くまで 乾いた[ままだった]のかもしれないが

アノー キョー X1 ガ トル ユータ アシタ リ
あの 今日 X1 が とる [と]言った あした ×

ニチヨージャケー ヌキヤー エーガ
日曜だから 抜けば いいよ

ユータリ ショールンジャ ユーテ ヨータガ
[と]言ったり しているのだ と 言っていたが

カミガナー。
上がな。

10 A : ヌカ ハー カミノ ハナガ。
×× はあ 上の 端が。

11B: ハー (A フン) アノー ツキリ
もう (A うん) あの ×××

ツキジリブン[4]ガノー (A フン)
[水が来ない]いちばん下の田がな (A うん)

アノー チョット (A フン) ダエーブン ヒト
あの ちょっと (A うん) だいぶん ××

ヒトル。 (A フーン) フン。 ショーラシュースル[5]
乾いている。 (A うん) うん。 真面目によく働く

オモテノ オッツァン マー マエーニチグレー
表の おじさん[は] まあ 毎日のように

イキョールケード アエ アレ アノ ナニー シトラー。
行っているけれど ×× あれ あの なにを しているよ。

アノー ダエーショー ハシン ホーガ チート
あの 多少 端の ほうが 少し

(A フーン ***) ワレタヨーン ナリョール。
(A うん ***) 割れたように なっている。

12A: シューガ アノ コトシャー X2チャンガ シゴトン
それが あの 今年は X2ちゃんが 仕事に

デョーロー。 (B ホー) ヘージャケー
出ているだろう。 (B ほう) それだから

岡山 23-5

X 2 チャンガ オランケー イ ヨル

X 2 ちゃんが いないから × 夜

ヨー ユルメンケー オツツァンジャー。

ゆるめることができないから おじさんだ。

(B ハハー) オツツァンガ ヌシ アノ

(B ははあ) おじさんが ×× あの

X 2 チャンガ バンニャー ヌシトー シテ アサー

X 2 ちゃんが 晩には 盗人を して 朝

トメン イキョータンジャ。ヨー ミョータンジャ

止めに 行っていたのだ。 よく 見ていたのだ

ウチラモ。(B フン フン) アー X 2 チャン

私も。(B うん うん) ああ X 2 チャン[が]

アガリョールナー オモョータンジャケド {咳}

上がっているな [と]思っていたのだけれど {咳}

ソガン キンジョノ コトー ナンジャ ユーノモ

そんなに 近所の ことを なんだ [と]言うのも

ワリーケー オモーテ ユワナンダケード

悪いから [と]思って 言わなかったけれど

バンニャー アレ トメン アガリョータケー バンダケ

晩には あれ 止めに 上がっていたから 晩だけ

岡山 23-6

オモテノ タワ イッペーン ナリョータ。
表の 田は いっぱいに なっていた。

(B フン フン) フーン。パンカラ アサワ。
(B うん うん) うん。 晩から 朝は。

13B：アリヤー モー イヨイヨ
あれは もう まったく

シーローダ[6]ジャケーノー。
水がもたない田だからな。

14A：フーン。パンカラ アサン カケチャーナー ナルナー
うん。 晩から 朝に かけてはな なることは

ナリョーッタンジャ。ヘーケー モー
なっていたのだ。 だから もう

ノーサギョー ユーテ ムカシャー ウチニヤー コマエー
農作業 [と]言って 昔は 私の家では 小さい

ウシュー カヨーテ アレデ オトーサンガ ヒクケー
牛を 飼っていて あれで おとうさんが 耕すから

ヨ {笑} コマリョータケドガ (B オー オー)
× {笑} 困っていたけれど (B うん うん)

コー アレデ ヒクノニナー ミンナ オーキナ ウシオ
こう あれで 耕すのにな みんな 大きな 牛を

ピチャピチャ ピチャピチャ ヒクノニ ウチニヤ
ピチャピチャ ピチャピチャ 耕すのに 私の家では

コーマエー コッテウシュー[7] カヨータンジャケー
小さい 雄牛を 飼っていたのだから

23↑24

ヨーイニ ヒケンデモ マー スクナカッター。
簡単に 耕せなくても まあ 少なかったから。

ヘーデモ アレデモ ワリエー ミズアー
それでも あれでも 割合 水は

タマリョータケーナー。(B フン) ケッコー
溜まっていたからな。(B うん) 結構

ラクジャー アッタンジャロー ナンデモ ヒキョータケー。
大丈夫では あったのだろう なんでも 耕していたから。

15B: アリヤー シコミ[8]カラ イクブンジャケーノー。
あれは 仕込みから いくものだからな。

16A: ホー (B フン) シコミュー (B フン)
そう (B うん) 仕込みを (B うん)

ショータケーナー。 モー ホンニ アレニヤー
していたからな。 もう 本当に あれには

モドロカシューテ[9] コマリョータケード。
いろいろして 困っていたけれど。

岡山 24-2

コノゴラー マー ノーキグジャケー ** ナンジャ
この頃は まあ 農機具だから ** なんだ

ノーキグ テーラー[10] コータリ シテ。 モー
農機具[や] テーラー[を] 買ったり して。 もう

コトシヤコー カオー オモートランノー
今年などは 買おう [と]思っていないのを

カワニヤー オエン カワニヤー オエン
買わなければ いけない 買わなければ いけない

ユーテ コータケー モー ホンニ。
[と]言って 買ったから もう 本当に。

17B：ノー アリヤー ミルトモ[11]ジャー。
なあ あれは 付き合いだ。

ショーガナエーワー アリヤー。
しかたがないよ あれは。

18A：モー ミルトモデヤー。(B ウン) ウエト シタトー
もう 付き合いだ。(B うん) 上と 下と

ワケーノガ オーキナノー モテキテ
若いのが 大きなのを 持ってきて

ザーザー ザーザー (B ウン) シテ イヌリヤー
ザーザー ザーザー (B うん) して 帰れば

岡山 24-3

キヤークソガ ワリー。 ワッシモ {笑}
気分が 悪い。 私も {笑}

カワニャー オエン オ コンダー
買わなければ いけない × 今度は

チガウノー オーキーノー カワニャー オエン
違うのを 大きいのを 買わなければ いけない

ユーテカラ。 マー カヤー コミヨー ツクルター
[と]言って。 まあ 買えば 米を 作るより

ソンガ イクヨーナ。
損を するよな。

19 B : アー サンニョーモ (A {笑}) ナンモ アウモンカ。
ああ 計算も (A {笑}) なにも 合うものか。

20 A : サンニョーニャー (B {笑} **) アヤー シェン
計算には (B {笑} **) 合いは しない

モー。 アブラモ イッター。 ヘーデ ナンジャ
もう。 油も 必要だったり。 それで なんだ

ユーテ ミッカホド ツカヤー モー
[と]言って 3日ほど 使えば もう

ツッコンドルバージャキ。
しまっておくばかりだから。

21B：ソージャ。

そうだ。

22A：{笑} モー イネニ ホガ デョーロー。

{笑} もう 稲に 穂が 出ているだろう。

23B：デョールデ。 ウン アノー。（A ウーン）アノー

出始めているよ。 うん あの。（A うん）あの

ケサ ミズー ミーン イタガ モー ウチモ ワリアエー
今朝 水を 見に 行ったが もう 私の家も 割合

サビシー[12]ンジャ。 ンー ダエータエー アノ アノー
寂しいのだ。 うん だいたい あの あの

イレジリ[13]バージャケーノー。
水から遠いところばかりだからな。

（A フン フン フン）・ウン ドーショーモナエーワー。

（A うん うん うん）うん どうしようもないよ。

（A フーン）ホンナー ユーテ ソガン

（A うん）それでは [と]言って そんなに

ボッコー コソコソート トル ワケン
たくさん コソコソと [水を]とる わけには

イキヤーヘズノー。
いかないしな。

岡山 24-5

24A : ソージャ ソージャ。 マー ウチガタモ コトシャー
そうだ そうだ。 まあ 私の家でも 今年は

アノー ナンジャガ ニシニ キューコーデン シェンケー
あの なんだよ 西に 休耕田[を] しないから

(B オー オー) カミワ。(B オー オー)
(B うん うん) 上は。(B うん うん)

シェージャケー コトシャー ミズガ アル。 キョネンワ
それだから 今年は 水が ある。 去年は

アッコニ (B ウエン アリヤーノー) フン アッコニ
あそこに (B 上に あればな) うん あそこに

キューコーデンニ シテアッタケーナー ミズガ ノーテ
休耕田に してあったからな 水が なくて

マー アッコモ ヤキ *** カーミン タニガ
まあ あそこも ×× *** 上の 谷が

ヤケリヤー スマー[14]ガ ユーテ イヤー
ひあがりは しまいよ と 言えば

ヤキカテカラ ホトリノ ホーワ モー イニヤー
ひあがり始めて ほとりの ほうは もう 稲は

コーモカッタケド コトシャー エー ツゴーニ イキョール。
小さかったけれど 今年は よい 都合に いている。

岡山 24-6

25 B : ウン。 ダエータエー ソコ ミズミチガ
うん。 だいたい ×× 水の道が

カワットッタンド。 X 3 サンモ アノ ウヨー
変わっていたのだよ。 X 3 さんも あの 上を

ヤエータケーナー (A フーン) フン ソリャー。
ひあがらせたからな (A うん) うん それは。

26 A : フーン ツント ソーカモシレンナー。
うん 本当に そうかもしれないな。

27 B : フン ミズミチガ カワットッタ。 アノー ナ
うん 水の道が 変わっていた。 あの ×

オーブリガ シタ アトヤ ヘーカラ アノー コー
大降りが した あとや それから あの こう

カンパツー シタリ シタラナー コンダー ミズミチガ
旱魃が したり したらな 今度は 水の道が

カワル コトガ アルケーナー。
変わる ことが あるからな。

28 A : ウン ソージャローナー。
うん そうだろうな。

29 B : モー シジェンニ クグル ミズー ツカヨールンジャケー
もう 自然に くぐる 水を 使っているのだから

カンジェンニ スイロー シテ イル トキニヤー
完全に 水路を して 必要な 時には

イレルトカ シューカラ イラン トキニヤー
[水を]入れるとか それから 必要でない 時には

24↑25

ピシャット モトー シメルトカ ユーヨーン シキン
ピシャット 元を 締めるとか いうような ふうに

イカンケーナー ヤマン ターナー。
いかないからな 山の 田はな。

30A : オエンナ。 マー キョネンワ ウエノ オバサング
だめだな。 まあ 去年は 上の おばさんが

キテカラ アッコー アノ ナニー ドーノシテー
来て あそこを あの なにへ 堂の下へ

イレルノー (B フン) マー ナニガ トーバンガ
入れるのに (B うん) 「まあ なにが 当番が

ショーテンジャケー アノー イケモリガ
しておられるのだから あの 池守が

ショーテンジャケー オバサン マチネーヤ
しておられるのだから おばさん 待ちなさいよ」

ユーテモ ホホーン ユーテ ヨータ。
[と]言っても 「ほほおん」 と 言っていた。

岡山 25-2

コトシャー タバコー ウエトツタケー アッコガ
今年は 煙草を 植えていたから あそこが

ウエンシ ヘーカラ ンー ナニガー X 4 サンガ
植えないし それから うん なにが X 4 さんが

ウエンシ ウチニ ウエマー。(B ウン ウン)
植えないし 私の家に 植えまい。(B うん うん)

ヘージャケー ワリアエ アッチガ ハ ヨックー
それだから 割合 あちらが × たくさん

ミズガ イクンジャ。(B フーン)
水が 行くのだ。(B うん)

ヒヤケダ[15]バーガ ナンジャ モルタバーガ
日焼け田ばかりが なんだ 漏る田ばかりが

アノー イレンケー (B ヤスンドルケーノー)
あの [水を]入れないから (B 休んでいるからな)

フン ヤスンドルケーナー キューコーシトルケー。
うん 休んでいるからな 休耕しているから。

ヘージャケー アッコー イッタンバー
それだから あそこを 1 反ばかり

キューコーシトルケー ヘーデ ミズガ ハヨー
休耕しているから それで 水が 早く

岡山 25-3

イクケー ワリエー ドーノシタノー ヤケル タデモ
行くから 割合 堂の下の ひあがる 田でも

ミズガ アルナー アッタガ。 ナー コトシャー アッタ。
水が あることは あったよ。 なあ 今年は あった。

シモー シメーモナ ワリエー アノ マワッタ。
××× 下へもね 割合 あの 回った。

コネーダ X5チャンジャガ {笑} イケ
この間 X5ちゃんだよ {笑} ××

イキョール イエー ニーテ ウチン テー
[水が]行っている 家へ 抜いて 私の家の 田へ

ヘーリョール オモヤー アマエーン テー ミナ
入っている [と]思えば 飴屋の 田へ みんな

ヘータケー {笑} ヘーローダー オモータラ
入ったから {笑} 入るだろう [と]思ったら

オグログ アナー アケトッテ サッパリ ウチノ ター
もぐらが 穴を 開けていて さっぱり 私の家の 田は

モリヤー ヘナンダ。 ヌラシタバージャッタ
漏りは しなかった。 濡らしただけだった

ユーテカラ。
[と]言って。

31B : アー アー アノ (A X 5 チャンジャガ)

ああ ああ あの (A X 5 ちゃんだよ)

X 6 チャンカタノ シタノ テー ヤッタツモリガ

X 6 ちゃんの家の下 田へ やったつもりが

(A ホー? アーソコノ) * カ カワカミニ。

(A ほう? あそこの) * × 川上に。

32A : カワカミノ X 5 チャンガナー。

川上の X 5 ちゃんがな。

33B : ホイケー イチバン ウエノ ハタケジタノ

それだから いちばん 上の 畑下の

タエーノー。

田へな。

34A : ホー。 アッコ サキダワーナー (B ホー ホー)

そうよ。 あそこ[の] // // // ね (B ほう ほう)

シテカラ アッコノ オーケー マチ[16]ガ アロー

それで あそこの 大きい 区画された田が あるだろう

(B ホー ホー ホー) フシンデン。 アレー イレタ

(B ほう ほう ほう) 普請田。 あれへ 入れた

オモータラ アマエーン タガ イッペー

[と]思ったら 飴屋の 田が いっぱいに

ナットッタ。 アマエーン タガ ヒトツタノー
なっていた。 飴屋の 田が 乾いていたのに

イッペー ナッタ。 ワシノ オカゲド ユーテ
いっぱいに なった。「私の おかげだぞ」 [と]言って

シランガ ホンナー モッテ アゲリヤー エーガ
「知らないよ それなら 持って 上げれば いいのに」

ユー {笑} ホンデ キケーデ ナンジャガ
[と]言う {笑} それで 機械で なんだよ

ハツドーキデ モチアガリヤー エーガ ユータラ
「発動機で 持ち上げれば いいのに」 [と]言ったら

ソガン ワケニモ イカズノー (B {笑})
「そんな わけにも いかないしな」 (B {笑})

ユーテ。 {笑} (B ホー)
[と]言って。 {笑} (B ほう)

デーモ オレーテクレリヤー エー イヤー ヘンノニ。
「だれも 下ろしてくれれば いい [と]言いは しないのに。

キョネンラノヨーニ イル トシニヤー ヒトツツモ
去年などのように 必要な 年には 少しも

クレリヤー ヘン ヒトシズクモ クレットカラ
くれは しない ひとしずくも くれずにおいて」

ユーテ コネーダ オーワラエー {笑}
[と]言って この間 大笑いを {笑}

シタンジャケドナー。 コトシャー X 5 チャンガ
したのだけれどな。 今年は X 5 ちゃんが

アッコガ チョット ナンギュー ショーッターナー。
あそこが 少し 苦勞を していたよな。

** (B ウン ウン) アソコン ナニモ
** (B うん うん) あそのこ なにも

イッターケーナー。 アッコノ
いった[=日焼け田になった]からな。 あそのこ

オーキー アノー イエノ ウエガ アロー。
大きい あの 家の 上が あるだろう。

アノ X 7 ノ ハタケノ ウエガ。(B ハー)
あの X 7 の 畑の 上が。(B はあ)

アソケーモ エ アノ チョット[17] アッコモ
あそこへも × あの たいへん あそこも

ナンジャロ ハタケダカ ナンカ シランケド
なんだろう 畑だか なにか 知らないけれど

チョット (B ソージャ) ヒットッタラシーンジャ。
たいへん (B そうだ) 乾いていたらしいのだ。

(B ホー ホー ホー) ウン。 ウエノ イケガナー ナニー

(B ほう ほう ほう) うん。 上の 池がな なにに

ツコーテシモータンジャ ソノ カジュノ ホーエ。

使ってしまったのだ その 果樹の ほうへ。

(B ウン アー モモエーノ) ウン ウン。 ソエージャケー

(B うん ああ 桃へな) うん うん。 それだから

25↑26

タンボノ ミズガ スクノー ナッテナー ナニユ

田んぼの 水が 少なく なってな なにを

シタンジャケド マー。

したのだけれど まあ。

35B : チート ミズガ スクネーワノー。 ナンシテモ。

少し 水が 少ないよな。 なんとかしても

(A フーン) マー アノー コンド

(A うん) まあ あの 今度

サボーエンテーオ シテモラヤー アルテード ミズアー

砂防堰堤を してもらえば ある程度 水は

タマルケードモ ン マー ヘーデモ

溜まるけれども うん まあ それでも

ツキンシリノ ホーワ ドーショーモナエーワノ。

水が入りにくいところの ほうは どうしようもないよな。

36A : ンー。(B フーン) ツ ヘー ジャケード アソコラ
うん。(B うん) × それだけれど あそこのあたり

ツキンシリノ ホーワ アノー ナニガ
水が入りにくいところの ほうは あの なにが

イクンジャナエーンカナ アリザカノ ミズガ。
行くのではないのかな ありざかの 水が。

37B : イヤ アリザカノ イケガ コマエーガ。
いや ありざかの 池が 小さいのだ。

38A : アノ イケノ ミズガ ツキンシリダキュー
あの 池の 水が 入りにくいところだけを

ヤシナウンジャネーンカナ。 シテー オリルンカナ
まかなうのではないのか。 下へ 下りるのか

アレガ。
あれが。

39B : アリヤー マー コーヤマデ コニヤー オエマー。
あれは まあ こうやまで 来なければ だめだろう。

40A : コーヤマデ ク イクンカナ。(B フン フン。 フン)
こうやまで × 行くのか。(B うん うん。 うん)

ホンナラ チョット サビシーナー。
それなら 少し 寂しい[=心もとない]な。

岡山 26-3

41 B : ウン。 ダエータエー ココロガワマデ コニャー オエン。
うん。 だいたい ところがわまで 来なければ いけない。

42 A : フーン。(B ウン) アノ ホンナー
うん。(B うん) あの それなら

ホキダワー * イキヤー ドガーナン。
ほきだわの * 池は どうなのだ。

43 B : リョーホーデ スンジャ** イケガ コメーンジャ
両方で するのだ[けれど] 池が 小さいのだ

ソリャー。
それは。

44 A : アー コメーンジャンナー。 ホンナー アッコー
ああ 小さいのだな。 それなら あそこを

オーキョーシェニャー イケンノジャンナー イキョー。
大きくしなければ いけないのだな 池を。

マー ヘーデモ アッコラヘンオ ナニユ シテナラ
まあ それでも あそこのあたりを なにを なさるなら

(B ンー) ニチョーバー ナニユ シズミャー。
(B うん) 2町くらい なにを 沈めば。

45 B : ウーン ドーシェ ナンジャロー。 イケノ オクー
うん どうせ なんだろう。 池の 奥の

ドロー チート キカエーデ トラニャー
泥を 少し 機械で 取り除かなければ

オエンジャロー ユータリ ショータケド
いけないだろう [と]言ったり していたけれど

ドガーナカナ (A フーン) チート タランワナー。
どんなかな (A うん) 少し 足らないよな。

シモワ モー コンダー アノ エンター シタラ
下は もう 今度は あの 堰堤[を] したら

(A フーン) モー ソリャー アレー ミズガ
(A うん) もう それは あれに 水が

タマツタラ ドーユー コター ネー。(A フーン)
溜まったら どうという ことは ない。(A うん)

フーン ソリャー。
うん それは。

46A: エンター タマツタラ イチネンジュージャケナー。
堰堤[に] 溜まったら 一年中だからな。

イチネンジューニ タメルンジャケー ソノ
一年中× 溜めるのだから その

トキドキジャーネーケー タイフードモ キタラ
時々ではないから 台風でも 来たら

イッペンニ タマラー。
一度に 溜まるよ。

47 B : アー イッペンニ タマル ソリヤー。
ああ 一度に 溜まる それは。

48 A : アー オーアメガ オーアメガ フツトラ モー ヤマー
ああ 大雨が 大雨が 降ったら もう 山は

ズート ミナ ナガスケーナー。 ソリヤー イチドニ
ずっと みんな 流すからな。 それは 一度に

タマラー。 ケーデ タイフーガ コニャー エーガナー。
溜まるよ。 けれど 台風が 来なければ いいがな。

イネワ ヨー デキトルノニ。
稲は よく できているのに。

49 B : ウーン コトシャー スクネーター イヨールガー。
うん 今年は 少ないとは 言っているけれど。

50 A : ヘーデモ モー アンマリ オーガタノガ
それでも もう あまり 大型のが

コニャー エーンジャ。
来なければ いいのだが。

51 B : ナンシテモ マー スクナエー トシジャツタノー。
なんにしても まあ 少ない 年だったな。

ミズタメモ ダエーブン ナンギュー シトラノー。
水溜めも だいぶん 苦勞を しているよな。

52A : ミズタメガ ナンギジャツタンジャー (B ハー ハー。 ンー)
水溜めが 苦勞だったのだ (B はあ はあ。 うん)

ソリヤー モー ホンニ。 {咳}
それは もう 本当に。 {咳}

マ キョネンモ ミズタメニヤー ナンギュー シタデー。
まあ 去年も 水溜めには 苦勞を したよ。

コトシモ マー ミズタメニヤー ナンギュー シタケド。
今年も まあ 水溜めには 苦勞を したけれど。

マー ノーテモ ウエトツタケー ワタシラー
まあ [水が]なくても 植えていたから 私は

カッタ[18]ガ。(B アー) アト フツタケー。
勝ったよ。(B ああ) あと 降ったから。

26↑27

53B : ソージャ。
そうだ。

54A : ソガーン ウエ アノ ミズガ ナエーノー ウエテカラ
そんなに ×× あの 水が ないのを 植えて

ナンジャー アト コマローガ ユーテ ミンナ
なんだ あと 困るだろう [と]言って みんな

ユータケド コマツテモ コマラーデモ
言ったけれど 困っても 困らなくても

ウエルダキヤー ウエテ スマス
植えるだけは 植えて 終わりにする

ユー コトー セニヤー イケンノジャ
[と]いう ことを しなければ いけないのだ

ユーテカラ ハヨー ウエトッタケー アト
[と]言って 早く 植えていたから あと

フッターケーナー。
降ったからな。

55 B : イリコー カクヨーン シテ ウエタンジャロ。
炒り粉を 混ぜるように して 植えたのだろう。

56 A : フーン フーン。(B ウン ウン) ア コッチノ ホーワ
うん うん。(B うん うん) × こちらの ほうは

ミズアー ヒトツツモ ネーンジャ アガラミノ ホーワ。
水は 少しも ないのだ あがらみの ほうは。

(B ウン) イリコドコロカ ミズガ ネーナケー
(B うん) 炒り粉どころか 水が ないようだから

アシガ コーヨーニ (B ウン)
足が このように (B うん)

岡山 27-3

ダンダンボト ヘーリョータンジャ。

ダンダンボト 入っていたのだ。

ソレオ ウエトエタンジャ。 ソシタラ ウエテカラ

それを 植えておいたのだ。 すると 植えてから

ミッカメニャー モー オエン。 ドーナイト ナレー

3日目には もう いけない。 どうにでも なれ

オモヨータラ オープリガ {笑} オープリガ

[と]思っていたら 大降りが {笑} 大降りが

シタケー タスカッタ。(B **) マンガ エーブンジャ。

したから 助かった。(B **) 運が よいものだ。

ハヨニ ヘージャケー ハヨー シタ ホーガ

早く それだから 早く した ほうが

マンガ エカッタローガナ ユーテ ユーナー

運が よかっただろう と 言うことは

ユータンジャケド ミンナ ナニュー シェニャー

言ったのだけれど みんな なにを しなければ

オエン オエン ユーテ イヨータンジャケドナー。

いけない いけない と 言っていたのだけれどな。

57B:フーン チョット (A コ) ウチン ホーワ ソノー

うん ちょっと (A ×) 私の家の ほうは その

岡山 27-4

アエーニ コマラーノー。 テンスイ マー ビシェーノ
あれに 困るよな。 天水 まあ 美星の

ホーワ ハヨーカラ ヒトツキグラエー ハヨーカラ
ほうは 早くから 一月くらい 早くから

ハジメテ エ オワルナー アガリヤコーノ ミズノ
始めて × 終わるのは あがりなどの 水の

ナエー トコワ ウチラノ ホート イッショジャローガ。
ない ところは 私たちの ほうと 一緒だろう。

(A フーン) フン。 ハヨーカラ タミョーンデー。
(A うん) うん。 早くから 溜めているよ。

58A：ハヨーカラ ウエテモ (B ウン) オエーンガ。
早くから 植えても (B うん) いけないよ。

アノー (B ウエルンジャネー。 タメル**)
あの (B 植えるのではない。 溜める[だけ])

トチューデ ミズガ キレルケー。
途中で 水が 切れるから。

59B：シー タメルノーナー。
うん 溜めるのをな。

60A：フーン。(B フン フン) タメルノー タメテモ。 ***
うん。(B うん うん) 溜めるのを 溜めても。 ***

61B: ハヨ タメヨラー。

早く 溜めているよ。

62A: アリヤー ハヨカラー ナニユー シトイテモ
あれは 早くから なにを しておいても

オエナーナー。 オーソーカラ シテモ (B ウン)
いけないよな。 遅くから しても (B うん)

X 8 チャンラー オーソーカラ シテモ
X 8 ちゃんたちは 遅くから しても

エー ヤンベ-[19]ジャッタガ アメ フッタケー。
よい 具合だったよ 雨[が] 降ったから。

63B: ソージャ ソージャ。 {咳}
そうだ そうだ。 {咳}

64A: シタオモテン X 8 チャンラー オーソーニ オーソーニ
下表の X 8 ちゃんは 遅く 遅く

ショータガ オーキー タヤコー セーデモ
していたよ 大きい 田など それでも

エー ヤンベ-ジャッタガ。 アノ コトシャー
よい 具合だったよ。 あの 今年は

65B: アエーガ (A ウ ウン) ジュンジュンニ
あれが (A うん うん) 順番に

岡山 27-6

シェナダラナー アーユーン トコワ アノー ウヨー
しなかったらな あのような ところは あの 上を

(A フーン) トメラレタラ コマル。 マー
(A うん) 止められたら [水に] 困る。 まあ

ソノー バショノー エー トコン モナーナー ソノ
その 場所の よい ところの 者はな その

ショーショー ウエガ トメテモ マタ スグ
少々 上が 止めても また すぐ

カカル[20]ケードナー。 (A フーン)
[水が] 入ってくるけれどな。 (A うん)

テジリン モナー コマル。 (A フーン)
[水が入りにくい] 下のほうの 者は 困る。 (A うん)

ウン。
うん。

66A: コトシャー ヘーデ ムシワ ドネーナン。
今年は それで 虫[=害虫]は どんのかな。

67B: ニー オルノワ オルデ。
うん いることは いるよ。

68A: フーン。 ウチモ (B ウン) コナイダ アノ
うん。 私の家も (B うん) この間 あの

岡山 27-7

スルナー シタンジャ。(B ウン) クスリユー
することは したのだ。(B うん) 薬を

スルナー シタンジャケド ドガーナカナー。
することは したのだけれど どんなのかな。

ムシ マダ モー イッペンデモ
虫[=害虫][を] まだ もう 一度でも

オワニヤー イケンカシラン。
追い払わなければ いけないかもしれない。

69 B : マー イマゴロナー クスリガ チート {咳}
まあ この頃な 薬が 少し {咳}

キカンケーナー。
効かないからな。

70 A : ウーン。(B ウン ウン) モー イッペンドモ
うん。(B うん うん) もう 一度でも

シェニヤー イケマーデーナー。
しなれば いけないだろうな。

71 B : ウン。チョット アノ クスリガ アノー ソーバー
うん。ちょっと あの 薬が あの 相場は

アガツトルケード キカンヨーン ナツトル。
上がっているけれど 効かないように なっている。

27 ↑

岡山 28-1

(A フーン) マー ソリャー ニンゲン ガェーニ

(A うん) まあ それは 人間[に] 害に

↑28

ナランヨーニ ユー コトデ (A ハーン)

ならないように [と]いう ことで (A はあ)

アーユー クスリニ ナルナー ナッタンジャローガ。

あのような 薬に なることは なったのだろうか。

ナン アノー ムカシン コトー オモヤー

×× あの 昔の ことを 思えば

アガン モンガ アルケー イネガ トレ コメガ

あんな ものが あるから 稲が ×× 米が

トレスギテ シューファー コマリョールガ。

とれすぎて 政府は 困っているよ。

(A ソージャ。アリャー ムジュンシトラー)

(A そうだ。あれは 矛盾しているよ)

アレガ アノー アガーナ クスリヤコー ツカワズニ

あれが あの あんな 薬など 使わずに

コヨー シェズニ シタラ アノー {笑} ボッコー

肥料を せずに したら あの {笑} そんなに

コマランヨーナ コトン ナローデ。 {笑}

困らないような ことに なるだろう。 {笑}

72A : ソリャ コマランヨーン コトン ナルンジャロー
それは 困らないような ことに なるのだろう

コデキデナー。(B オー オー) セージャケード
不作でな。(B うん うん) それだけれど

ムカシ ムカシモ ナンジャガ クスリオ
××× 昔も なんだよ 薬を

ショーリャー シェナンデ コエモ ヨケー ヤランデモ
しては いなくて 肥料も 多く やらなくても

コ ムカシト イマト イッタラ バエーフ
× 昔と 今と 比べると 倍は

トリョーランドー。
とっていないよ。

(B ソ ソリャー トリョーラン。 オー オー)
(B × それは とっていない。 うん うん)

ヒヨーワ アンタ オーキナ キカエーオ イレテカラ
費用は あなた 大きな 機械を 入れて

タウヨー シテモ ムカシホド ** バエーフ
田植えを しても 昔のように ** 倍は

トリョーランドー。
とっていない。

73B：ソリャー トリョーラン。

それは とってない。

74A：ヘー セーデ ナンジャガ マー キカイカ キカイカ
ええ それで なんだよ まあ 機械化 機械化

ユーケド ソノアイダ モーキョー ショー ユータ
[と]言うけれど その間 もうけを しょう と

ユーテ ワリエー モーキヤー アリヤー ヘンモノー。
言ったって 割合 もうけは ありは しないもの。

75B：フーン。 ヘーデモ アノ ウチン ホーヤコーノ
うん。 それでも あの 私の家の ほうなどの

フエトル リョー ユンガナー
増えている 量 [と]いうのがな

スクナエーケード アノー コ コーゾーカイジェンカノー
少ないけれど あの × 構造改善かな

コーチシェーリ シタ (A ウン) トコヤコーワ
耕地整理[を] した (A うん) ところなどは

ソリャー ン ナンジャロー ムカシノ ヨー トリョータ
それは うん なんだろう 昔の よく とれていた

ジブンカラ ユート サンビョーグラエーワ * ヨケ
時分から 言うと 3 俵くらいは * 多く

トリョーロー。 (A フーン フーン) フン
とれているだろう。 (A うん うん) うん

ソリヤー ハー。
それは もう。

76A: マー ワタシラン ホーワ (B ウン ウン)
まあ 私たちの ほうは (B うん うん)

ソーワ トリョールマー。 ベーモアー
そんなには とれていないだろう。 倍も[の量]は

トレマー。 マー ヤマ トレテ
とれてないだろう。 まあ 最高[に] とれて

イッピョーグレー (B ウン ウン) ギョーサン
1 俵くらい (B うん うん) たくさん

トレリヤー エー ホージャロー。 シューモ
とれれば よい ほうだろう。 それも

(B ンー ソリヤー) テンサイニ ヨリケリジャ。
(B うん それは) 天災に よりけりだ。

77B: フーン ソリヤー アノー
うん それは あの

78A: テンコーガ サユースルケー
天候が 左右するから

岡山 28-5

(B ンー テンコー ン テン オー ウン)
(B うん 天候 うん ×× ×× うん)

イケン。 ノーサクブツワ ナンデモガ。
いけない。 農作物は なんでもが。

シェーコソ ササゲ[21]ガー シェンエンスラー
それこそ ささげ豆が 1,000円する[とか]

シェンヒャクエンスラー ユーテモ オエンガ
1,100円する[とか] 言っても いけないよ

テンコーガ サユースルケー ナニバーモ
天候が 左右するから いくらほども

トレリヤー シェンガ。 ハジメアー
とれは しないよ。 初めは

ミズー ヤケテ コンダー ヒヤケテ。
水[が] ひあがって 今度は ひからびて。

79B：イマゴラー ワタシー イニョー ウエタラー クスリュー
近頃は 私は 稲を 植えたら 薬を

スルノー イクント ミドゥー ミルグレーンモンジャ。
するのに 行くのと 水を 見るくらいなものだ。

ムカシャー ウエタ ヤツー ナンジャローガ アノ アノー
昔は 植えた ものを なんだろうね あの あの

コー ガンズメ〔22〕 ユーンデ カヤエータリ
こう がんづめ [と]いうもので 耕したり

(A ソージャ ショータ ショータ フーン)
(A そうだ していた していた うん)

ショータガノー。ヘーカラ アノー
していたけどな。それから あの

(A ウン オス モンデ オシテ) オー オー
(A うん 押す もので 押して) うん うん

オス モンデ オシタリ (A ホーン) ヘーカラ
押す もので 押したり (A うん) それから

シマエーゴロニ ニヨー キッタ オエン
終わり頃に 根を 切ったら いけない

ユータラ コンド ウヨー スルノー
[と]言うと 今度 上を 擦るのに

ハッタンドリ〔23〕 ユーンデ (A ハー ハー)
はったんどり [と]いうもので (A はあ はあ)

シューシュー シューシュー アノ グンカン
シューシュー シューシュー あの 軍艦

ヨーローノー (A グンカンオ ショーターナー)
[と]言っているな (A 軍艦を していたな)

オー グンカンオ。

そう 軍艦を[していた]。

28↑29

80A: ヘーデ アトカラ スリタ[24]ー ショータンジャロー。
それで あとで 塗り田を していたのだろう。

(B ウン) ノリタヤコー ワタシャー シタ コトワ

(B うん) 塗り田など 私は した ことは

ナエーケド ノリター ハチガツン ナリヤー
ないけれど 塗り田は 8月に なれば

スリター ショータンジャロー ***
塗り田を していたのだろう ***

(B ウン ヤリョータケーノー) マー ソリヤー

(B うん やっていたからな) まあ それは

イマゴロノ モンワ マー ユーチャー ナンジャケード
この頃の 者は まあ 言っては なんだけれど

トシヨリカラ ミリヤー イマゴロン モナー
年寄りから 見れば この頃の 者は

オーチャクー ショールヨン オモーワナー。 ソリヤー
横着を しているように 思うよな。 それは

モー ヘー トシヨリモ シェンヨーニ ナットルケード。
もうすでに 年寄りも しないように なっているけれど。

81B：ソリヤー ナンジャガ ス アノー シェーサンシェーノ
それは なんだよ × あの 生産性の

コージョーデ アノー (A {笑}) ロ ローリョク
向上で あの (A {笑}) × 労力を

カケンヨーン シテ トラニヤー オエンノジャモノー。
かけないように して とらなければ いけないのなもの。

82A：ソージャロー ソージャロー。 ローリョク
そうだろう そうだろう。 労力[を]

カケンヨーン シテ {笑} ナニユー ショールケード。
かけないように して {笑} なにを しているけれど。

83B：イマー ソリヤー ラクナーナー。 ナンシテモ キカエーデ
今は それは 楽だよな。 なんでも 機械で

ヤルケー チャット タンジカンデ ヤレルケー。
するから さっと 短時間で することができるから。

アノー ボクガ イッツイバン エラカッタ[25]ナー
あの 僕が いちばん つらかったのは

ナンジャー ショーシューガ ショーシューレージョーガ クルド
なんだ 召集が 召集令状が 来るぞ

岡山 29-3

ユーテ イマ イマ カカリノ アノー
[と]言って 今 今 長男の あの

オーケー オトコンコオ オーテ ウシオ ツ
大きい 男の子を 負って 牛を ×

アノ ツコータ コトガ アルガノー。(A シー)
あの 使った ことが あるよな。(A うん)

シー ソリヤー ミズタメニ (A ソー)
うん それは 水溜めに (A そう)

モー タウエダケ シトケー ソーシタラ モー
もう 田植えだけ しておけ そうしたら もう

ショーシュー クルンジャ ユーテ (A シー)
召集[が] 来るのだ [と]言って (A うん)

アノー ユータ トキニノー (A フン) シタ。
あの 言った 時にな (A うん) した。

ソリヤー グスーナカッタ[26]。
それは 楽ではなかった。

84A：フーン ソリヤー グスーネー。
うん それは 楽ではない。

85B：ウン。モ モリト ウシツカエート リョーホージャケー。
うん。× 子守りと 牛使いと 両方だから。

岡山 29-4

86A : ソー ジャ。 (B オーン) エラガ ソリヤー エラカッタドナー。
そう だ。 (B そう) ××× それは つらかったよな。

ソリヤー アノ ナニユー スル トキニヤー。
それは あの なにを する 時には。

ウチラモ マー ナンジャガ トチュービャクショージャッタケー
私 たち も まあ なんだよ 途中 百姓 だったから

ビャクショーン コト ナンモ ワカランケー
百姓 の こと [は] なにも わからないから

ドーヨン シテ エーンカ ド コヨーン シテ
どの よう に して いい の か × この よう に して

エーンカナー オーバーサンガ シリヤー シェズナー。
いい の かな おばあさん が 知り は しない し な。

(B ウン) ソースリヤー ガワカラ
(B うん) そう すれば 周り から

アリヨー シェー コリヨー シェー (B {笑} ホー)
あれ を せよ これ を せよ (B {笑} ほう)

ドーヤラ シェー コレーテ
どの よう に せよ [と 教 えて] く れ て

ヨー シドーシャバー オッテカラ。 {笑}
た く さ ん 指 導 者 ば か り い て。 {笑}

87 B : シェンシェーパー オユーテ。 デーガ ホントーヤラ
先生ばかり 多くて。 だれが 本当か

ワカラン。
わからない。

88 A : ホー。 シェンシェーガ ドーヨン ナッテ
そう。 先生が どのように なって[は]

オエン ユーテ。 (B オー)
いけない [と]言って。 (B うん)

ヘーデ ワタシャー モー ン ダイタイガ アノ
それで 私は もう うん だいたい ああ

クサカリュー ヨー シェナンダケーナー (B アー)
草刈りを することができなかったからな (B ああ)

タノ アジョー。 (B アー) ヘーデ タノ アジョー
田の 畔を。 (B ああ) それで 田の 畔を

モー アノ オーキナ タノ アジョー オトーサंगा
もう ああ 大きな 田の 畔を おとうさんが

ヒトリバー カリヤー イッシューカン カカリョータ。
一人だけ[で] 刈れば 1週間 かかっていた。

(B ハー) シェーデ ズート ミナ カリョータロー
(B はあ) それで ずっと みんな 刈っていただろう

テデ。(B ハー) ヘージャケー ハシゴー カケテ
手で。(B はあ) それだから はしごを 掛けて

カリョータラ イッシューカングレー。ソッリョー マー
刈っていたら 1週間くらい[かかる]。それを まあ

ホンニ キレン オシギリユー[27] {笑} (B {笑})
本当に 切れない 押し切りを {笑} (B {笑})

モッテ キッテ タノ ナケー ウミョータケーナー ムカシ。
持って 切って 田の 中へ 埋めていたからな 昔。

イマゴラー モー アガーン モナー ミナー
この頃は もう あんな ものは みんな

ヤイテシマウケード。
焼いてしまうけれど。

89B: チャーット クサカリキデ (A {笑})
さっと 草刈り機で (A {笑})

ヤッテカラノー バンジ ***
刈ってな 熊手 ***

90A: クマデデ ヨシチャー バーット タン ナカデ
熊手で 寄せては バーッと 田の 中で

ヤイテシマウケードガ。ムカシャー アリョー ミナ
焼いてしまうけれど。昔は あれを みんな

キッテ イリョータケーナー。 ネー。

切って 入れていたからな。 ねえ。

29↑30

コノゴラー シューガ ワラー イレテジャケー
この頃は それが 薬を 入れなさるから

イレル シトワ。 ウチラニヤー (B アー) ワラー
入れる 人は。 私の家では (B ああ) 薬を

イレシ クワバタケー ミナ イレテシマウケー ワラー
入れない 桑畑へ みんな 入れてしまうから 薬を

イレシケード。
入れないけれど。

91B: デュータエー イナワラワ アノー ソリヤー
だいたい 稲薬は あの それは

イレシヨリヤー アノ ナンジャケードガ アノ
入れないよりは あの なんだけれど あの

ビョーキガ オキタリ スルケー アノー スイデン
病気が 起きたり するから あの 水田[に]

ヤラー ヒヤス ユーンカノー。
やれば 冷やす[ことになる] [と]言うのかな。

(A フン フーン) ヒヤス ユーケー
(A うん うん) 冷やす [と]言うから

岡山 30-2

ソリャー アノ ハタケー イレタ ホーガ エーンジャ。
それは あの 畑へ 入れた ほうが いいのだ。

(A フーン) ヘーデ アノー ヤマクサヤ アノー
(A うん) それで あの 山草や あの

ムギワラミタヨーナ モノナラナー タンボエ イレタラ
麦藁みたいな ものならな 田んぼへ 入れたら

エーンジャケド マー ソガン リクツドーリニ
いいのだけれど まあ そんなに 理屈どおりに

イカンケード。
いかないけれど。

92A: ウチニワ サンブンオ イレルケーナー。(B ウン)
私の家[の畑]には 蚕糞を 入れるからな。(B うん)

ハルノ サンブンオ ズーット マクケー。
春の 蚕糞を ずっと まくから。

アンタガタナー エー イロー シトルガ。
「あなたの家のは よい 色を しているよ。

ケッコーナガ ドーシタン ユーケー
きれいだよ どうしたの」 [と]言うから

ウチナー サンブンオ イレルモノー ユー。
「私の家のは 蚕糞を 入れるもの」 [と]言う。

イ サンブンモ モー アノー ウエル トキン
× 蚕糞も もう あの 植える 時に

イレナンダラ アイトニャー モー イレラレンモノー。
入れなかったら 間には もう 入れられないもの。

ウン。

うん。

93B：イレレン ア イレラレン。 ソリャー イレラレン。
入れられない ああ 入れられない。 それは 入れられない。

ウン。 ウン。

うん。 うん。

94A：ヒキコミニ イレナンダラナー。 シェージャケー
耕す時に 入れなかったらな。 それだから

アリョー イレルケー マー ワラノ カワリジャケー
あれを 入れるから まあ 糞の 替わりだから

(B ウン) オモーテ イレルケーナー。

(B うん) [と]思って 入れるからな。

(B ソーユー コトジャ。 ウン) フーン。

(B そういう ことだ。 うん) うん。

ヘージャケー マー。 デーショー イネガ
それだから まあ。 多少 稲が

岡山 30-4

95 B : アリヤー ムカシ ナニ スルナー
あれは 昔 なに[を] するのは

アリョー サ サンプン ユーンカノー。
あれを × 蚕糞 [と]言うのかな。

(A フーン) アノー サンプント ヘーカラ
(A うん) あの 蚕糞と それから

アノ サンザ[28]オ コー シバクサーヤ ヘーカラ
あの 蚕座を こう 柴草や それから

ワラト イッション シテ アノ タイヒニ ヒテ ヨー
藁と 一緒に して あの 堆肥に して よく

イリョーッタノー。
入れていたな。

96 A : ハー (B フン。 フン フン フン)
ああ (B うん。 うん うん うん)

ソージャローナー。 シェーガ イマゴラー
そうだろうな。 それが この頃は

クミトル[29]ガ ハェーモン。
発酵するのが 早いもの。

(B フーン。 フン ソージャ) ジョーソー[30]デ
(B うん。 うん そうだ) 条桑で

ズート シトルケー トル ジブンガ ハエー。
ずっと しているから とる 時期が 早い。

クミトルケーナー ハッコーシトルケー。
発酵しているからな 発酵しているから。

ムカシヤコー ショータンジャロー。(B フン) アノ
昔などは していたのだろう。(B うん) あの

トコゲー[31]シタ ヤツー
床替えした ものを

(B ジョーットナー アノ フン)
(B ジョーとな あの うん)

ナニュー シテ ショータケーナー。
なにを して していたからな。

97 B : シェーガ アレバー シタラナー (A フーン)
それが あればかり したらな (A うん)

トロットロシタヨーン ナッテ {笑} *** スクイモ
トロトロしたように なって {笑} *** すくうことも

ドーモ デキンヨン ナルンジャ。アノ
なんにも できないように なるのだ。 あの

(A ソージャローナー) フォーク[32]デ ヤルンガノー。
(A そうだろうな) フォークで するのにな。

(A アー ソージャローナー) ワ ワラヤ ヘーカラ

(A ああ そうだろうな) × 藁や それから

(A ホー。 ナニ イレニャー。 フン フン)

(A ほう。 なに[を] 入れなければ。 うん うん)

アノ シバクサー マジエテ シュナー。

あの 柴草を 混ぜて しなければ。

98A: ウチニャー ワカイ ソリャー マー ナニ サンプンオ

私の家では 若い それは まあ なに 蚕糞を

トッテ *** タンベー イリョールケー マー

取って *** 田んぼへ 入れているから まあ

デショー イ ナンモ イレンノンター チガウ。(B ンー)

多少 × なにも 入れないのとは 違う。(B うん)

ヘーカラ フヤー フ クサー ハヤシトルケー

それから 冬は × 草を 生やしているから

クサデモ ト ヨー トケテカラ {笑} ナニン ナルナー

草でも × よく 溶けて {笑} なにに なるのは

コエン ナルナー ナラー。アー。

肥料に なるのは なる。 ああ。

99B: マー アノ イニャー アノー ソーユー ナンジャケド

まあ あの 稲は あの そういう なんだけれど

アノ ムギワ アノ ヤッパシ アノー アーユー
あの 麦は あの やはり あの あのような

アラガエーオ シェナンダラ オエナーノー。
堆肥を しなかったら いけないな。

(A フーン ムギワナー) フン。 ヘージャケー
(A うん 麦はな) うん。 それだから

アノー ムギャー ハダゴエ ユ ユワーナー。
あの 麦は 膚肥 × [と]言うよな。

100A : フーン ソージャローナー。 アラゴエ
うん そうだろうな。 堆肥[を]

イレニャー オエン
入れなければ いけない

101B : ウン。 アラゴエオ ソバエー フッテータリャー ヨー
うん。 堆肥を 近くへ 振っておいてやれば よく

デキル ユーテ。 (A ウン) ウン。
できる [と]言って。 (A うん) うん。

30↑31

102A : ホデ マエータ オリニナー。 (B ウン)
それで まいた 時にな。 (B うん)

ヨー イリヨータガ。 ムギノ ウエー イレルノニ
よく 入れていたよ。 麦の 上へ 入れるのに

岡山 31-2

ツテカラ クムシテカラ モツテ カテーデ イキョータガー
といって 発酵させて 持って 担いで 行っていたよ

ムギュー ウエル ジブンニ。
麦を 植える 時期に。

103 B : ムギヤー エーケド アノー ナンダノー ムギガ
麦は いいけど あの なんだよな 麦が

ウレルント カエーコガ (A フーン) ゴレイ[33]リヤー
熟すのと 蚕が (A うん) 五齢では

ナニュー スルント コンダー アト タウエノ ヨーユー
なにを するのと 今度は あと 田植えの 用意を

スルナー アリヤー エレードノー アリヤー。
するのは あれは つらいよな あれは。

オー オー。 {咳}
うん うん。 {咳}

104 A : アリヤー エレーカラナー。 カイコー シテ
あれは つらいからな。 養蚕を して

ヘトヘトニ ナンジャー カイ カイアゲトンノー
ヘトヘトに なんだ ×× 飼い終わっているのを

コンダー ムギノ シェーコソ * ナンジャガ
今度は 麦の それこそ * なんだよ

岡山 31-3

サルダヒコガ モータヨーナ〔34〕 ムギン ナットル ヤツー
猿田彦が 舞ったような 麦に なっている ものを

コンド イチイチ コーヤッテ コーヨン スリヤー
今度 いちいち こうして このように すれば

ホガ パラーツ オッテシマヨータガナー。
穂が パラーと 落ちてしまっていたよな。

(B アー アー) アーヨーナノー トテ モドッテ。
(B ああ ああ) あのようなのを とって 帰って。

ヘーデ ヨソニヤー オーキナ ウシデ
それで よそには 大きな 牛で

ヒッパラスンジャケド ウチラニヤー コドモガ
引っぱらせるのだけど 私の家には 子どもが

オナゴンコバーノ ゴニン {笑} ヨニン シテカラ
女の子ばかりの 5人 {笑} 4人で して

ダイオ ヒッパラシテ ホンデモ ヨー モドツタモンジャガ
台を 引っぱらせて それでも よく 帰ったものだよ

シマノ ホーカラモ。 ヒッパッテ モドリョーツタ。
しまの ほうからも。 引っぱって 帰っていた。

105 B : オー アノー {咳} マー。
そう あの {咳} まあ。

イマー ダッコッキデー スルケー
今は 脱穀機で するから

(A ホーン イマゴラー モー)

(A そう この頃は もう)

アノ ツクッテモナー ツクルンモ ツ克蘭ケード
あの 作ってもな 作ることも 作らないけれど

ダッコッキデ ナニユー ショータケード アリヤー
脱穀機で なにを していたけれど あれは

ヨワリョータノー。

困っていたな。

106 A : ショー ソッリヤー ミヤシー[35]ケドナー ヨワリョータ
そう それは 易しいけれどな 困っていた

107 B : アノ コムギヤコー ヨケー ツクリョーリヤー
あの 小麦など 多く 作っていれば

(A フン) キョードーデ コギョータガナ。

(A うん) 共同で 脱穀していたよ。

ナンボーニモ アリヤ エラカリョータノー。 ノー
なんとしても あれは つらかったな。 なあ

アリヤー。

あれは。

108A：ソー エラカリョータドナー イヤー ホンニ。 マー トモ
 そう つらかったよな いやあ 本当に。 まあ ××

キョードーデ コギョータ ジブンオ ワタシャー
 共同で 脱穀していた 頃を 私は

シランケードガ ソノ ナン コエーデモラウンジャ
 知らないけれど その ×× 脱穀してもらうのだ

ケーデクル ケ コギン イッタゲル ユーテ
 ××××× × 脱穀しに 行ってあげる [と]言って

ニンブガ。(B ウン) ソリョー コエーデクレルノー
 人夫が。(B うん) それを 脱穀してくれるのを

キョーワ アメガ フッター ケー イカレン ユータラ
 今日は 雨が 降ったから 行かない [と]言う

ホンニ マタ イエン ナカエー オシコンデ
 本当に また 家の 中へ 押し込んで

カミノマカラ {笑} ニワノ (B フーン) ホーエー
 上の間から {笑} 庭の (B うん) ほうへ

イッパー コムギュー イレテ ソースリヤー
 いっぱい 小麦を 入れて そうすれば

アノ ツミ[36]ガ (B ソー ジャ {咳})
 あの つみが (B そうだ {咳})

ギョーサン ワク。 コクゾームシ ユーブンジャ。
たくさん わく。 穀象虫 [と]言うものだ。

アノ スミガ ギョーサン ワイテカラ
あの つみが たくさん わいて

イエジュー ハイマワル。 コマリョータケード。
家中 這い回る。 困っていたけれど。

109B : アリヤー ムギヤー テンコーガ アノー
あれは 麦は 天候が あの

(A サユースルデー ダューブンナー ＊)
(A 左右するよ だいぶんな ＊)

ホーン サーユースルケー ヨー アノ ムカシ
そう 左右するから よく あの 昔

ビールムギュー カッテ クサラエーテ タンボエ
ビール麦を 刈って 腐らせて 田んぼへ

イレタ コトガ アルシ ヘーカラ アノー ハタデ
入れた ことが あるし それから あの 畑で

アノー ムギガ タテッタナリデ ハエタ コトガ
あの 麦が 立ったままで 生えた ことが

アラーノー。
あるよな。

110A : ソー ジャ ハエタ コトガ アル。

そうだ 生えた ことが ある。

(B ウン ウン ウン) アリヤー ムギガ メヨー

(B うん うん うん) あれは 麦が 芽を

ダシタガ (B ウン) ハタケデナー。(B ウン)

出したよ (B うん) 畑でな。(B うん)

モー アコー ナッテシモーテ アエナ トキモ

もう 赤く なってしまつて あのような 時も

アッターナー。コムギガ モー ホンニ タンボデカラ

あつたよな。小麦が もう 本当に 田んぼで

31↑32

カーッテ エーテータラ シ アメガ フッテ モー

刈つて おいておいたら × 雨が 降つて もう

サツパリ メ メガ デテ トレンヨーン ナッタ コトガ

さっぱり × 芽が 出て とれないように なつた ことが

アルケーナー。

あるからな。

(B オー ソー ソー ソー ハエテノー)

(B うん そう そう そう 生えてな)

ハエテナー。アノジブンノ コムギヤー モー ミナ

生えてな。あの頃の 小麦は もう みんな

岡山 32-2

シテテ[37]シモーテカラ。 マー ホンニ テン ア
捨ててしまつて。 まあ 本当に ×××

111B：ヘージャケー アノー (A ヤッパシ) マー
それだから あの (A やはり) まあ

ベンリノ ワリー トコン モナー ツクラナー。
便利の 悪い ところの 者は 作らなければ。

ベンリノ エー (A ホーン) トコン モナー
便利の よい (A うん) ところの 者は

アノー バラバラート マエーテーテ (A ソージャ)
あの バラバラと まいておいて (A そうだ)

イマゴラー アノ コンバインカ ナンカ (A フーン)
この頃は あの コンバインか なんか (A うん)

ユー モンデ ヤルケーナー。 (A ソージャ) ウーン。
[と]いう もので するからな。 (A そうだ) うん。

112A：ヘージャケー ノーサクブツ ユー モナー イヨイヨ
それだから 農作物 [と]いう ものは いよいよ

テンコーガ サユースル。 (B ソリヤー ソージャ。 ウン)
天候が 左右する。 (B それは そうだ。 うん)

ホー。 モー テンコーニヨツテカラ (B ウン)
そう。 もう 天候によって (B うん)

モー テンコーノ サユーシェラレルナー アノグレー
もう 天候に 左右させられるのは あのくらい

サユーシェラレル モナー アリヤー シェナー。 ダエーブン
左右させられる ものは ありは しない。 だいぶん

ニンゲンガ ホニヨー オットッテモ〔38〕
人間が 骨を 折っていても〔＝苦勞していても〕

オエン。
いけない。

113B：コトシャー X 4 サンワ ウメー チョーシン
今年は X 4 さんは よい 調子に

イレタンジャローカ。
入れたのだろうか。

114A：フーン X 4 サンワ ウメー チョーシン。
うん X 4 さんは よい 調子に〔入れた〕。

(B ビールムギューノー) アリョーナー
(B ビール麦をな) あれをな

ビールムギュー マク ジブンニ シモノ
ビール麦を まく 頃に 下の

オイ アノ ナニガー X 9 サンガ
×× あの なにが X 9 さんが

X 4 サンワ ヤッチモネー〔39〕 モノー ウエテカラ
「X 4 さんは くだらない ものを 植えて

イマゴラー *** ビールムギヤコー ウヨール モンガ
この頃は *** ビール麦など 植えている 者が

ドコン オリヤー〔40〕 ユータ ユーテ X 4 サン
どこに いるか」 と 言って X 4 さん〔は〕

イラン シェワジャガナ。 ワシガー シトツモ
「いない 世話だよ。 私は 少しも

テゴー シテモラウンジャーナシ。
手伝いを してもらうのではないし。

ウエルダキヤー ウエテミルンジャ ユータラ
植えるだけは 植えてみるのだ」 〔と〕言ったら

カイコー カウター エカッタ ヨータ
「蚕を 飼うよりは よかった」 〔と〕言っていた

コトシャー。（B ウン ソージャロ）
今年は。（B うん そうだろう）

アッコニ チートバー。
あそこに 少しばかり。

115 B : アリヤー テンコー ツゴー ヨー ウゴクケーノー。
あれは 天候〔の〕 都合〔で〕 よく 動くからな。

(A ホーン) ウメー チョーシン ヤッタ コトシワ。

(A そう) よい 調子に やった 今年は。

116A : ホーン エーカッタ (B フン フン) コトシャー エカッタ
 そう 「よかった (B うん うん) 今年は よかった」

ヨータデ。 (B フン フン)

[と]言っていたよ。 (B うん うん)

カイコー コータター ヨカッタ ユーテ イヨータデ。
 「蚕を 飼ったより よかった」 と 言っていたよ。

ナガ ナガシューシェン[41] ミッカホドデ モー
 ×× 長く時間をかけず 3日ほどで もう

カリアゲタ ユーテカラナー。

刈り上げた [と]言ってな。

117B : アリヤー ヨー デキリヤー タンボエ アーヨン マ
 あれは よく できれば 田んぼへ あのように まあ

ベタ[42]ニ チカエーヨーニ ウエタラ ン
 べたに 近いように 植えると うん

アノー ジッピーョーグレー トレルカラナー
 あの 10俵くらい とれるからな

(A フーン) ビールムギノ バーイワナー

(A うん) ビール麦の 場合はな

(A フーン) シ ソリヤー。

(A うん) うん それは。

118A : フーン デーブ ウェットタンジャロー。ヘーケー ナンジャー
うん だいぶん 植えていたのだろう。 だから なんだ

ヘーデ アノ ナンジャロー アレモ
それで あの なんだろう あれも

テンサクニ ナルンジャロー? キューコーデンノ。
転作に なるのだろう? 休耕田の。

119B : ホン (A ***) ソリヤー ショー オモヤー
そう (A ***) それは しょう [と]思えば

ナルンジャ。
なるのだ。

120A : ナルンジャロー。(B フン) ヘージャケー
なるのだろう。(B うん) それだから

シトンジャロー。(B ウン) ヘーデ コンダー
しているのだろう。(B うん) それで 今度は

ナニカ ウエルンジャロ (B ウン) イマ ナニ
なにか 植えるのだろう (B うん) 今 なに[を]

ショールケー チョード イーワ ユーテカラ イヨータガ。
しているから ちょうど いいよ と 言っていたよ。

モ モモノ フクロカケガ スンデ スグジャケーナー。
× 桃の 袋掛けが 終わって すぐだからな。

カイコー カヨーランケー ジューニナルガ。
蚕を 飼っていないから 自由になるよ。

121 B : ソージャ。
そうだ。

122 A : テンキガ ヨカッタケーナー。(B フン フン {咳})
天気が よかったからな。(B うん うん {咳})

** コトシャー アノー ビールムギュー ツクッタ シトワ
** 今年は あの ビール麦を 作った 人は

ヨカッタローナー。ヨケー トットル ソリヤー。
よかっただろうな。多く とっている それは。

32↑33

123 B : マー X 4 サンモ アレー カジュー ショールケーナー。
まあ X 4 さんも あれ 果樹[栽培]を しているからな。

ソノー (A フーン) リョーホー デキンケー
その (A うん) 両方 できないから

ヤメタンジャロー カューコー ソノ。オン。
やめたのだろう 蚕を その。うん。

124 A : ホーン ソージャ。イーヤ シェーカラ クスリユー
うん そうだ。いや それから 薬を

ヤッパ スルケーナー カジュニ (B ウ ウーン)
やはり するからな 果樹に (B うん うん)

アッコノ。
あそこの。

125 B : ドーシテモ ナンヤカンヤデ ア イリマジリンナルケーノー。
どうしても なにやかにやで × 入り混じりになるからな。

126 A : ナルケーナー。 (B ウン) ヘージャケー モー
なるからな。 (B うん) そうだから もう

ヤメタンジャ。 *** クスリデ モー アノ ナニデ
やめたのだ。 *** 薬で もう あの なにで

キョネンノ クスリデ ミンナ モー
去年の 薬で みんな もう

チカラガ イットル[43]ンジャ
力が っているんだ[=たいへん苦労しているんだ]

(B {笑}) {笑} ホンニ。
(B {笑}) {笑} 本当に。

ヘーデ ヤメテシモータンジャ。 キョネン
それで やめてしまったのだ。 去年

マー クスリユー シテモローテ クツレーダノガ
まあ 薬を してもらって 安心したのが

岡山 33-3

ナンジャローデー ソネジャローデー。(B アー)
 なんだろうよ そねだろうな。(B ああ)

ソネニャー ヨソカラ クワー ヨシテカラ
 そねには よそ[の土地]から 桑を 寄せて

ケッコー トルンダケ (B ウン) トットルケド。
 結構 とれるだけ (B うん) とっているけれど。

シンダドコロジャーネー ヨケー トットル ソリヤー。
 死んだところではない 多く とっている それは。

(B ヨケー トッタ) フーン。
 (B 多く とった) うん。

127 B : マー アノー アエーガナー アノー クワヤージ
 まあ あの あれがな あの ×××××

クワヤリト カエーコカエーデ チガヨールワケジャ。
 桑やりと 蚕飼いで 違っているわけだ。

(A フーン) クワー ヤルバーショール モント
 (A うん) 桑だけを やっている 者と

ムシュー ミョール モナー コリヤー オカシー
 虫[=蚕]を 見ている 者は これは 変だ

オモーテ ミトンジャケー クワー ヤル モナー
 [と]思って 見ているのだから 桑を やる 者は

ナリョーテモ ヒョンナゲナナー ヒョンナゲナナー ト
 なっていても 変だな 変だな と[思って]

コー (A ウン) アノー オモテヤ ソネヤコーニャー
 こう (A うん) あの 表や そねなどには

コリャー アタツタト コーユー コトデ スグ
 これは 当たった[=影響した]と こういう ことで すぐ

カエトローガ。 (A ン ソージャ) ホー？
 換えているだろう。 (A うん そうだ) ほう？

(A アー カエタン スグ) オー カエタケー ヘージャケー
 (A ああ 換えた すぐ) そう 換えたから それだから

(A ウーン ヨカッタ) アノ ヨケー トレタンジャ。
 (A うん よかった) あの 多く とれたのだ。

(A ソージャ ソージャ) ウン。
 (A そうだ そうだ) うん。

128A：オモテラニャー ナニ チョット アッコノ ナンノ ホーガ
 表などには なに 少し あそこの なにの ほうが

チート アタツトッタバージャケーナー。
 少し 当たっていた[=影響していた]だけだからな。

(B アーン) ヘーデ モー スグ カエタケー。
 (B うん) それで もう すぐ 換えたから。

129 B : カエトッテジャケーナー。(A ウン) ソノ
換えなさっているからな。(A うん) その

オカシー オモーテ カエトッテジャ。
おかしい [と]思って 換えなさっている。

130 A : ウン。スグ カエタケーナー。ホカノ ホーエ
うん。すぐ 換えたからな。ほかの ほうへ

ヤットランケー (B ウン) イチバンニ
やっていないから (B うん) いちばんに

X10チャンニ キタンジャロー。(B ウン)
X10ちゃんに 来たのだろう。(B うん)

X10チャンガ ナニュー シタンジャ。
X10ちゃんが なにを したのだ。

131 B : アッコモ ヘージャケー アノ ス アノー
あそこも それだから あの × あの

ソーユー コトー テマーシ シトルケー
そういう ことを 手回し しているから

(A モー ト ワリエー トルナー トレタンジャ)
(A もう × 割合 とれることは とれたのだ)

ソーワ アー ユータホドニャー (A ホーン)
そうは ああ 言ったほどでは (A うん)

ナカッタラシーノー。
 なかったらしいな。

132A : ドンドン ユータホドニヤー
 どんどん [=やかましく] 言ったほどでは

ナカッタンジャローケド。 マー ホンニ ヨーザンオ
 なかったのだろうけど。 まあ 本当に 養蚕を

スリヤー マー ノーサクブツ ユーテカラニ
 すれば まあ 農作物 [と]言って

ノーギョー ユー モナー ヨーサンオ スリヤー
 農業 [と]いう ものは 養蚕を すれば

ヨーサン シテ ヒガイガ アルシ ンマー ホンニ
 養蚕[を] して 被害が あるし まあ 本当に

ナニュー ウエテモ テンコーガ サユーシテカラ
 なにを 植えても 天候が 左右して

ワリエー ヒガイガ オイーワーナー。
 割合 被害が 多いよな。

133B : シン マー シジェンオ アエーテノ ウーン
 うん まあ 自然を 相手の うん

134A : シー。 ヘーデモ キョネンワ カンバツニ ニヤワン
 うん。 それでも 去年は 旱魃に 似合わず

ワリエー トリミワ オイカッタデ コメワ。
割合 収量は 多かったよ 米は。

135 B : ソリヤー アノー カンパツン トシン ホーガ
それは あの 旱魃の 年の ほうが

オイーンジャ。(A フーン) ウン ウン。
多いのだ。(A うん) うん うん。

136 A : カンパツニ ニヤワナー (B ウン) コメワ オイカッタデ。
旱魃に 似合わずな (B うん) 米は 多かったよ。

ヘーケド マー デーショー チガウケード ソリヤー
それだけれど まあ 多少 違うけれど それは

33↑34

ワリアイ オイカッタ。キョネンラー ナンデ エー
割合 多かった。去年などは なんだ よい

ヒター デーブ アッタンジャローケドナー。
人は だいぶん あったのだろうけれどな。

137 B : ソ ソー ジャ (A フーン) ヤ
× そうだ (A うん) ×

ヤエートラン ヒトワノー
ひあがっていない[=旱魃に遭っていない] 人はな

ダエーブン トットル。
だいぶん とっている。

138A：ヤイトラン ヒトワ キョネンラー
早魃に遭っていない 人は 去年などは

ヨカッタラシーデー (B ウン) ヨケー
よかったらしいよ (B うん) 多く

アッタラシー。 ナー。 モー。 * ヒエテカラ
[収穫が]あったらしい。 なあ。 もう。 * 冷えて

ムシガ キタリ スリヤー モー サッパリ。
虫[=害虫]が 来たり すれば もう さっぱり。

ヤサイモンジャケー ユータ ユーテカラ タケー タケー
野菜物だから と 言って 高い 高い

ユーテモ ショーガネーガ。
[と]言っても しかたがないよ。

タケーケー ユーテ ウエテモ テンコーガ サユースルケー
高いから [と]言って 植えても 天候が 左右するから

トレナンダリ スリヤー サッパリジャ。
とれなかったり すれば さっぱり[だめ]だ。

139B：ヘーケー ヨケー トレリヤー
それだから 多く とれれば

ホーサクビンボー[44]デノー。
豊作貧乏でな。

岡山 34-3

140 A : ホーサクビンボージャ。(B ウン) アリヤー
豊作貧乏だ (B うん) あれは

モー ホンマニ ヒャクショーグレー ホンマニ
もう 本当に 百姓くらい 本当に

アホラシー コター ネー。ムコーガ
ばからしい ことは ない。向こう[=買う者]が

ネヨー ツケテカラ ヘーデ ウル モノガ ネヨー
値を つけて それで 売る 者が 値を

ツケテモラウン ネヨー ツケテ ウルンデネーモノナー。
つけてもらう 値を つけて 売るのでないものな。

(B ウン) ヘーデ カウナー ムコーガ
(B うん) それで 買うの[=時]は 向こう[=売る者]が

ネヨー ツケトルノー コッチガ カウンジャケー
値を つけているのを こちらが 買うのだから

ヒャクショーグレー ソンナ モナー アリヤー シェン。
百姓くらい 損な 者は ありは しない。

141 B : ソリヤー ヒャクショーワ ドンガ ショールケージャ。
それは 百姓は 鈍が しているからだ。

(A アー ドンガ ショールケー ンー イカン)
(A ああ 鈍が しているから うん いけない)

岡山 34-4

ドンビャクショー イオー ン? ホッ。
鈍百姓 [と]言うだろう ン? ほう。

142A: シューコソ ヒャクショーワ {笑} ナン
 それこそ 百姓は {笑} ××

ナンジャーナエーカ シェン カマクラジダイカラ
 なんではないか ××× 鎌倉時代から

ナ イカスコロサズデカラ シューコソ ジョジョニ
× 生かさず殺さずで それこそ 徐々に

ヤットルケー マー シニャー ヘナーナー。
 やっているから まあ 死には しないな。

(B ウン) ヘーカラ {笑} ナニユー

(B うん) それから {笑} なにを

(B ソリャー ショーショー アノー)

(B それは 少々 あの)

ボッコー ブゲンシャニモ ナレン。
 たいへん 財産家にも なれない。

143B: オー スワ オー スパローシュー[45] ナッタ
 そう ×× そう 不景気に なった

ユーテ ショーショーン コトジャー
 [と]言って[も] 少々の ことでは

マイリヤー ヘンド
負けは しないぞ

144A : エー {笑} ソー ソー
ええ {笑} そう そう

(B マイリヤー ヘンド。 オー オー)
(B 負けは しないぞ。 うん うん)

コッツギャキヤー シニヤー ヘン
//////// 死には しない

トコトンマデ イキヤー ヘナーナー。
とことんまで 行きは しないな。

マー ヒャクショー ユー モノワナー (B オー)
まあ 百姓 [と]いう ものはな (B うん)

シェーガ テンノ メグミ ユー モンカ
それが 天の 恵み [と]いう ものか

ジノ カミサマ ユー モンカ シランケード。
地の 神様 [と]いう ものか 知らないけれど。

145B : ケード マー イマゴロノ ワケー ヒトワ
けれど まあ この頃の 若い 人は

ヘージャケー ス エロー スカンワナー。
それだから × そんなに [農業を]好まないよな。

岡山 34-6

(A ホーン) ヘージャケド マー アノ アノー

(A そう) そうだけど まあ あの あの

カンキョートカナー シェツビトカ メグマレータ
環境とかな 設備とか 恵まれた

ジョータエーノジャー アノー ダイガクー
状態の[人]では あの 大学を

デタ ヒトヤコー ヤリヨーンナー エーヨン
出た 人など やっているな いいように

ヤリヨーテン ヒトモ アルラシード ソリヤー。
なさっている 人も あるらしいぞ それは。

ウーン フツーノ ナンヨリヤー ンー。
うん 普通の なによりは うん。

146 A : ソリヤー チガウ チガウ。 ンー モー ソリヤー
それは 違う 違う。 うん もう それは

サトノ ホーエー デテミナエー (B ウン)
町の ほうへ 出てみなさい (B うん)

ダイガクデバージャ。 (B ウン)
大学出ばかりだ。 (B うん)

ノーダイデバージャガ。 (B ウン) ズート
農大出ばかりだよ。 (B うん) ずっと

岡山 34-7

モー ヒャクショー ショーンノー マー エ
もう 百姓[を] しているのを まあ ×

シェーコソー アノー (B {咳}) イグサー
それこそ あの (B {咳}) イグサを

ゴタングレー ウエトル ヨーンジャ。
5反くらい 植えている [と]言っているのだ。

(B ウン) シェーデ イグサー カルノー
(B うん) それで イグサを 刈るのを

ナンカー カル モンガ アル ヨーンジャ。
なにか 刈る ものが ある [と]言っているのだ。

ヘーデ カル モンガ アッテカラ シテー コー
それで 刈る ものが あって 1日 こう

ホスダケデ アトワ カンソーキー カケルンジャ
干すだけで あとは 乾燥機に かけるのだ

(B ウン) ユーテ ハーットモネー[46]ンジャ
(B うん) [と]言って なんともないのだ

ユー。 シェーデ ワリエー オイーン
[と]言う。それで 割合 多い[時で]

サンジューマングレー トレル ユーンナー
30万[円]くらい とれる [と]いうことだな

タンデ。 イグサワ。 エー クサワ。 (B フーン)
反で。 イグサは。 よい 草は。 (B うん)

タンシュー サンジューマンカラ ヨンジューマンジコー
反収 30万[円]から 40万[円]近く

トレルンジャ ユータ。 キョネンラー
とれるのだ [と]言った。 去年などは

ヨカッタケー デーブ トレタ ヨータデ。
よかったから だいぶん とれた [と]言っていたよ。

34↑35

ジャケ ゴタン ウエトリヤー ニヒャクマンジャロー。
だから 5反 植えていれば 200万[円]だろう。

モー アター ネコロンデカラ ヘソテンデ ニョーテモ[47]
もう あとは 寝ころんで ヘそ天で 寝ていても

ラクジャ ユーン。 (B フーン)
大丈夫だ [と]言う。 (B うん)

ヘーデ コミョー トルケーナー ホカノ ナンノ ホーデ。
それで 米を とるからな ほかの なんの ほうで。

147B : ソージャ。(A フーン フーン) アトー コミョー
そうだ (A うん うん) あと 米を

トルケーノー。
とるからな。

148 A : ヘージャケー シ ナンジャー ソリヤー
それだから うん なんだ それは

(B {咳}) ヒャクショー ショール

(B {咳}) 百姓[を] している

シトモ モー オージカケデ ヤリヨーラ シホンガ
人も もう 大規模に していれば 資本が

キキヤナー ミンナ オーキナ ヒャクマンカラノ ンー
あればな みんな 大きな 100万[円]からの うん

ドーグー コーチャー イレテ ショールケード。
道具を 買っては 導入して しているけれど。

149 B : コノヘンデ アガーニ ド ドーグー コーテ
このあたりで あんなに × 道具を 買って

ショータラ アヤー ヘンデ。
していたら [採算が]合いは しないよ。

150 A : アウモンカ。(B ウーン) ニジューマングレン
合うものか。(B うん) 20万[円]くらいの

ドーグー コータンデモ ヒヨヒヨ オモヨール {笑}
道具を 買ったのでも ビクビク 思っている {笑}

オモヨールノニ ナ ナンネン カカラニヤー ハラエンカ
思っているのに × 何年 かからなければ 払えないか

オモヨールノー ナンガ ソガーナ
[と]思っているのに なにが そんな

アオーニ。

[採算が]合うだろうか[=合いはしない]。

151 B : アリヤー ウエニヤー オエンケー アノ ドーグー
あれは 植えなければ いけないから あの 道具を

コーテ ウヨールバーデ ソリヤ ソロバンオ
買って 植えているだけで それは そろばんを

ハジク ダンナリヤー {笑} ソリヤー
はじく 時になれば {笑} それは

アホラシーワーノー。 オー。
ばからしいよな。 うん。

152 A : アホラシー。 コーテ タベタ ホーガ ヤスー ツカー。
ばからしい。 買って 食べた ほうが 安く つくよ。

(B オー オー オー) ニンブチンカラ ナンカラ イヤ
(B うん うん うん) 人夫賃から なにから 言えば

ドーグデーカラ イヨーリヤーナー。(B ソージャ)
道具代から 言っていればな。(B そうだ)

ヘーデモ マー ウエトキヤー アンキナ
それでも まあ 植えておけば 安心だ

ユー コトダケデカラ ソリヤー ナンヤカンヤ
[と]いう ことだけで それは なにやかにや

ヘーデ アノ ナンジャガ デル ニットーカラ
それで あの なんだよ 出る 日当まで

カキョータラ ソリヤー コーテ クータ ホーガ
書いていたら それは 買って 食べた ほうが

ヤシー (B アー) ヤスー ツク。イマゴロ
安い (B ああ) 安く つく。この頃

コミヤー ナンボーデモ アルンジャモノ。
米は いくらでも あるのなもの。

ハイキューシェードン トキター チガウケーナー。
配給制度の 時とは 違うからな。

エー マー。 ヘーデ ムコーノ カンコーノーエンワ
ええ まあ。 それで 向こうの 観光農園は

ドガン ナルン。 デキルンカ アレン コージガ。
どんなに なるの。 できるのか あれの 工事が。

153B : ソリヤー ウシレー ヨル ワケニヤー イカンノジャロー
それは 後ろへ 寄る わけには いかないのだろう

ソリヤー。 アノー ダエータエー ケーカク
それは。 あの だいたい 計画[は]

デキトンジャロー。
できているのだろう。

154A：フーン。(B ウン) マー
うん。(B うん) まあ

ジュネンサキーグレーニャー デキューデーナー。
10年先くらいには できるだろうな。

155B：イヤ ソリャー アノ コトシ スルナー
いや それは あの 今年 することは

スンジャロー。マ ト トレルンガ ドーカ
するのだろう。まあ × とれるのが どうか

ユー コトト ヘーカラ アノー
[と]いう ことと それから あの

(A アー シュージャケード アッ) ゴネン
(A ああ それだけど ××) 5年

ゴネンシェニャー ソリャー トレルヨーニ
5年しなければ それは とれるように

ナランカラノー カジュワ。
ならないからな 果樹は。

156A：マー ソリャー ヘージャケードガ カジュワ チョットノ
まあ それは そうだけれど 果樹は 少しの

岡山 35-6

アイダジャケーナー。 ホンノ ミツキホドジャ。
間だからな。 ほんの 3か月ほどだ。

ナツカラ アキマデ。 ソノ アター モー
夏から 秋まで。 その あとは もう

フユグラエーワ モー ミナ アソバサニャー〔48〕
冬くらいは もう みんな 遊ばせなければ

オエンワー。 ナーンモ * シューニューワ
いけないよ。 なにも * 収入は

アリャー ヘナー ソリャー。 **
ありは しないよ それは。 **

157 B : ソリャー シューグラエー トレルナー トレルンジャ。
それは それくらい とれるのは とれるのだ。

エーヨン イキャー ソリャー。
いいように 行けば それは。

158 A : アソビョーリャー アスパシテモ エーヨーニ。
遊んでいれば 遊ばせても いいように。

159 B : オーン ソリャー ラクジャ。
そう それは 大丈夫だ。

160 A : ラクナグレー トレル？
大丈夫なくらい とれる？

161 B : エーヨーニ イタラ ソリヤー カマヤー ヘンワ。
いいように 行ったら それは 構いは しないよ。

162 A : ホンナー ワタシャー カジュニ キリカヨーカノ。
それなら 私は 果樹に 切り換えようかな。

{笑} イマカラ カエ カエータンジャー

{笑} 今から ×× 換えたのでは

オエマー。 {笑}

いけないだろう。 {笑}

163 B : ソリヤー ヤッパリ ギジツガ イラー。 ソノー
それは やはり 技術が いるよ。 その

164 A : {笑} ギジツモ イロー。 (B ウン)

{笑} 技術も いるだろう。 (B うん)

ギジツインオ イレルカ。 (B ウン) {笑}

技術員を 入れるか。 (B うん) {笑}

35 ↑ 36

ソリヤ サンマンエンホド カジュー トツテカラ ナンジャー

それは 3万円ほど 果樹を とって なんだ

ジューマンエンホド ハライヨーリヤー {笑}

10万円ほど 払っていれば {笑}

ソリヤー ラクジャロー。

それは 大丈夫だろう。

165 B : シュー ソ ソガン コトン ナッチャー オエン。
それ × そんな ことに なっては いけない。

ソリヤー アノ イマ アッコン X11ノデモ
それは あの 今 あそのの X11のでも

ミナ アノー ツギキュー シテー アノー ヒンシュー
みんな あの 接ぎ木を して あの 品種を

カエトロー。 (A フーン ソージャ) ナー。
変えているだろう。(A うん そうだ) なあ。

(A ミナ カエチャッタ フン) マー アッコランモ
(A みんな 変えなさった うん) まあ あそのの家も

アエーダケ ショーリヤー モー シュー ホカン コトー
あれだけ していれば もう それ ほかの ことを

ヤレン ヨーターノー。
やれない [と]言っていたな。

166 A : ホージャーナー。 モー ホカン コトー シューデモ
そうだな。 もう ほかの ことを しなくても

ラクンジャロー。 ヘージャケー ヒャクショーモ ソノ
大丈夫なのだろう。 そうだから 百姓も その

ヤリヨーニ ヨリケリジャ。
やり方に よりけりだ。

167B : ウン。 マー ダエータエーガ アソコワ X3チャン
うん。 まあ だいたいが あそこは X3ちゃん[が]

シェンギョージャーノー。 イマ ヘージャケー ミタニデ
専業だよな。 今 そうだから 三谷で

シェンギョーノ タテリデ イキョールンガ アノー
専業の方針で いるのが あの

X12サンガ タバコ シェンギョーデ イキョーラーノー。
X12さんが 煙草を 専業で いるよな。

(A ウーン) ソネガ マー ヨーザンオ

(A うん) そねが まあ 養蚕を

(A ヨーザンオ シェンギョーデ イキョール ン)

(A 養蚕を 専業で いる うん)

オー オー シェンギョーデ イキョール。 X13チャンガ
そう そう 専業で いる。 X13ちゃんが

ワケーケー ウシュー (A ウシジャ ギュー)

若いから 牛を (A 牛だ 牛)

オー ウシデ イキョール。

うん 牛で いる。

(A ウン ウシデ イキョールンナー)

(A そう 牛で いるよな)

岡山 36-4

ヘーカラ アノー クルマノ X14 X14サンガ モー
それから あの 車の X14 X14さんが もう

アノー カジュー シェンギョー アエーガ。
あの 果樹 専業 あれが。

(A カジュー カジュ イチエンデ イキョール) ア
(A 果樹を 果樹 全域で いっている) ×

マー シュー イナサクモ アルケードナー アレー イ
まあ それ 稲作も あるけれどな あれへ ×

168A：ソリヤー マー * イナサクモ アルケド
それは まあ * 稲作も あるけれど

オモガナー X 5 チャンラガ シュー
主にな X 5 ちゃんが それ

169B：ウーン イチヘクカラ アルケーノー。(A フーン)
うん 1ヘクタールから あるからな。(A うん)

ヘート カワカミデモ モー モ アノー カジュー
それと 川上でも もう × あの 果樹を

170A：ダエーブジャナー。アリョー イキヤーナー。
だいぶんだな。 あれを いけばな。

(B ホン ホン) カジュデ イキョールシ
(B うん うん) 果樹で いっているし

X13チャン カジュデ イキョール。(B ソージャ)
X13ちゃん[は] 果樹で いうている。(B そうだ)

フーン。ヘージャケー モー フリアエーガ
うん。それだから もう 割合が

アノ ノーギョー シェンヨーデ イキョール シトモ
あの 農業 専用で いうている 人も

オーキーノワ オル。
大きいのは いる。

171B：オン。オ オ アルテードナー アノ キソガ
うん。× × ある程度な あの 基礎が

ヨーナカロー。
よくないだろう。

172A：フーン。ヘーカラ X4 サンラガ アノ モー ヘー
うん。それから X4 さんたちが あの もう ××

カジュト ヘーカラ アーヨナ ナニデナー
果樹と それから あのような なにでな

(B ソージャ。ウン ウン) タンボデ
(B そうだ。うん うん) 田んぼで

イクケーナー ボツボツ。
[生活して]いくからな ほつほつ。

173 B : X 4 サン タンボガ エーシノー。
X 4 さん[は] 田んぼが いいしな。

(A フーン) ヘーカラ カジュー ショールカラナ。
(A うん) それから 果樹を しているからな。

174 A : モットルケーナー。 アッコラガ ナンジャー マー
持っているからな。 あそこらが なんだよ まあ

ノーギョー シェンヨー。 オーキー モナー ケッコー
農業 専用。 大きい 者は 結構

ノーギョー シェンヨーデ イキ イッテモ
農業 専用で ×× いっても

ラクナー ラクジャケード コマー
大丈夫なことは 大丈夫だけれど 小さい

ヒャクショー ユーテ ドッチーツカズ[49]ガ
百姓 [と]言って どっちつかずが

(B ドッチーツカズ) イチバン エレーガ。
(B どっちつかず) いちばん つらいよ。

ドッチーツカズノ ヒャクショーガ イチバン エレーガ。
どっちつかずの 百姓が いちばん つらいよ。

モー ホレ ヤメテシモーテ ナンジャー
もう ほら やめてしまって なんだ

岡山 36-7

モーケンパー デテモ エー ユーテ
勤めにだけ 出ても いい [と]言って[も]

モーケンパーモ デラレズ ドッチーモ ツカンノガ
勤めにだけでも 出られず どっちにも つかないのが

イチバン エレー。
いちばん つらい。

175 B : マー ワリエー ナーヤ ムズカシー。
まあ 割合 なあ 難しい。

176 A : ドーモ。
どうも。

36↑

岡山県小田郡矢掛町1979注記

〔1〕 クツレーダ

くつろいだ。安心した。苦労が少なくてよかった。

〔2〕 バケツクツギュー

バケツくつぎを。「バケツクツギ」は、バケツで水を何度も運ぶこと。

〔3〕 カレイル

「枯れいる」が原義で、「枯れてしまってボロボロになる」の意。

〔4〕 ツキジリブ

田から田へ順番に水が回ってくるようになっていところで、水が回ってくるのが遅れるいちばん下の田のこと。

〔5〕 ショーラシュースル

真面目によく働く。「ショーラシイ」とは、「まめな」とか「しっかりしていて賢い」の意。

〔6〕 シーローダ

水を溜めてもすぐなくなってしまう田のこと。

〔7〕 コッテウシュ

雄牛を。「コッテウシ」とは、重荷を負うことのできる強健な雄牛。

〔8〕 シコミ

仕込み。牛に「進め」とか「止まれ」とかしつけをすること。

〔9〕 モドロカシューテ

いらいらして。「モドロカシー」とは、言うとおりにしないのでいらいらする気持ちのこと。ほかに「イジイジスル」という同義語がある。

〔10〕 テーラー

耕運機の商品名と思われる。

〔11〕 ミルトモ

付き合い。「隣がするのでしかたなくする」という気持ちがある。

〔12〕 サビシー

寂しい。ここでは、収量が悪い状態のことをさして言っている。

- [13] イレジリ
イデジリ。「イデ」とは「堰」^{いせき}のことで、溝を堰き止めたところ。そのいちばん下（尻）を「イデジリ」と言う。
- [14] ヤケリヤー スマー
ひあがりはしまい。「ヤケル」は、「田や畑が水不足で不作になる」の意。
- [15] ヒヤケダ
日焼け田。「ヒヤケル」は、「田んぼに水がなくなってひからびる」の意。
- [16] マチ
区画されてある田。
- [17] チョット
「少し」「しばらく」の意のほか、「たいへん」の意もある。「チョットオーキー」（たいへん大きい）とか「チョット ヨク フッタ」（たいへんよく降った）のように言う。
- [18] カッタ
勝った。ここでは、「都合よくいった」の意である。
- [19] エー ヤンベー
よい具合。「よいあんばい」が原義。
- [20] カカル
入ってくる。水がその田や土地に流れてくることを、「ミズガ カカル」と言う。
- [21] ササゲ
ささげ豆。種子や若いさやは食用になる。
- [22] ガンズメ
手の形をした金属製のもので、草を生やさないように耕した。
- [23] ハッタンドリ
舟の形をした金属製のもので、こすって草を生やさなくした。
- [24] ヌリタ
塗り田。手で稲の株のほとりを塗り、草を生やさないようにすること。
- [25] エラカッタ
つらかった。「エライ」は、「苦しい」「つらい」の意。

〔26〕グスーナカッタ

楽ではなかった。「グスーナイ」は、「楽ではない」「易しくない」の意。
なお、「グシー」とは、「愚図」のこと。

〔27〕オシギリユ

押し切りを。「オシギリ」は、飼い葉や藁、草などを切る道具。

〔28〕サンザ

蚕座。蚕を飼う場所。

〔29〕クミトル

発酵する。蒸されて腐りかけの状態になる。

〔30〕ジョーソー

条桑育。枝についたままの桑の葉を与えて蚕を飼育する方法。

〔31〕トコゲー

床替え。蚕が糞をしたり桑の葉が残ったりしたものを取り除いて、新しいものに取り替えてやること。

〔32〕フォーク

フォークに似た農具。

〔33〕ゴレイ

五齢。「齢」は蚕の発育・大きさを示す単位で、「五齢」とは、4回目の脱皮をすませた蚕。

〔34〕サルダヒコガ モータヨーナ

麦の倒れている状態が、備中神楽の猿田彦が舞った時の髪の状態と似ているので、そのことをたとえて言ったもの。

〔35〕ミヤシー

ミヤスイ。易しい。簡単だ。

〔36〕ツミ

穀象虫のこと。穀物につく害虫で、米や麦の中に産卵し、幼虫は内部からこれを食べて育つ。

〔37〕シテテ

捨てて。「捨てる」ことを「シテル」とも言う。

- [38] ホニョー オットツテモ
骨を折っていても。「ホネオ オル」とは、「いろいろ手だてをする」「苦
労する」の意。
- [39] ヤッチモネー
ヤッチモナイ。くだらない。不必要。
- [40] ドコン オリヤー
反語を表す。「どこにいるだろう、いや、どこにもいない」の用法である。
- [41] ナガシューシェン
長く時間をかけず。「ナガシイ」とは、「長く時間がかかる」の意。
- [42] ベタ
すきまなく全体を埋め尽くすこと。
- [43] チカラガ イットル
力がいっている。「チカラガ イル」とは、「たいへん苦労する」の意。
- [44] ホーサクビンボー
豊作の時は値段が安くなりもうけにならず、むしろ損をするというよう
なことを言う。
- [45] スパローシュー
スパローシク。スバラシク。不景気に。「スバラシイ」は、「みすばらし
い」「不景気だ」「貧弱だ」「情けない」「憂うつだ」の意。
- [46] ヘーットモネー
ヘーットモナイ。ヘトモナイ。なんともない。
- [47] ヘソテンデ ニョーテモ
へそ天で寝ていても。「ヘソテンデ ネル」とは、なんの心配もなく寝る
ことを言う。寝ころぶとおへそが天のほうを向くことから、「ヘソテン」
と言う。
- [48] アソバサニヤー
遊ばせなければ。「アソバセル」とは、なにもしないで放っておくこと。
- [49] ドッチーツカズ
どっちつかず。「どちらにもつかない」というのは、ここでは、専業農家
でもなく農家ではないというわけでもない兼業農家のこと。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)～54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

(3) 調査内容

- ①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)
- ②老年層の男性2人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

③老年層の女性2人の対話，または，老年層の女性3人の会話（1時間）

④老年層と若年層との対話，または，両者を含む3人の会話（1時間）

⑤老年層の男性2人の，目上の者と目下の者の対話（2時間）

⑥場面設定の対話（1時間，各場面につき1～3分程度）

場面に応じて，老年層の男性2人の対話，または，老年層の男女各1人による対話

⑦当該地域に伝わる民話（1時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，

⑧老年層の女性2人の，目上の者と目下の者の会話，（1時間）

または，

⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，2人の対話（1時間）

を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表し得よう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡楡法華村(→函館市)
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

青森県

- 02a 下北郡川内町(→むつ市)
- 02b 北津軽郡市浦村(→五所川原市)
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町

02e 弘前市

岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町
- 04b 栗原郡築館町(→栗原市)
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村(→仙北市)
- 05d 河辺郡雄和町(→秋田市)
- 05e 湯沢市

山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町
- 06d 東田川郡朝日村
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町
- 07c 大沼郡昭和村

茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村(→常陸太田市)
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村(→鹿嶋市)
- 08e 古河市

栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町(→佐野市)

群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀬町
- 11f 入間郡大井町

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町 (→旭市)
- 12b 印旛郡印西町 (→印西市)
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町 (→佐渡市)

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村 (→南砺市)

石川県

- 17a 羽咋郡押水町 (→宝達志水町)

福井県

- 18a 坂井郡芦原町 (→あわら市)
- 18b 勝山市
- 18c 南条郡南条町 (→南越前町)
- 18d 敦賀市
- 18e 遠敷郡名田庄村

山梨県

- 19a 塩山市
- 19b 大月市
- 19c 韭崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曽郡開田村

岐阜県

21a 高山市

21b 大野郡白川村

21c 中津川市

21d 岐阜市

21e 揖斐郡徳山村 (→揖斐川町)

静岡県

22a 静岡市

22b 榛原郡本川根町 (→川根本町)

22c 磐田郡水窪町 (→浜松市)

22d 賀茂郡松崎町

22e 浜名郡新居町

愛知県

23a 北設楽郡設楽町

23b 西春日井郡師勝町

23c 岡崎市

23d 豊橋市

23e 常滑市

三重県

24a 安芸郡美里村

24b 阿山郡阿山町 (→伊賀市)

24c 志摩郡阿児町 (→志摩市)

24d 北牟婁郡海山町

24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

25a 長浜市

25b 高島郡安曇川町 (→高島市)

25c 神崎郡能登川町

25d 大津市

25e 甲賀郡甲賀町 (→甲賀市)

京都府

26a 中郡峰山町 (→京丹後市)

26b 舞鶴市

26c 船井郡丹波町

26d 京都市

26e 相楽郡山城町

大阪府

27a 高槻市

27b 大阪市

27c 八尾市

27d 河内長野市

27e 泉佐野市

兵庫県

28a 豊岡市

28b 朝来郡生野町 (→朝来市)

28c 神戸市

28d 相生市

28e 洲本市

奈良県

29a 大和郡山市

29b 宇陀郡榛原町

29c 五條市

29d 吉野郡下北山村

29e 吉野郡十津川村

和歌山県

30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町

30b 和歌山市

30c 御坊市

30d 田辺市

30e 新宮市

鳥取県

31a 鳥取市

31b 米子市

31c 日野郡日野町

島根県

32a 仁多郡仁多町 (→奥出雲町)

32b 出雲市

32c 浜田市

32d 隠岐郡西郷町 (→隠岐の島町)

32e 隠岐郡西ノ島町

岡山県

33a 勝田郡勝央町

33b 新見市

33c 岡山市

33d 小田郡矢掛町

33e 笠岡市

広島県

34a 三次市

34b 府中市

34c 広島市

34d 因島市

34e 安芸郡倉橋町 (→呉市)

山口県

35a 萩市

35b 大島郡大島町 (→周防大島町)

35c 徳山市 (→周南市)

35d 美祿市

35e 豊浦郡豊北町 (→下関市)

徳島県

36a 鳴門市

36b 阿南市

36c 美馬郡脇町 (→美馬市)

36d 海部郡海南町

36e 三好郡東祖谷山村

香川県

37a 小豆郡土庄町

37b 木田郡三木町

37c 丸亀市

37d 仲多度郡多度津町

37e 観音寺市

愛媛県

38a 越智郡大三島町 (→今治市)

38b 西条市

38c 松山市

38d 大洲市

38e 宇和島市

高知県

39a 室戸市

39b 高知市

39c 高岡郡檜原町

39d 幡多郡三原村

福岡県

40a 北九州市

40b 遠賀郡芦屋町

40c 築上郡新吉富村

40d 飯塚市

40e 嘉穂郡稲築町

40f 福岡市

40g 八女市

佐賀県

41a 東松浦郡鎮西町 (→唐津市)

41b 鳥栖市

41c 佐賀市

41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町 (→壱岐市)

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町 (→新上五島町)

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町 (→阿蘇市)

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町

大分県

44a 東国東郡国東町

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村 (→日田市)

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡頤娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

47b 那覇市

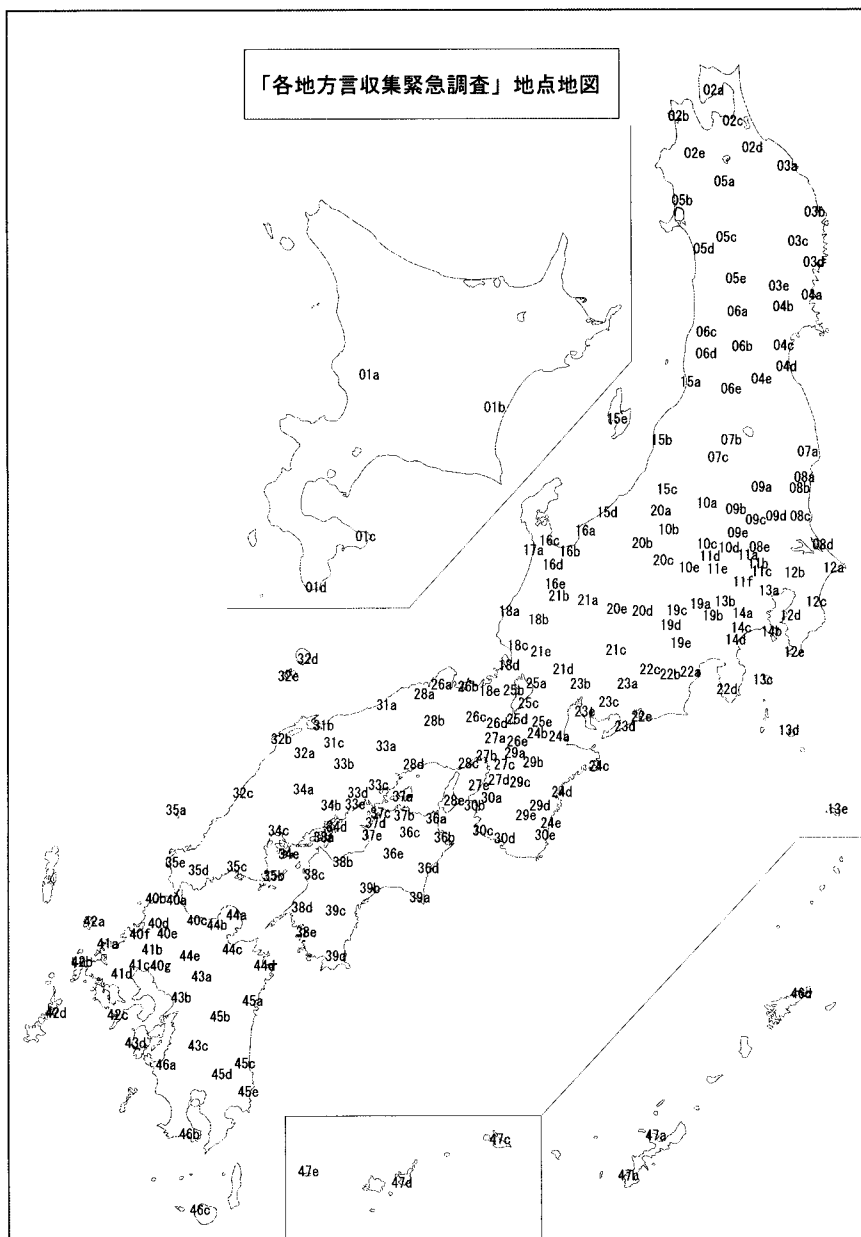
47c 平良市

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町

(2005.09.30.作成)

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2004. 06. 30. 作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56. 7. 29.

1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2. 調査県一覧

第1次 (S. 52~54)	第2次 (S. 53~55)	第3次 (S. 54~56)	第4次 (S. 55~57)	第5次 (S. 56~58)	第6次 (S. 57~59)	第7次 (S. 58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8 県	8 県	6 県	8 県	10 県	3 県	4 県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年 5 月 1 日
文化庁長官裁定
(昭和62年 6 月 1 日廃止)

1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

名称	対象経費の区分	項	目	目の細分	説 明
各 地 方 言 収 集 緊 急 調 査 事 業	主 た る 事 業 費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	〇〇謝金 〇〇文字化謝金 〇〇協力謝金 調査員、調査補助員等謝金
				旅費	資料 普通旅費 費用弁償 特別旅費
				需用費	野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会 消耗品費 印刷製本費 会議費 郵便、電信電話料等
				役務費	通信運搬費
			使用料及び賃借料	会場借上料 器具借上料	
			委託料	〇〇委託費	事業の一部を委託して実施する場合(特に認められた場合に限る)

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年 7月28日

文化庁次長 決 裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

2. 録音内容・話者

ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話

(2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話

(3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎではいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的に長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があることが多いので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分の又は60分の）を使用すること。

4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表しうよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつと記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話,又は,男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話,又は,老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話,又は,老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは、2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

○ ○ 県 各地方言収集緊急調査録音記録票	NO. 正 一〇 (副)	<div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; display: inline-block;"> 補助要項 の記号 </div>
1 採録地点		
2 採録年月日		
3 話題・時間	A面 () 分 B面 () 分	
4 話者	_____ _____	
5 採録機種	_____ _____	

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1)録音内容記録票、(2)収録地点とその方言の特色等解説(初年次のみ)、(3)録音文字化原稿の順で表紙(B4板目紙)を付けて綴ってください。

○	○
〇〇県(昭和 年度)	
各 地 方 言 収 集 緊 急 調 査	
文 字 化 原 稿	
(正)	
又	
は	
副	
調査地点	〇〇〇〇

(3) 文字化原稿の用紙

- | | | |
|------------|---|----------|
| ① 録音内容記録票 | } | (別紙のとおり) |
| ② 方言資料割付用紙 | | |
| ③ 方言調査解説用紙 | | |

調査実施上の留意事項について

1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1 年次	① 老年層の男女各 1 人による対話，又は，男女を含む 3 人の会話（ア－(1)）	10	2
	② 老年層の男性 2 人の対話，又は，老年層の男性 3 人の会話（ア－(2)）		1
2 年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性 2 人）（ウ）	10	2
	② 老年層の女性 2 人の対話，又は，老年層の女性 3 人の会話（ア－(3)）		1
3 年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
	③ 民話（オ） （民話が収録できないときは，（注）参照。）		1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の 2 人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1 部
副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2 部

(2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1 部
副……正のコピー 2 部

3 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

○ ○ 県 各地方言収集緊急調査録音記録票	NO. 正 _____ 副 _____ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 補助要項 の記号 </div>
1 採録地点 _____	
2 採録年月日 _____	
3 話題・時間	() 分
A面 _____	() 分
B面 _____	
4 話者 _____	

5 採録機種 _____	

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1)録音内容記録票、(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3)録音文字化原稿の順で表紙（B 4 板目紙）を付けて綴ってください。

○
○

○○県（昭和 年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

（正）
又
は
副

調査地点 ○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

- | | | |
|------------|---|--------|
| ① 録音内容記録票 | } | 別紙のとおり |
| ② 方言資料割付用紙 | | |
| ③ 方言調査解説用紙 | | |

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について (国語研・言語変化研究部でまとめたもの)

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の[]には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンター付きの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音のカタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) が行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kaŋami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ㇿ」（上つき小字のㇿ）を用いる。

例 マンド [maːdo]（窓）

カンゴ [kaːgo]（籠） —高知方言など—

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。

例 クワジ [kwaʒi]（火事） —九州方言など—

(オ) [ʃe] [dʒe] はシェ、ジェのように表わす。

例 シェナカ [ʃenaka]（背中） —九州方言など—

(カ) [ti] [di] はティ、ディ, [tu] [du] はトゥ、ドゥのように表わす。

例 トウキ [tuki]（月） —高知方言など—

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ、フィ、フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸeːbi]（蛇） —奥羽方言など—

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イエダ [jeda]（枝） —九州方言など—

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ、カエ、サエのように表す。

例 アカエー [akæ:]（赤い） —岡山方言など—

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア、ケア、セアのように表わす。

例 アゲア [age]（赤い） —奥羽方言など—

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ(注)→注 [kɕimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には_____線を付けておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを_____線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー(注)→注「カステクロエ」または
「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する（意識する）発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を_____線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には、_____線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように（ ）を利用し、発言

が重複する部分に 線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ[°]トモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレー) アト スク[°]イ モツテクツカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に 線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシェ マズ。 チョイット
ナカ[°]ス キター。

B イヤ イソガ[°]スインダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に××××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴジュ
ゴジュ××××××××エングラエージャツタカナ。

オ 笑い声などは文字化本文中に（ ）に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

- ⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを（ ）に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声の特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A 収録地点とその方言について

- 1 地点名
- 2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）
- 3 収録した方言の特色
 - ① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係
 - ② 音韻上の特色（モーラ表・音声の特徴）
 - ③ 文法上の特色（要点のみ。箇条書き）
- 4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての説明、判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室(当時)、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子(情報資料部門第一領域)である。所外研究委員として、佐藤亮一氏(東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所)、江川清氏(広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所)、田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部)、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、作成データベース名「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として、また、平成14(2002)年度からは、作成データベース名「全国方言談話データベース」、作成委員会名「全国方言談話データベース作成

委員会」として、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めている。作成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には、「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお、このデータベースの作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円
平成16年度	168037	7,000,000円
平成17年度	178036	6,500,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的良好に残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な

資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、談話内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の、文字化テキストと、それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行う

が、場合に応じて最低限の変更を加える。

- ⑨収録地点の概観，方言の特色などの解説については，原則としては原資料に従って行うが，全体の統一を図るため，表記・章立てなどについて，最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを作成する。さらに，それを pdf ファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを用いて，文字化の text ファイル，共通語訳の text ファイルを作成する。
- ⑬音声データは，サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit でデジタル化して，音声ファイル（wave 形式）を作成する。そして，それを，文字化と共通語訳を２段組に対照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROM は，データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。
- ⑮CD には，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地へ赴き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，または，音声はカセットテープ・MD，文字はFD を媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CD から成り，方言談話の音声（wave ファイル），文字化（カタカナ表記，text ファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，text ファイル），文字化・共通語訳を 2

段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として，熊谷康雄（情報資料部門），委員として，熊谷智子（研究開発部門第二領域），三井はるみ（研究開発部門第二領域），井上優（日本語教育部門第一領域），井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

刊行計画は下記のとおりである。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本の
ふるさとことば集成』 全20巻

各巻：冊子1冊 A5判 約250ページ，CD-ROM 1枚，CD 1枚

巻数	巻名	ISBN
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9

国立国語研究所資料集13-14

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成

第14巻 鳥取・島根・岡山

2004年3月30日 発行

編集：独立行政法人国立国語研究所

〒190-8561

東京都立川市緑町3591-2

TEL：042-540-4300（代表）

FAX：042-540-4339

URL：<http://www.kokken.go.jp>

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056

東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>

（平15-13）